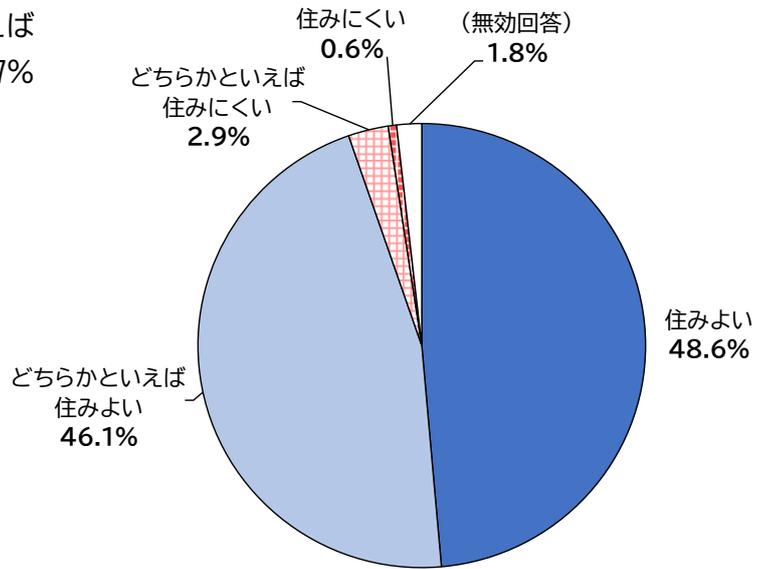


【良好な市街地について】

問 40) あなたは、調布市を住みよいまちだと思えますか。

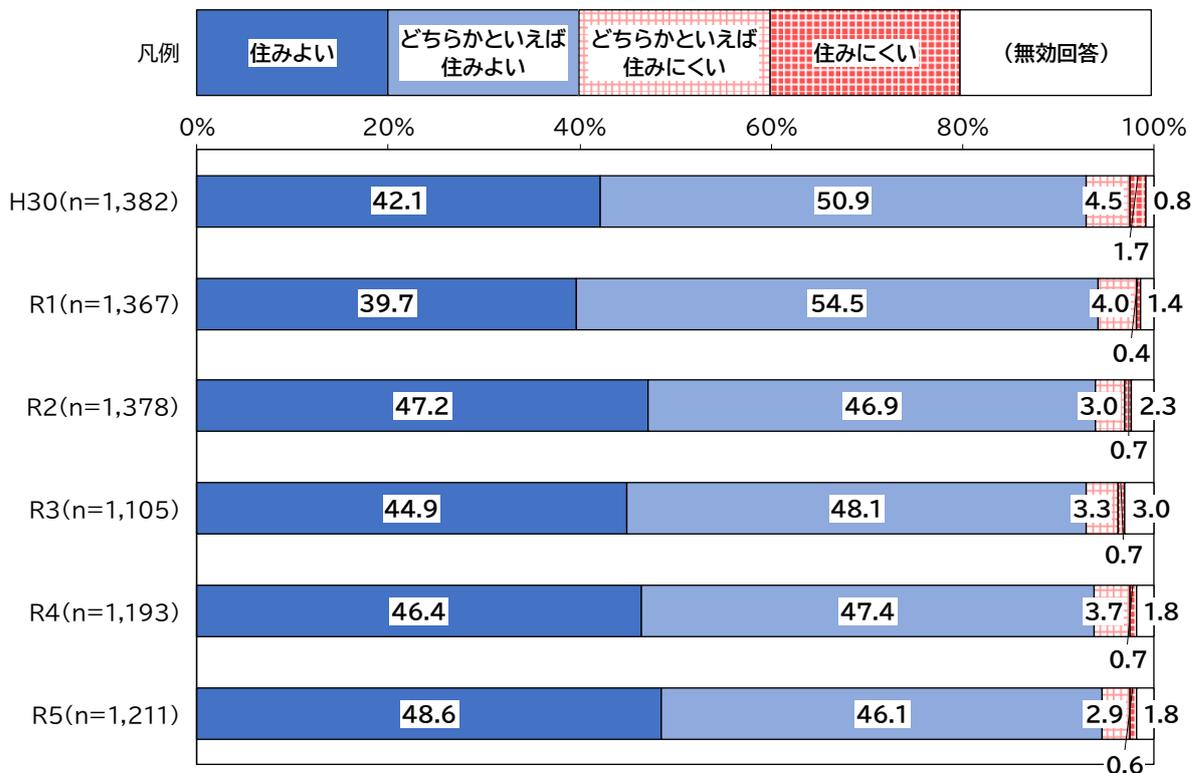
<全体 (n=1,211) >

- 「住みよい」は 48.6%、「どちらかといえば住みよい」は 46.1%であり、合計で 94.7%を占めています。



<経年比較>

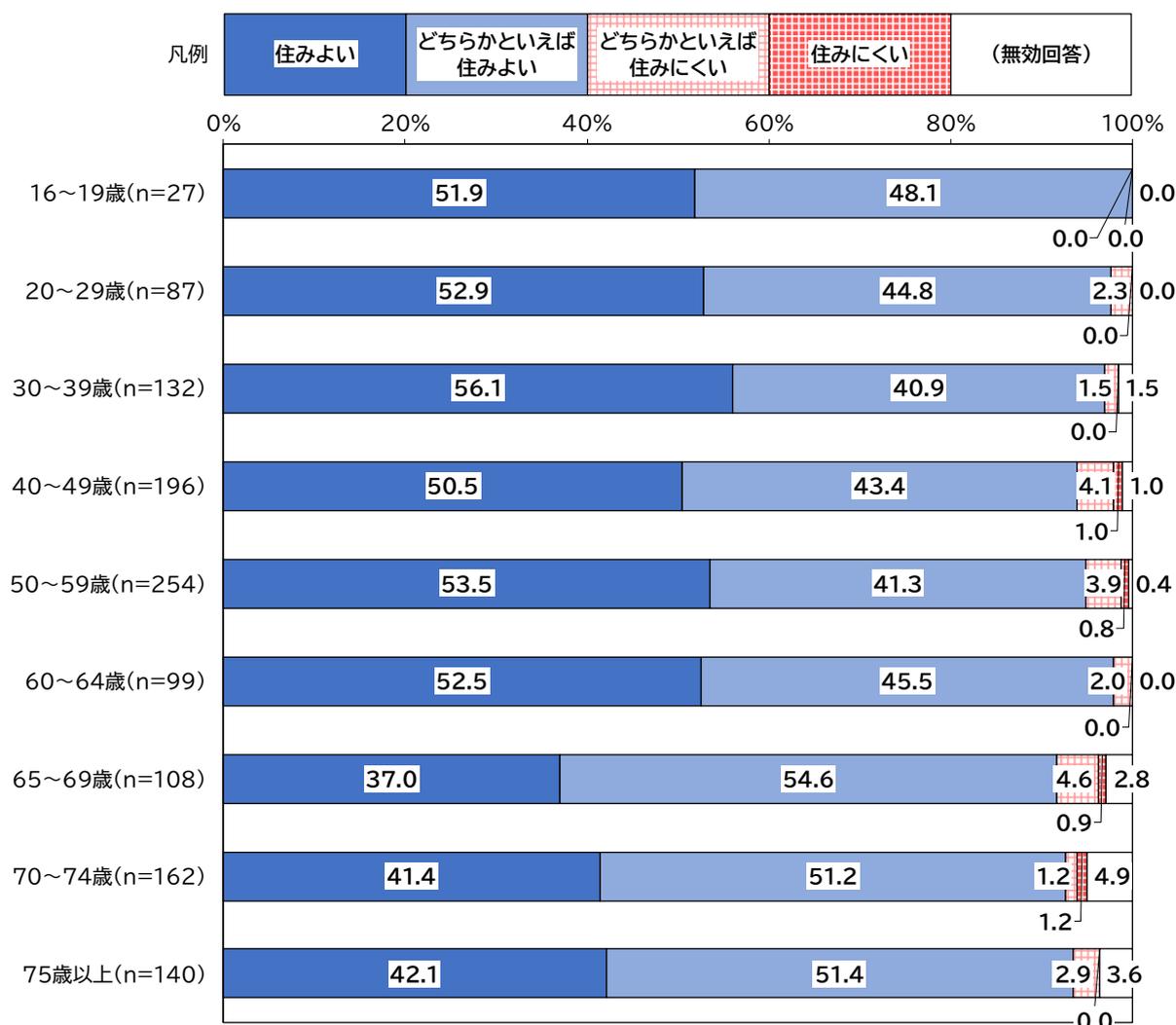
- 「住みよい」と「どちらかといえば住みよい」の合計は、平成 30 年度以降、いずれも 90%台で推移しています。



### 第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

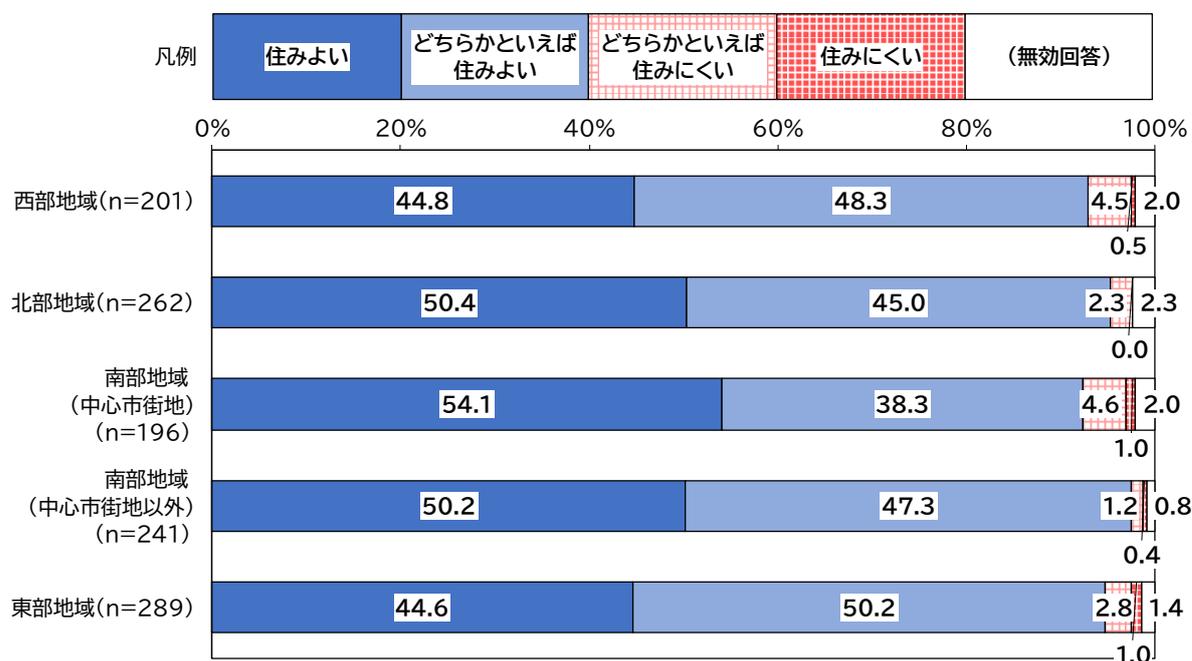
#### <年齢層別>

○いずれの年齢層も、「住みよい」と「どちらかといえば住みよい」の合計は90%台となっています。



#### <地域別>

○いずれの地域も、「住みよい」と「どちらかといえば住みよい」の合計が90%台となっています。



<自由記述> 主な意見を抜粋

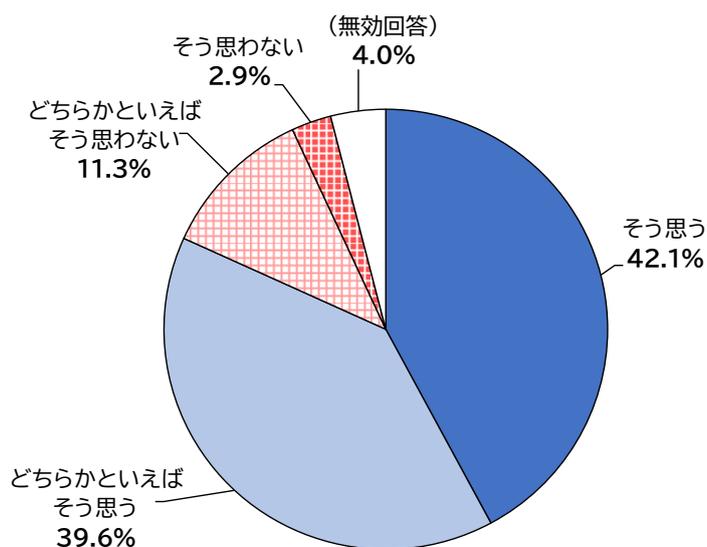
【図表 住みよい/住みにくいと思う理由】(226件)

「住みよい」「どちらかといえば住みよい」	「どちらかといえば住みにくい」「住みにくい」
<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通の便が良い。都心に近く、高速にもすぐ乗れる。</li> <li>・自然があり、深大寺や神代植物公園などがある。</li> <li>・買い物が便利。</li> <li>・病院が近くにある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私の住んでいるところは駅から遠く、開発されているのは駅周辺ばかり。離れたところにも目を向けて欲しいです。</li> <li>・駅が遠い。バスも遅延が多く、行きたい所にバスが通っていない。</li> <li>・歩きたばこが多い。車や自転車が歩道のない道で、スピードを出していて危ない。</li> </ul>

問 41) あなたは、調布市内に優れた景観の場所があると思いますか。

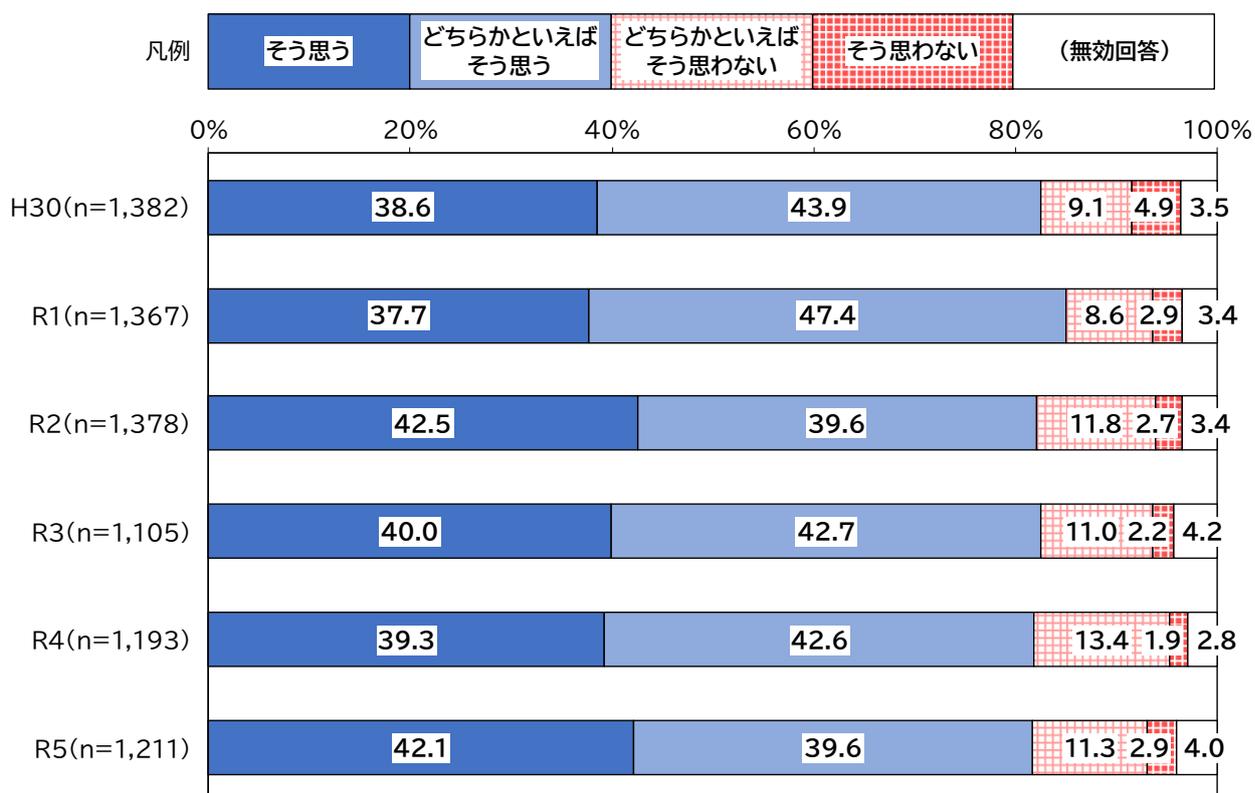
<全体 (n=1,211) >

○「そう思う」は 42.1%、「どちらかといえばそう思う」は 39.6%であり、合計で 81.7%を占めています。



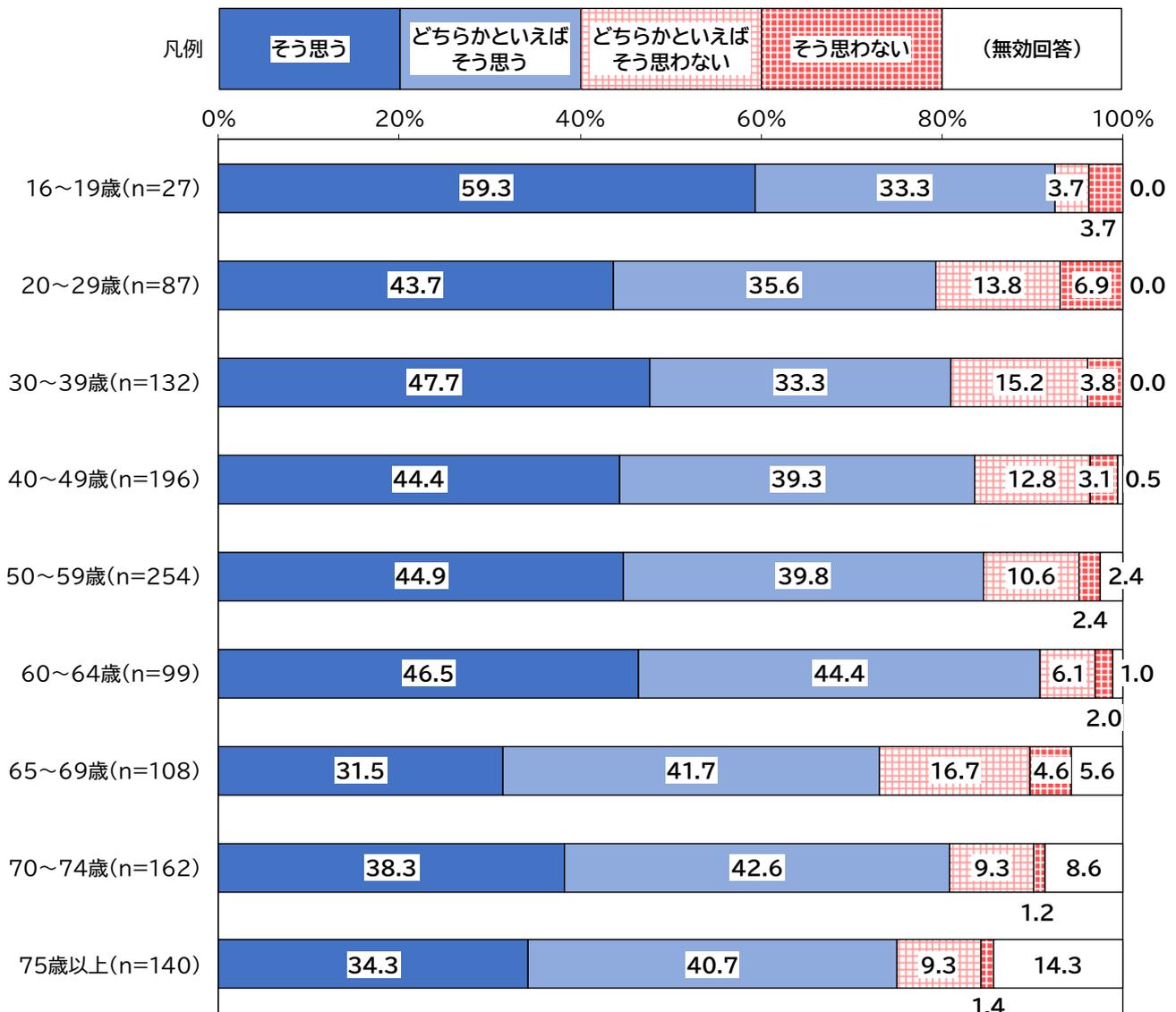
<経年比較>

○「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計は、平成 30 年度以降いずれも 80%台で推移しています。



<年齢層別>

○いずれの年齢層も、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計が70%を超えています。20～29歳、65～69歳で「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計が20%を超え、他の年齢層と比較して高くなっています。



<自由記述> 主な意見を抜粋

【図表 緑豊かなまちづくりや良好な景観づくりに関する施策についてのご意見・ご提案】(55件)

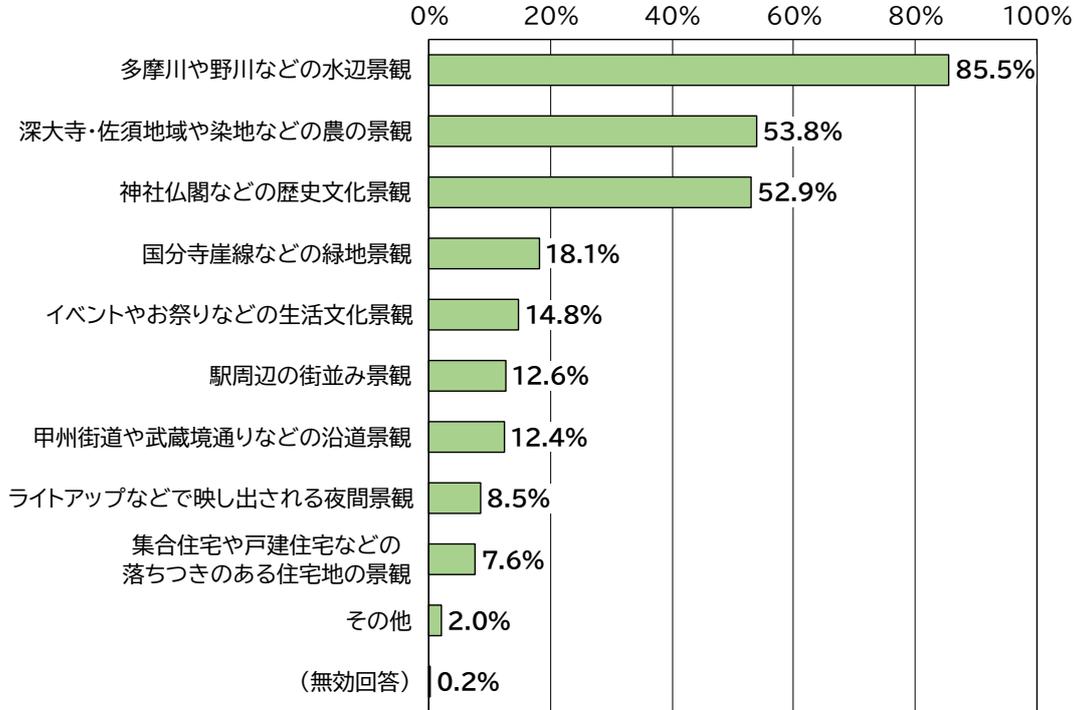
- ・野川の桜等倒木の恐れで伐採した樹木の後には、新しい樹木を植えて緑の景観を維持したい。
- ・市民による花壇活動のようなボランティア活動をもっと市が援助、協力して盛りあげるべきだと思います。外国でも他の調布市以外でももっと盛んに活動している所は行政の協力が必須です。
- ・街路樹の手入れがあまりよくない。
- ・夏の日差しを遮るために調布駅前広場に木を植えて欲しい。

第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

問 41-1) 問 41 で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した方にうかがいます。優れた景観だと思ふ場所はどこですか。

<全体 (n=990) >

○「多摩川や野川などの水辺景観」が 85.5%で最も高く、次いで「深大寺・佐須地域や染地などの農の景観」の 53.8%、「神社仏閣などの歴史文化景観」の 52.9%の順となっています。



<年齢層別>

○いずれの年齢層でも、「多摩川や野川などの水辺景観」が最も高くなっています。

選択肢	合計	16~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~64歳	65~69歳	70~74歳	75歳以上
全体	990	25	69	107	164	215	90	79	131	105
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
多摩川や野川などの水辺景観	846	18	54	82	138	184	84	67	116	98
	85.5%	72.0%	78.3%	76.6%	84.1%	85.6%	93.3%	84.8%	88.5%	93.3%
深大寺・佐須地域や染地などの農の景観	533	11	31	67	90	119	50	38	72	53
	53.8%	44.0%	44.9%	62.6%	54.9%	55.3%	55.6%	48.1%	55.0%	50.5%
神社仏閣などの歴史文化景観	524	14	25	47	83	117	60	42	70	62
	52.9%	56.0%	36.2%	43.9%	50.6%	54.4%	66.7%	53.2%	53.4%	59.0%
国分寺崖線などの緑地景観	179	3	4	9	21	41	21	18	29	33
	18.1%	12.0%	5.8%	8.4%	12.8%	19.1%	23.3%	22.8%	22.1%	31.4%
イベントやお祭りなどの生活文化景観	147	6	8	19	31	24	16	7	19	17
	14.8%	24.0%	11.6%	17.8%	18.9%	11.2%	17.8%	8.9%	14.5%	16.2%
駅周辺の街並み景観	125	4	15	15	28	25	10	8	9	9
	12.6%	16.0%	21.7%	14.0%	17.1%	11.6%	11.1%	10.1%	6.9%	8.6%
甲州街道や武蔵境通りなどの沿道景観	123	1	7	12	21	24	17	11	14	16
	12.4%	4.0%	10.1%	11.2%	12.8%	11.2%	18.9%	13.9%	10.7%	15.2%
ライトアップなどで映し出される夜間景観	84	4	4	8	13	17	10	5	13	10
	8.5%	16.0%	5.8%	7.5%	7.9%	7.9%	11.1%	6.3%	9.9%	9.5%
集合住宅や戸建住宅などの落ちつきのある住宅地の景観	75	4	6	10	18	13	4	5	11	4
	7.6%	16.0%	8.7%	9.3%	11.0%	6.0%	4.4%	6.3%	8.4%	3.8%
その他	20	1	1	4	4	2	1	3	0	4
	2.0%	4.0%	1.4%	3.7%	2.4%	0.9%	1.1%	3.8%	0.0%	3.8%
(無効回答)	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0
	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.5%	0.0%

(上段：実数 (人)，下段：構成比)

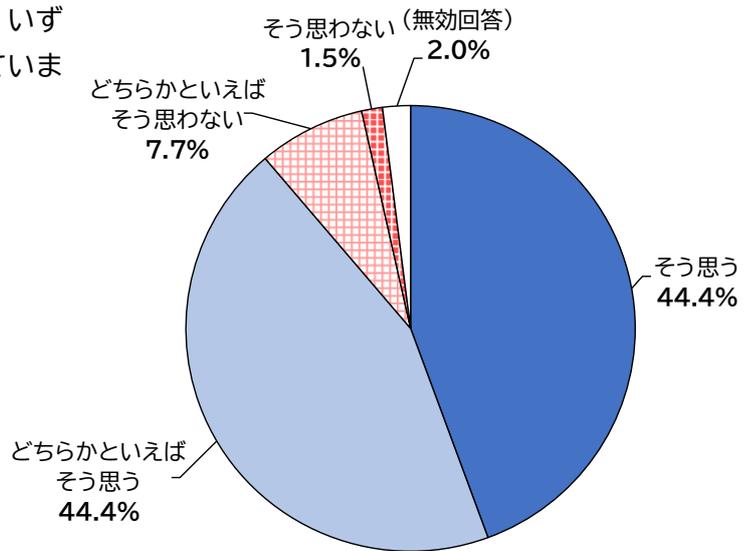
回答割合が最も高い：

回答割合が2番目に高い：

問 42) あなたは、深大寺周辺の景観が優れていると思いますか。

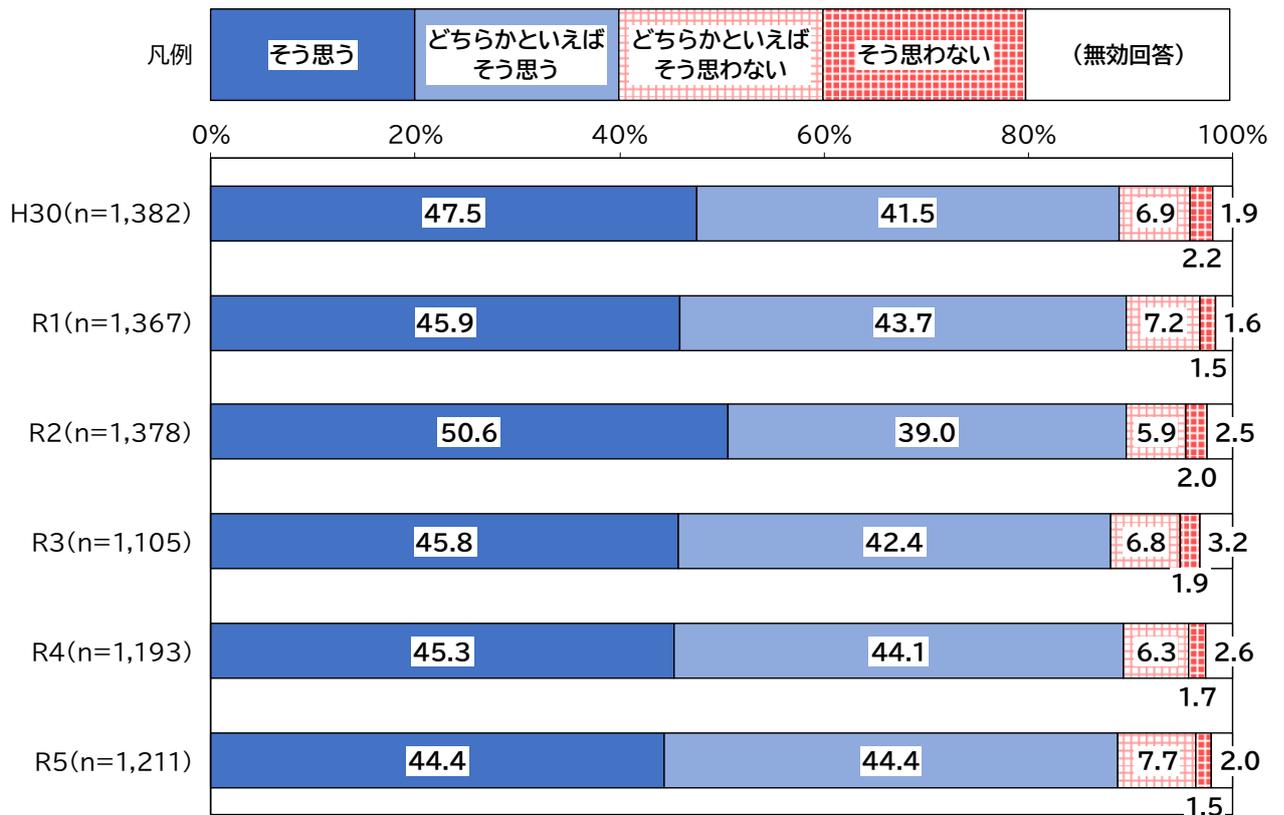
<全体 (n=1,211) >

○「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」いずれも 44.4%であり、合計で 88.8%を占めています。



<経年比較>

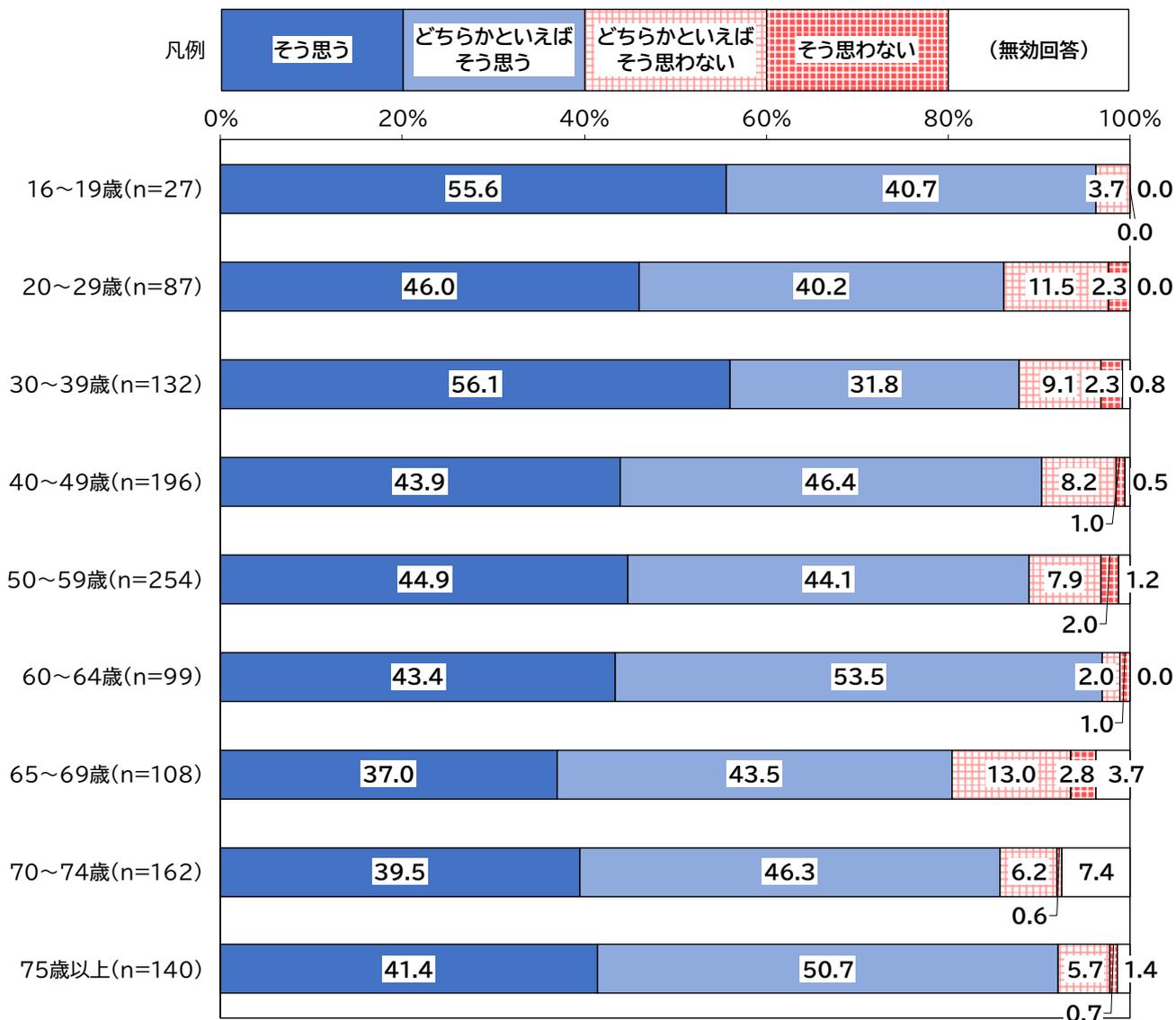
○「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計は、平成 30 年度以降、一貫して 80%台で推移しています。



### 第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

#### <年齢層別>

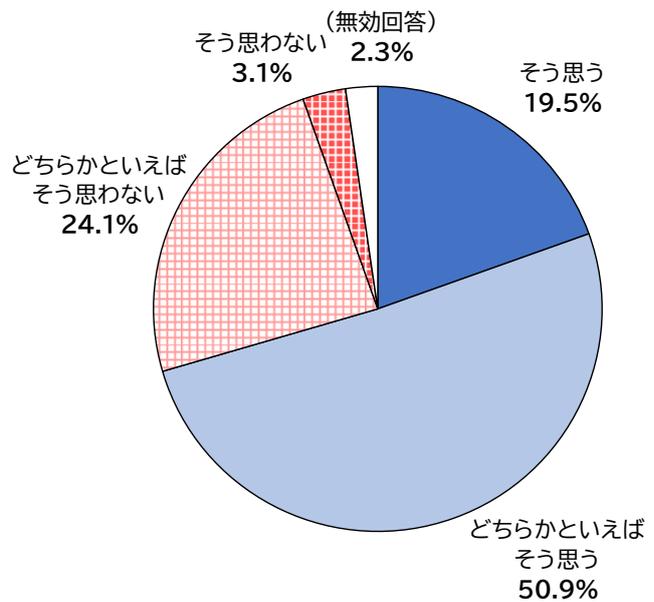
○60～64歳が、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計が96.9%と最も高く、次いで16～19歳の96.3%、75歳以上の92.1%の順となっています。



問 43) あなたは、中心市街地（調布・布田・国領駅周辺）が魅力的なまちであると思いますか。

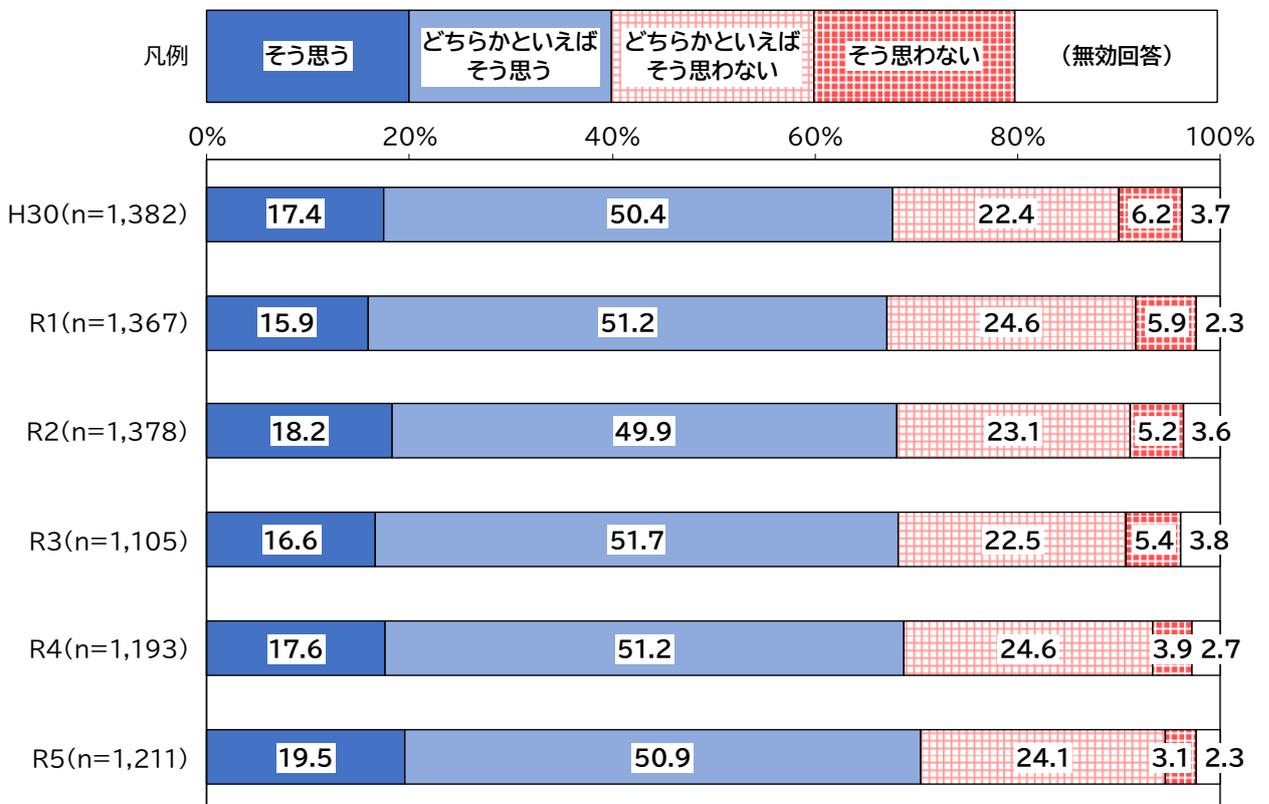
<全体 (n=1,211) >

○「そう思う」が 19.5%、「どちらかといえば  
そう思う」が 50.9%で、合計で 70.4%を占めて  
います。



<経年比較>

○「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計は、平成 30 年度以降、ほぼ横ばいで推移して  
いましたが、令和 5 年度（70.4%）は令和 4 年度（68.8%）に比べ 1.6 ポイント増加し、70%を超えま  
した。

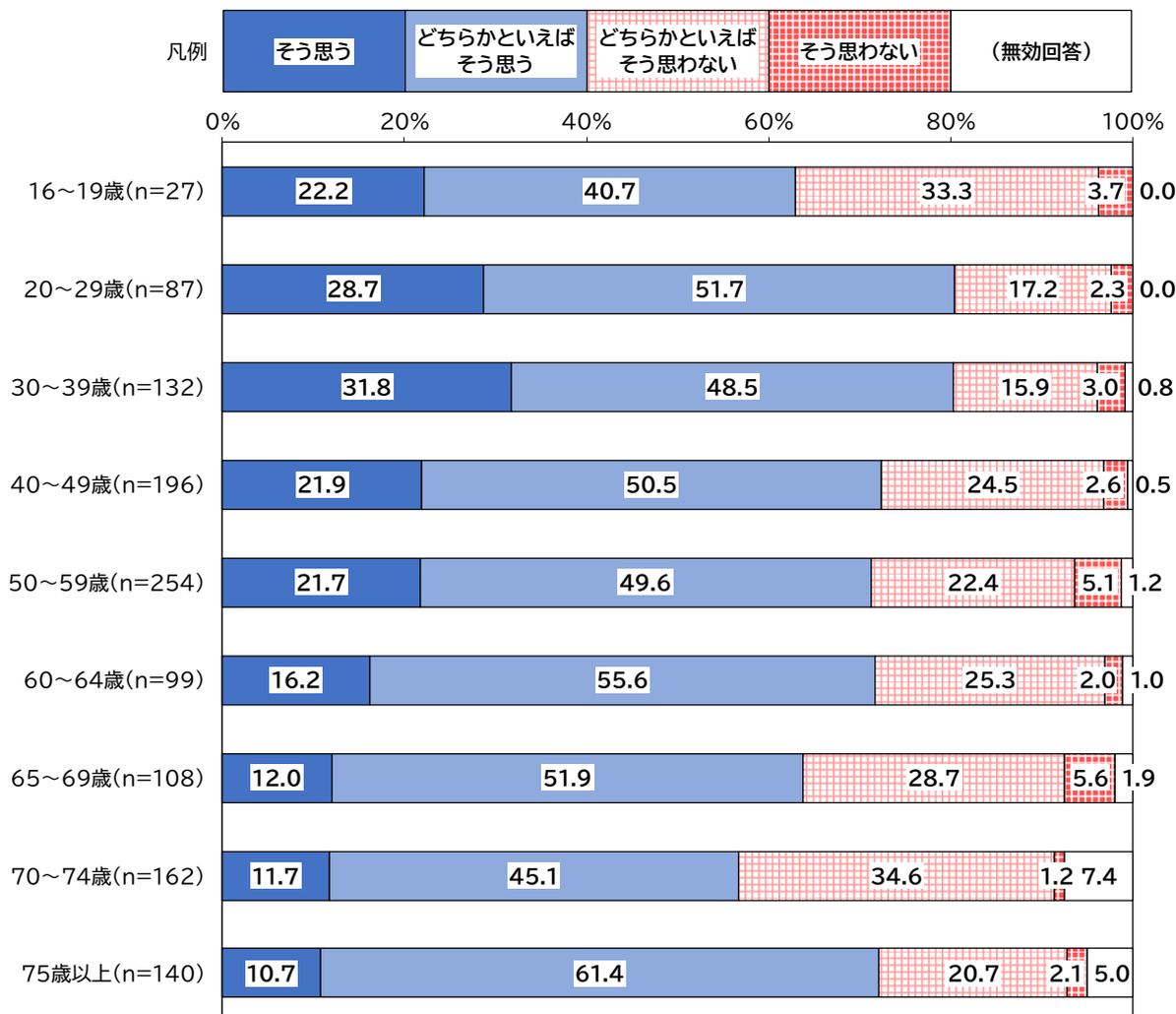


### 第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

#### <年齢層別>

○20～39歳で、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計が80%を超えています。

○16～19歳及び65～74歳では、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計が30%を超えており、他の年齢層に比べて高くなっています。



#### <自由記述>主な意見を抜粋

【図表 中心市街地（調布・布田・国領駅周辺）が魅力的な街であると思う/思わない理由】（297件）

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」	「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 都心から適度に近く、自然も多い。調布駅前では何でも揃うから。</li> <li>・ 若者が好むエンタメ的なものは少ないが、小さな子を持つ家族が穏やかに住むのに特化している感じが好ましい。夜のお店も少なく健全。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 布田、国領には店が少ない。</li> <li>・ 調布駅前には夜街灯が暗く陰気。布田駅は住民が生活する衣食住圏になっていない。国領駅前には高い建物は多いが風が強い。</li> </ul>

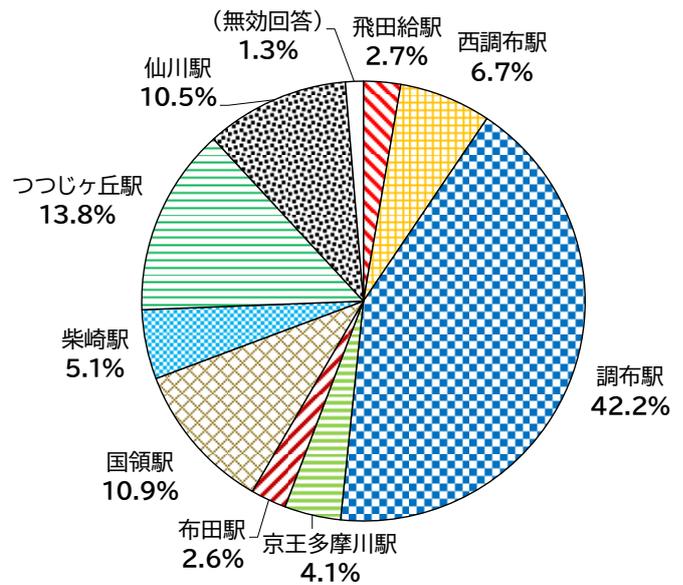
【図表 中心市街地のまちづくりに関する施策についてのご意見・ご提案】（145件）

- ・ 車道，歩道，歩道橋，駐輪場の整備。自転車のマナーが悪い。
- ・ 駅前周辺は栄えていますが，住宅地から買い物に出るのが不便。
- ・ にぎわい創出のためのイベント。農産物直売などの朝市などを増やしてほしい。
- ・ 都会にする必要はない。

問 44) あなたは、次のうち、普段どの駅を最も利用しますか。

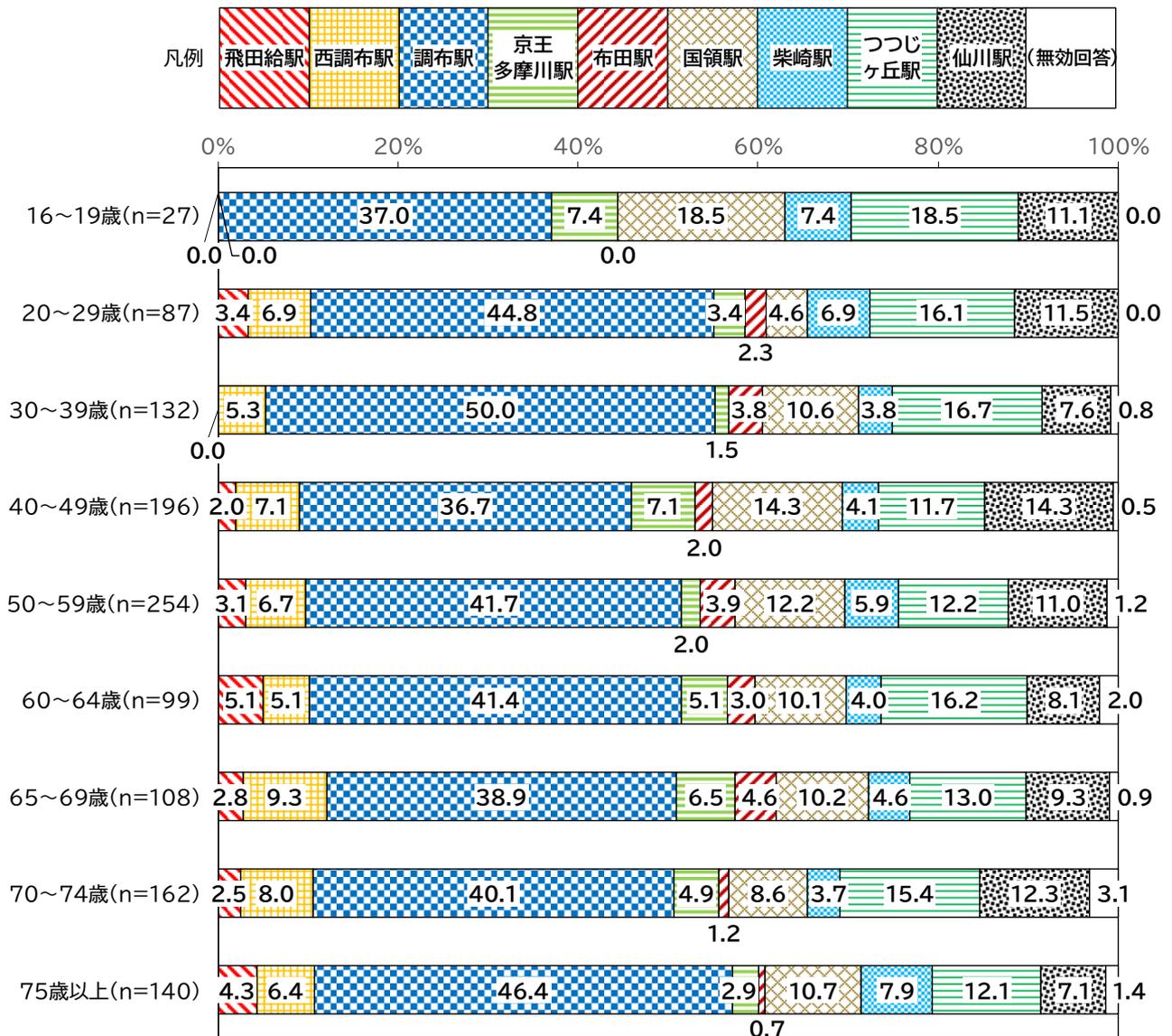
<全体 (n=1,211) >

○「調布駅」が 42.2%で最も高く、次いで「つつじヶ丘駅」の 13.8%、「国領駅」の 10.9%、「仙川駅」の 10.5%の順となっています。



<年齢層別>

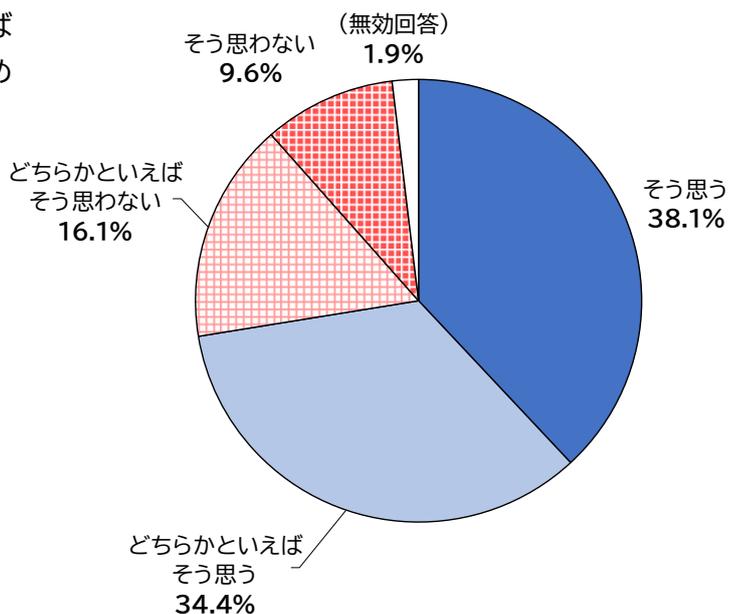
○いずれの年齢層も、調布駅が最も高くなっています。



問 44-1) あなたはその駅（普段最も利用する駅）の周辺は利便性が高いと思いますか。

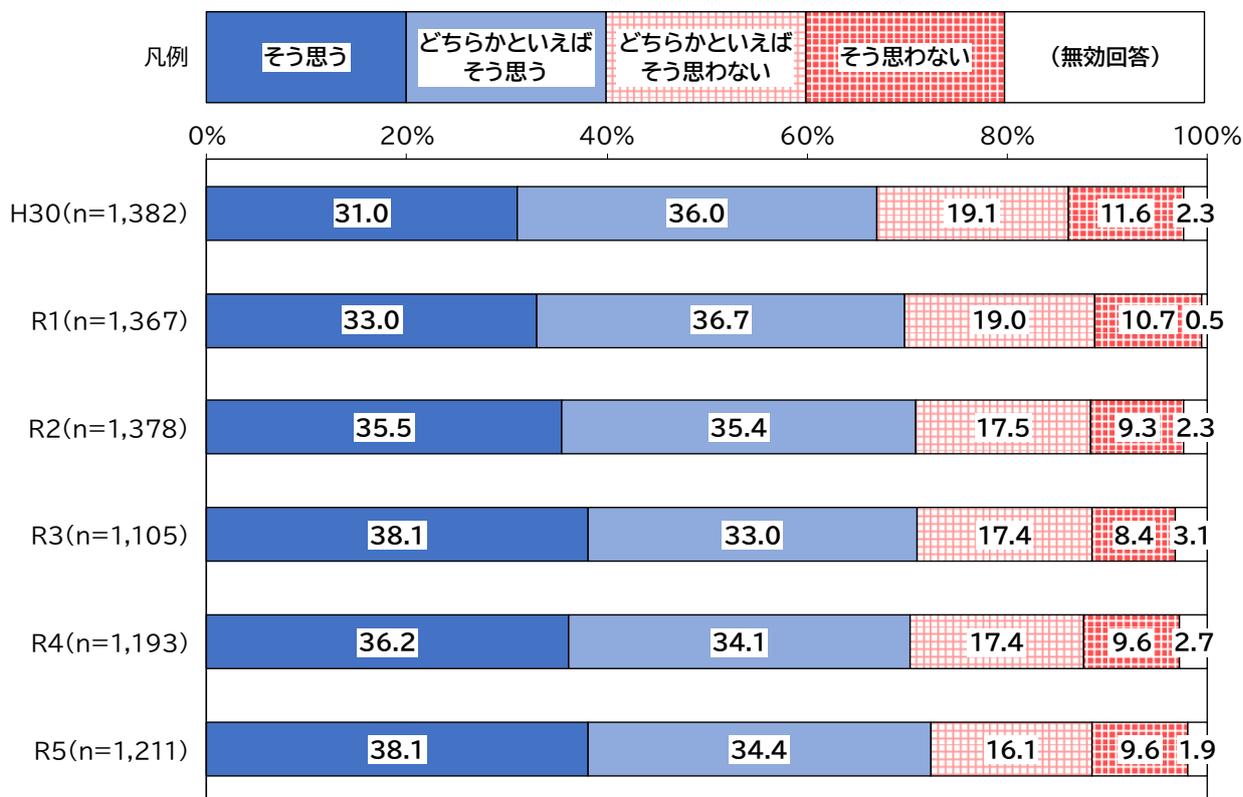
<全体 (n=1,211) >

○「そう思う」が 38.1%、「どちらかといえば  
そう思う」が 34.4%で、合計 72.5%を占め  
ています。



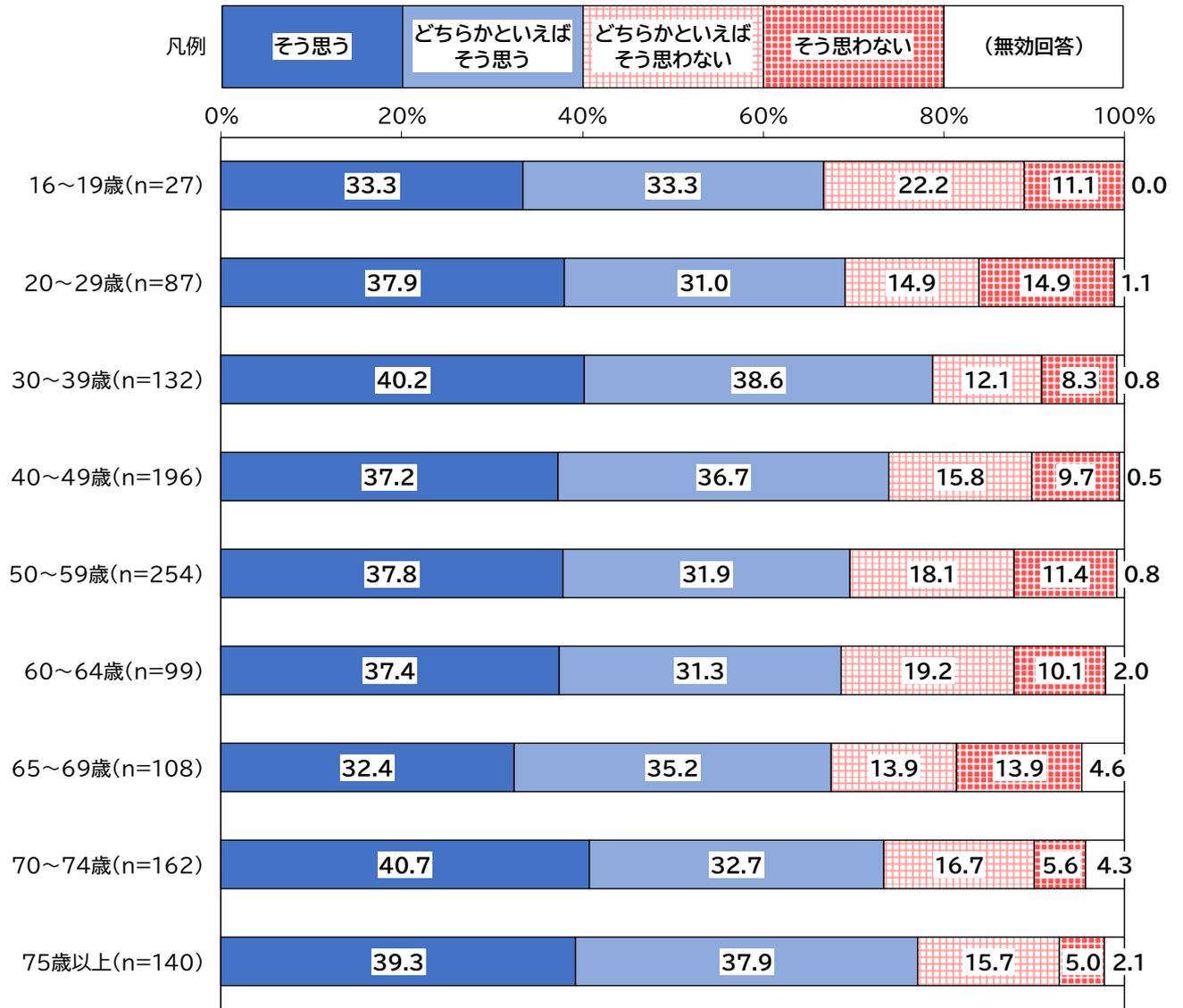
<経年比較>

○「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計は、令和元年度以降、約 70%で推移していましたが、令和 5 年度 (72.5%) は令和 4 年度 (70.3%) に比べ 2.2 ポイント増加しています。



<年齢層別>

○「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計は、30～39歳が78.8%と最も高く、次いで75歳以上の77.2%、40～49歳の73.9%の順となっています。

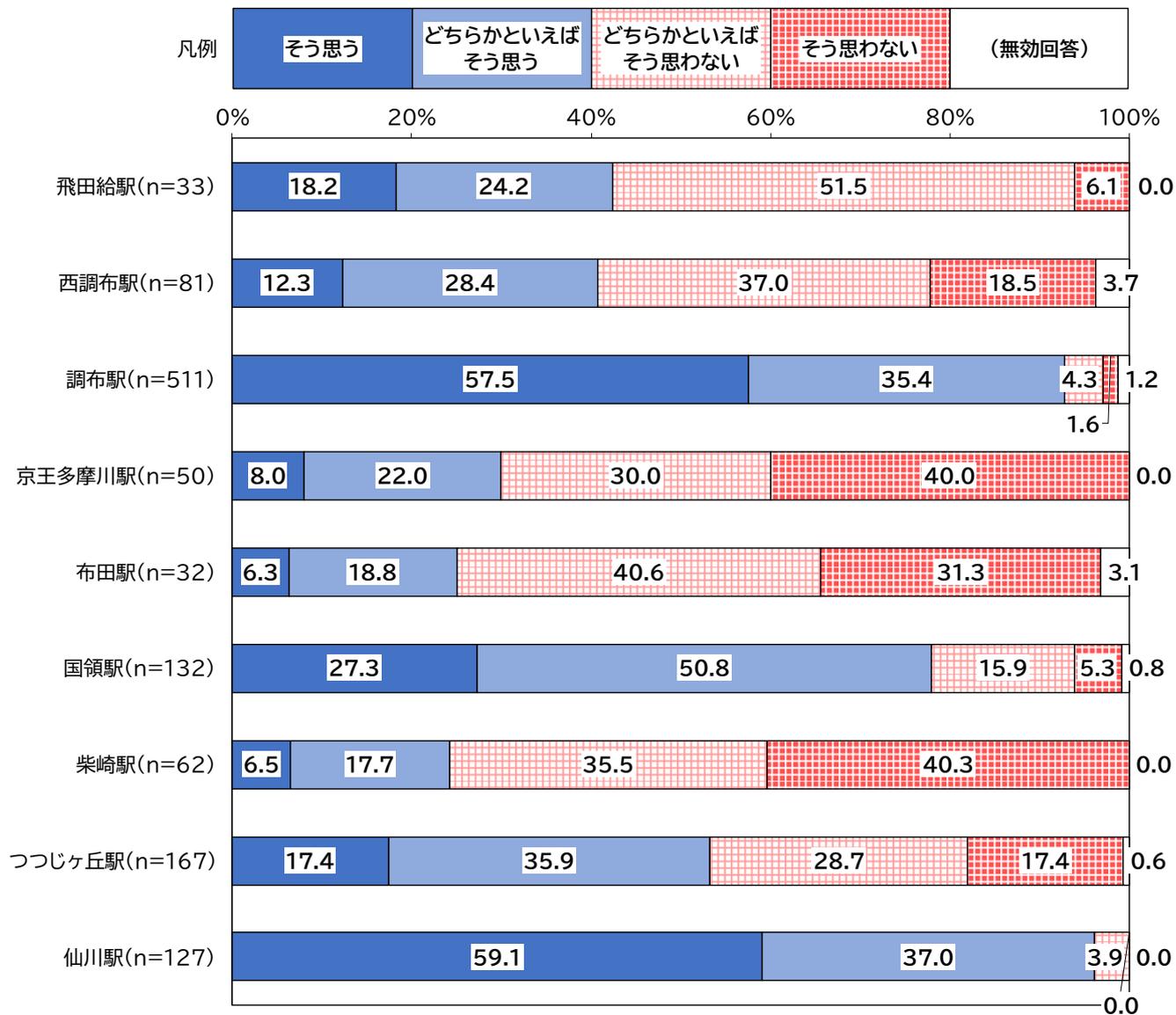


### 第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

#### <利用駅別>

○「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計は、「調布駅」及び「仙川駅」では90%を超え、「国領駅」では70%を超えています。

○一方で、「京王多摩川駅」、「布田駅」、「柴崎駅」では、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計が70%を上回っています。



## &lt;自由記述&gt; 主な意見を抜粋

【図表 普段利用する駅周辺のまちづくりについてのご意見・ご提案】(207件)

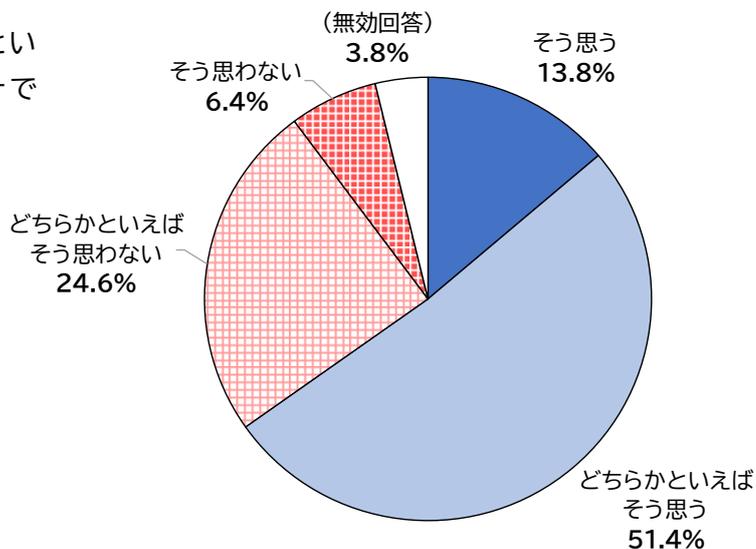
飛田給駅 (7件)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ スタジアムイベント時の来場者の食べ歩き，ポイ捨てを止めてほしい。</li> <li>・ 一時的に来るスタジアムのお客様のためだけの街づくりである。住んでいる人はうるさいだけ。</li> <li>・ お店が少ない，銀行がない。</li> </ul>
西調布駅 (16件)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ スーパーがない，道が狭い，自転車置場がない。</li> <li>・ シャッター駅前通りに近くなっている。買い物が出来ない。</li> <li>・ 必要な買い物はだいたい済むので満足している。駅から南の道が夜でも明るく安心している。</li> </ul>
調布駅 (60件)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地下道を作って雨に濡れず動けるように，市役所，グリーンホール，●●等に通じてほしい。</li> <li>・ 北口ロータリーのバス停と南出口の間が狭く，通路として通れない。拡張して人が通れるようにしてほしい。</li> <li>・ ロータリー屋根が商業施設までつながっていないので雨で濡れる。屋根をつなげてほしい。</li> <li>・ 旧甲州街道の横断が不便。駅へのアクセスが細く混雑する。アクセスルートをもっと太くして欲しい。</li> </ul>
京王多摩川駅 (15件)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ エスカレーター，エレベーターがない。</li> <li>・ 駅周りに商店，スーパーがない。</li> <li>・ ●●が失われたことは残念。それを補う住みやすい緑の多い便利なまちづくりを期待します。</li> <li>・ ●●跡地の開発が進んでいない。早く進めてほしいです。</li> </ul>
布田駅 (6件)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 駅近くにスーパーがあると便利だと思います。</li> <li>・ 商工会議所等があるならば，その辺がイニシアチブをとり市役所などと連携して有効なイベントの企画，魅力あるテナントの誘致などテーマを決めて進めるべき。何か無策・無テーマの感じがする。</li> </ul>
国領駅 (18件)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 乗り継ぎが悪すぎる。</li> <li>・ 駅前広場がいまいち活用出来ていないので，車で雨の日駅への送迎が出来るように，一時駐車できるようにロータリー広げてほしい。</li> </ul>
柴崎駅 (29件)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 開かずの踏切問題を解決して欲しい。</li> <li>・ 買い物が不便。</li> <li>・ 国領，布田，調布のように再開発して欲しい。特に歩道が狭い。</li> </ul>
つつじヶ丘駅 (45件)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 駅周辺，銀行もなくなり大型スーパーもなく，生活雑貨を含めて買い物に不便。</li> <li>・ バスの本数，系統を増やしてほしい。</li> <li>・ 京王線の高架化や地下化から取り残されており，開かずの踏切の解消が程遠い。</li> </ul>
仙川駅 (19件)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 駅前には広がり大木も茂り，ネオンサインも目立たず駅に降りるとホッとします。</li> <li>・ 駅前の違法駐輪の是正。</li> </ul>

【道路・交通について】

問 45) あなたは、市内の道路について、道路の利用者が目的地まで行きやすく、利便性の高い道路ネットワークが形成されていると思いますか。

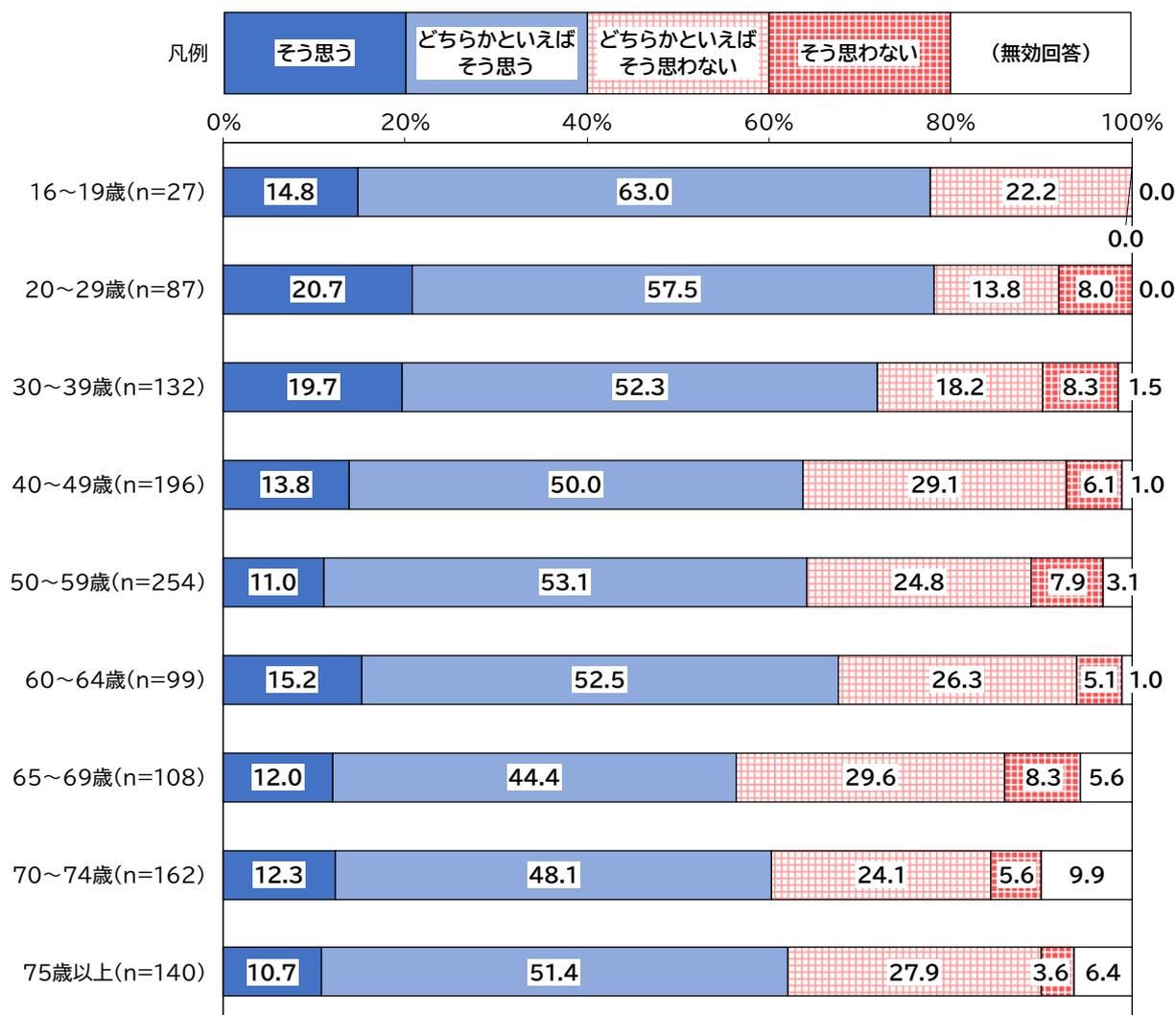
<全体 (n=1,211) >

○「そう思う」が 13.8%、「どちらかといえばそう思う」が 51.4%で、合計で 65.2%を占めています。



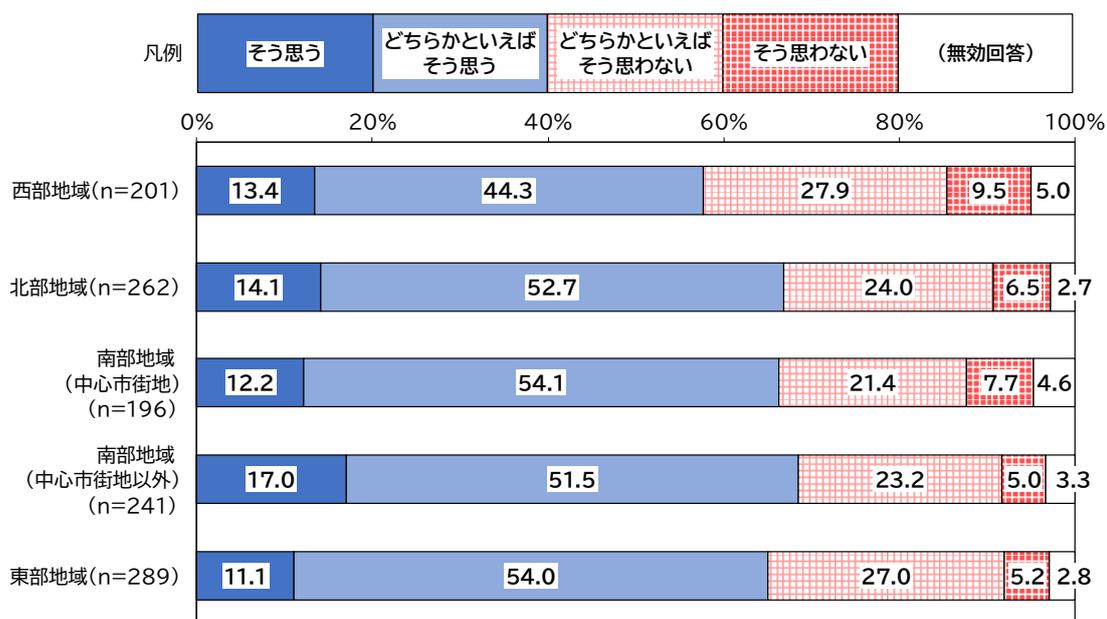
<年齢層別>

○20～29 歳が、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計が 78.2%で最も高く、次いで 16～19 歳の 77.8%、30～39 歳の 72.0%の順となっています。



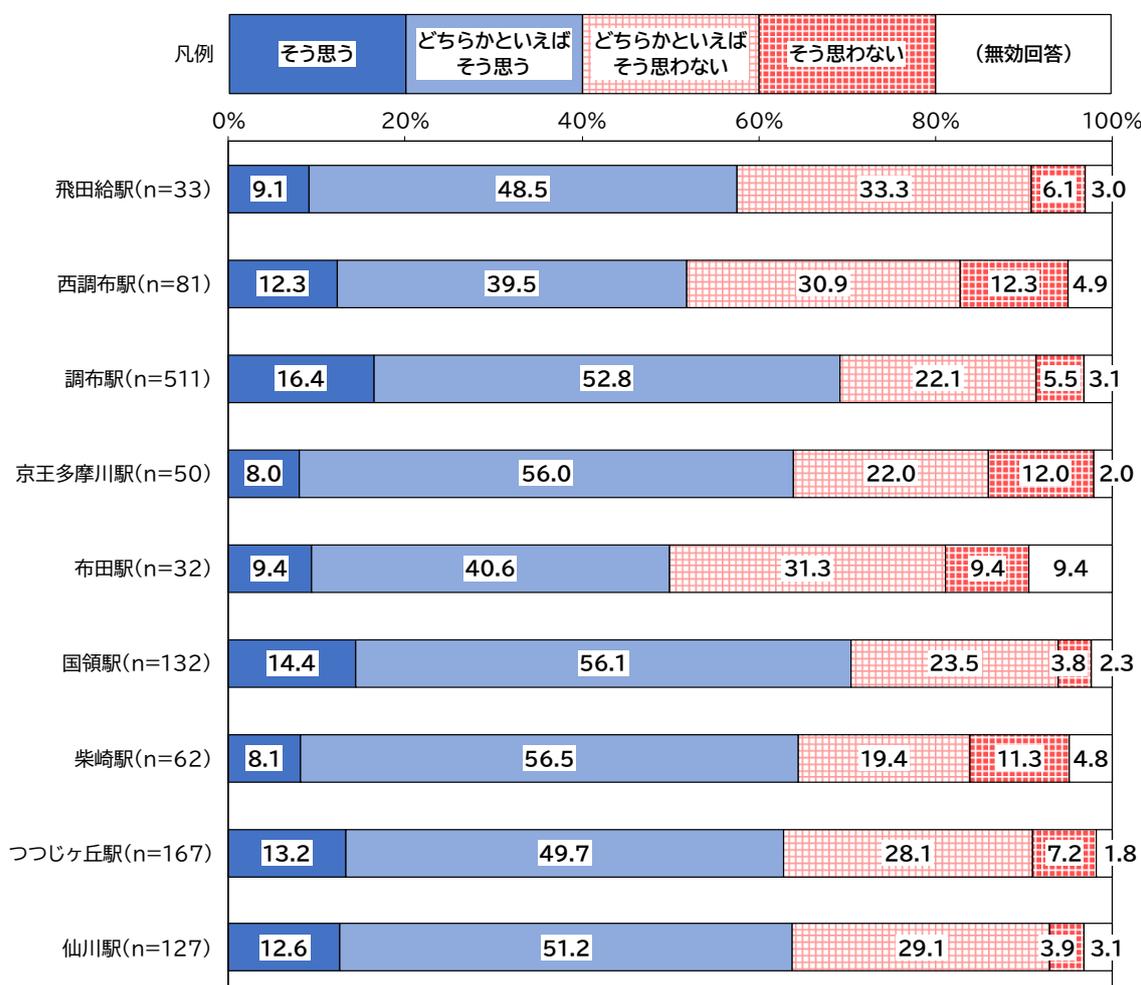
<地域別>

○「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計は、南部地域（中心市街地以外）の68.5%が最も高く、西部地域の57.7%が最も低くなっています。



<利用駅別>

○「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計は、国領駅が70.5%で最も高く、次いで調布駅の69.2%、柴崎駅の64.6%の順となっていますが、布田駅(50.0%)と西調布駅(51.8%)は、他の利用駅に比べて低くなっています。



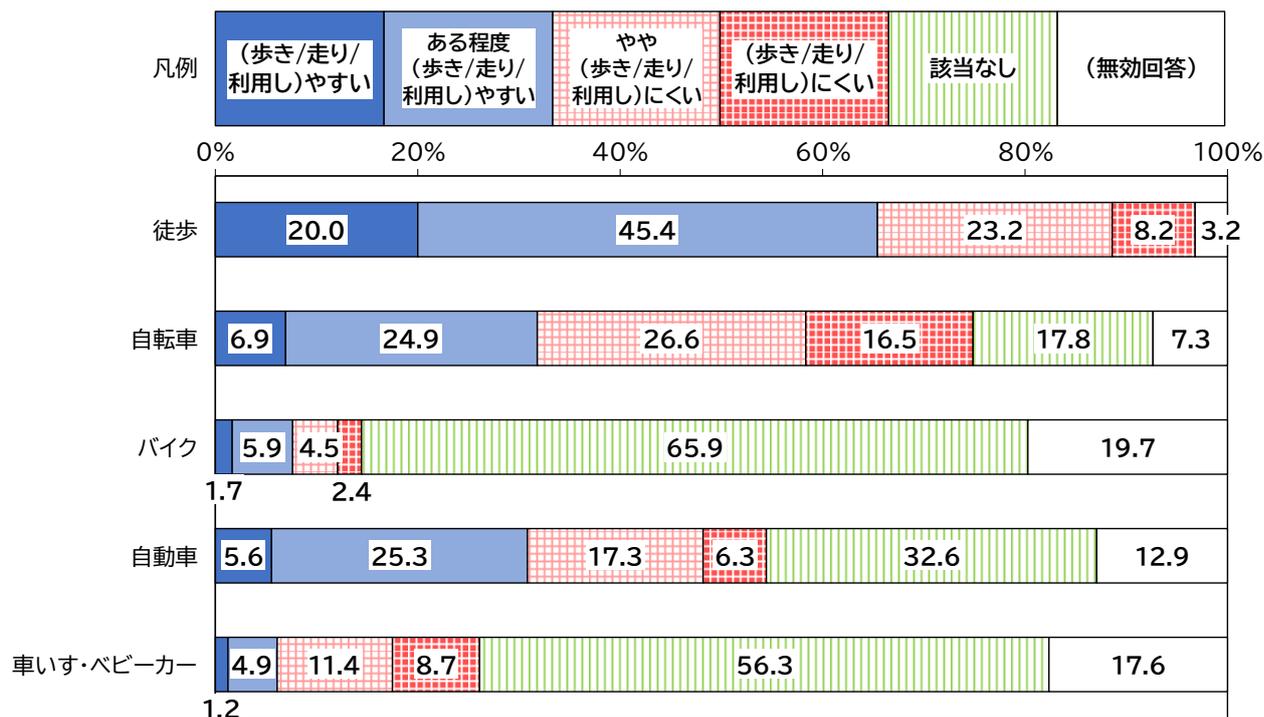
問 46) あなたは、普段利用する道路について、通行しやすいと感じていますか。

<全体 (n=1,211) >

○徒歩では、「歩きやすい」が 20.0%、「ある程度歩きやすい」が 45.4%で、合計で 65.4%を占めています。

○自転車では、「やや走りにくい」が 26.6%、「走りにくい」が 16.5%で、合計で 43.1%を占めています。

○車いす・ベビーカーは、「利用しやすい」と「ある程度利用しやすい」が合計で 6.1%となっており、「やや利用しにくい」と「利用しにくい」の合計 20.1%を大きく下回っています。

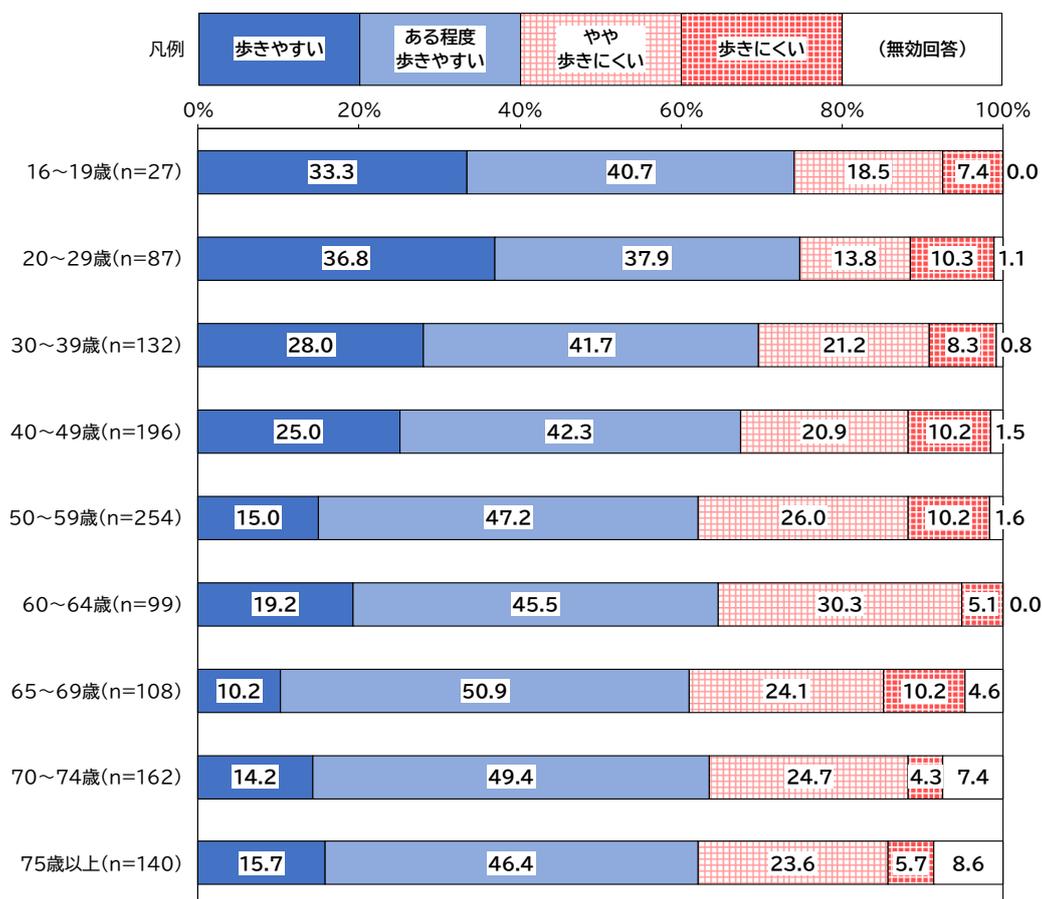


<年齢層別>

○「ア 徒歩」では、いずれの年齢層も「歩きやすい」と「ある程度歩きやすい」の合計が60%を超えています。

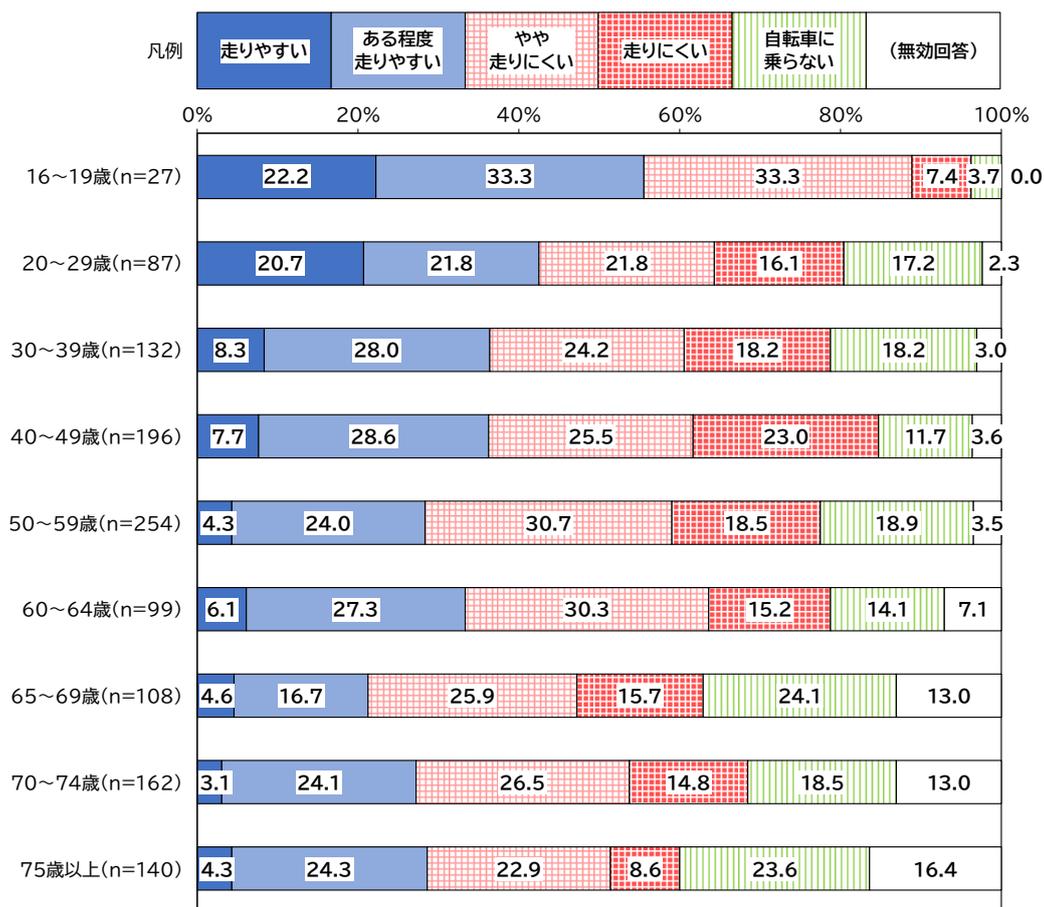
○「イ 自転車」では、16~29歳で「走りやすい」と「ある程度走りやすい」の合計が「やや走りにくい」と「走りにくい」の合計を上回っていますが、30歳以上の年齢層は、「やや走りにくい」と「走りにくい」の合計が「走りやすい」と「ある程度走りやすい」の合計を上回っています。

ア 徒歩

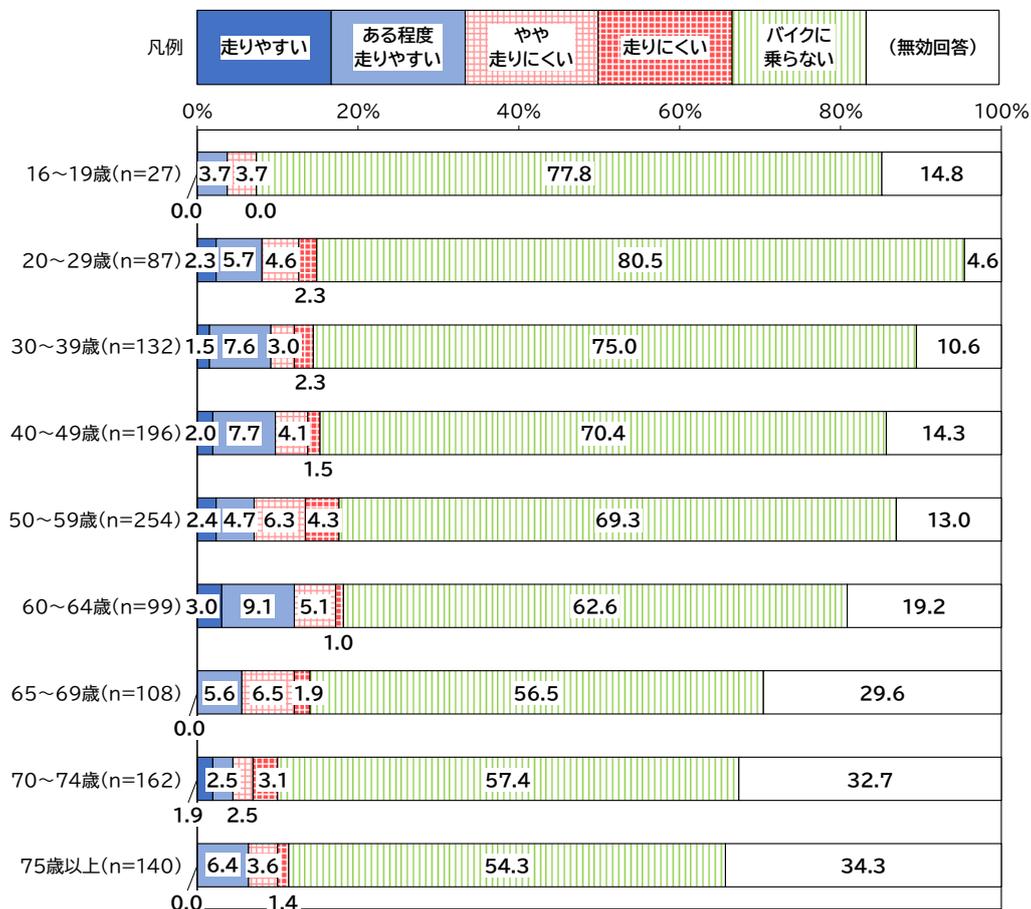


### 第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

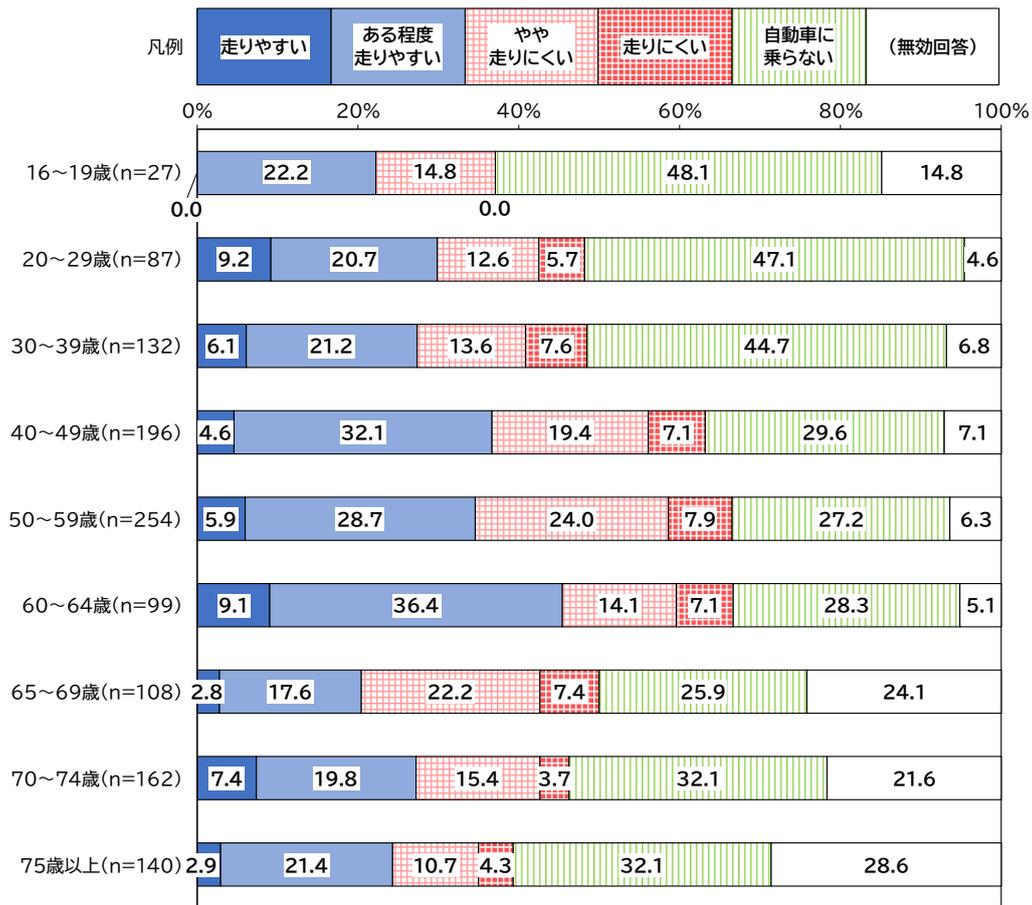
#### イ 自転車



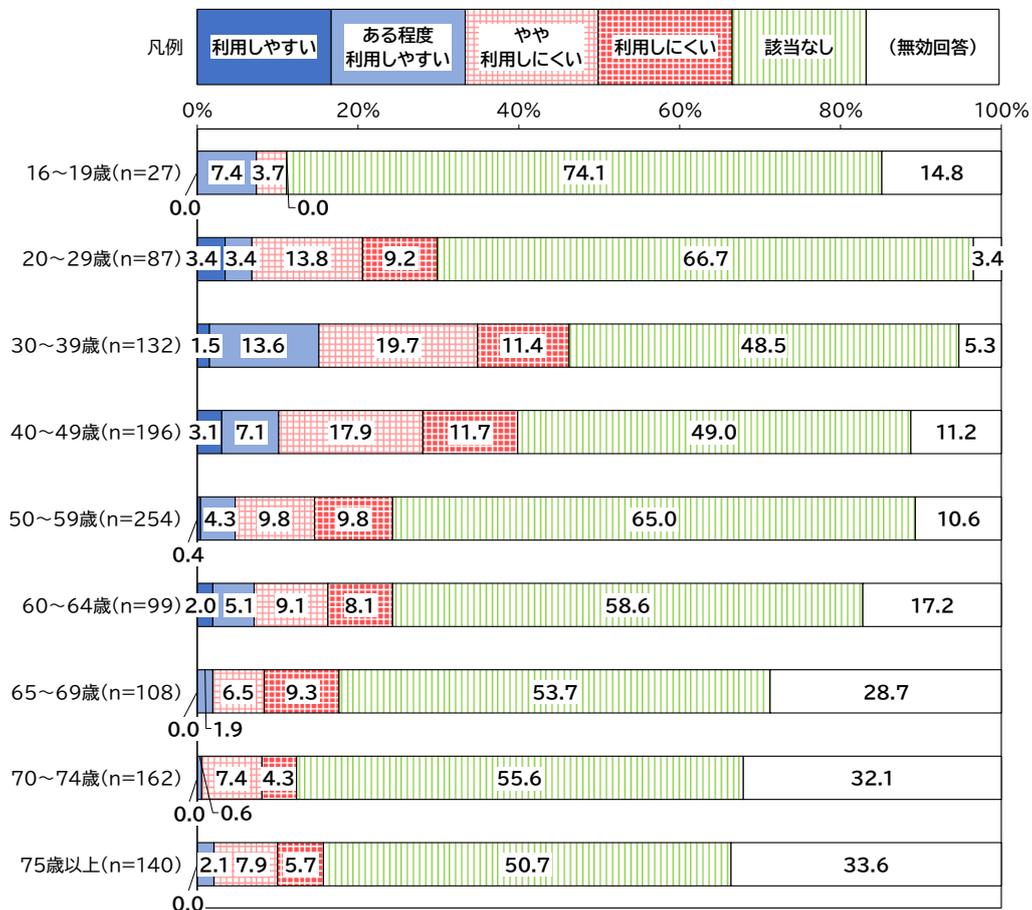
#### ウ バイク



工 自動車



オ 車いす・ベビーカー

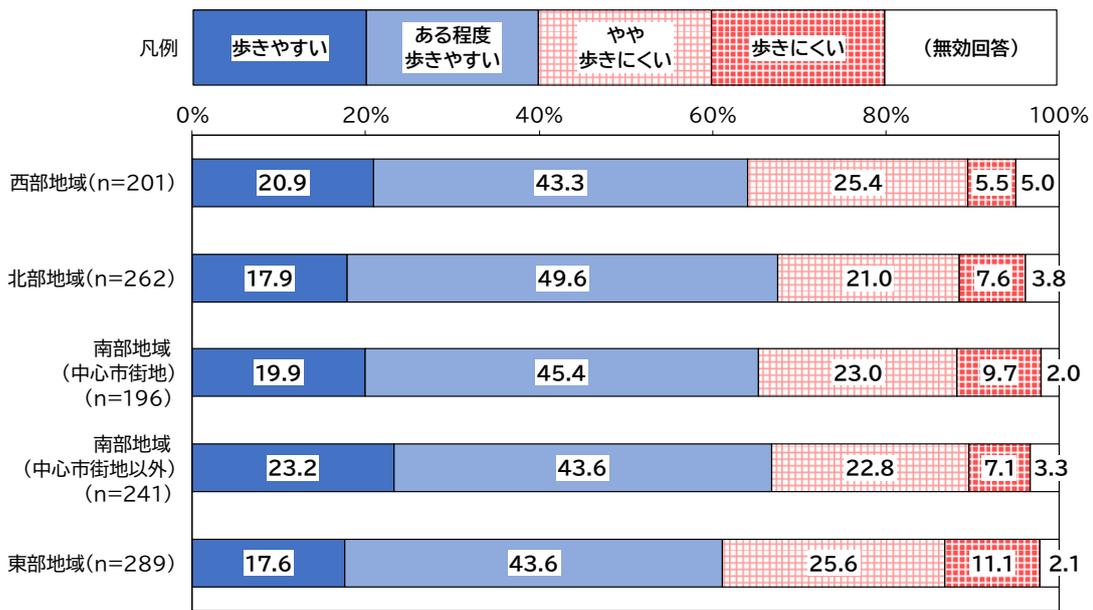


第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

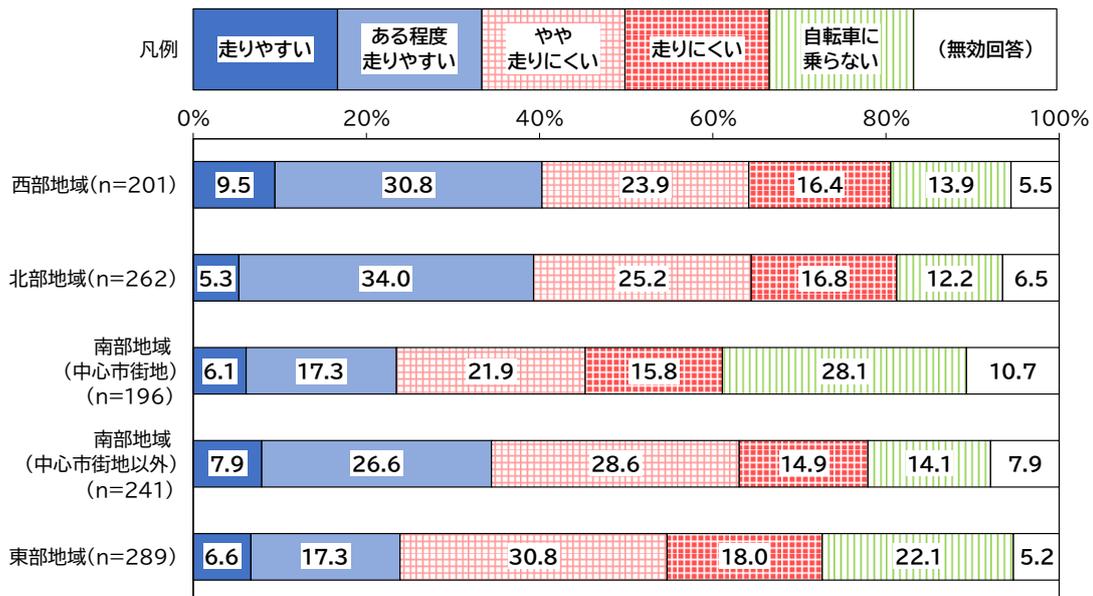
<地域別>

- 「ア 徒歩」では北部地域が「歩きやすい」、「ある程度歩きやすい」の合計が 67.5%で最も高くなっており、いずれの地域も 60%を超えています。
- 「イ 自転車」では、東部地域で「やや走りにくい」及び「走りにくい」の合計が、「走りやすい」及び「ある程度走りやすい」の合計を 24.9 ポイント上回っています。南部地域（中心市街地）でも同様に 14.3 ポイント上回っており、他の地域と比較して高くなっています。
- 車いす・ベビーカーは、南部地域（中心市街地）以外のすべての地域で、「やや利用しにくい」及び「利用しにくい」の合計が、「利用しやすい」及び「ある程度利用しやすい」の合計を 10 ポイント以上上回っています。

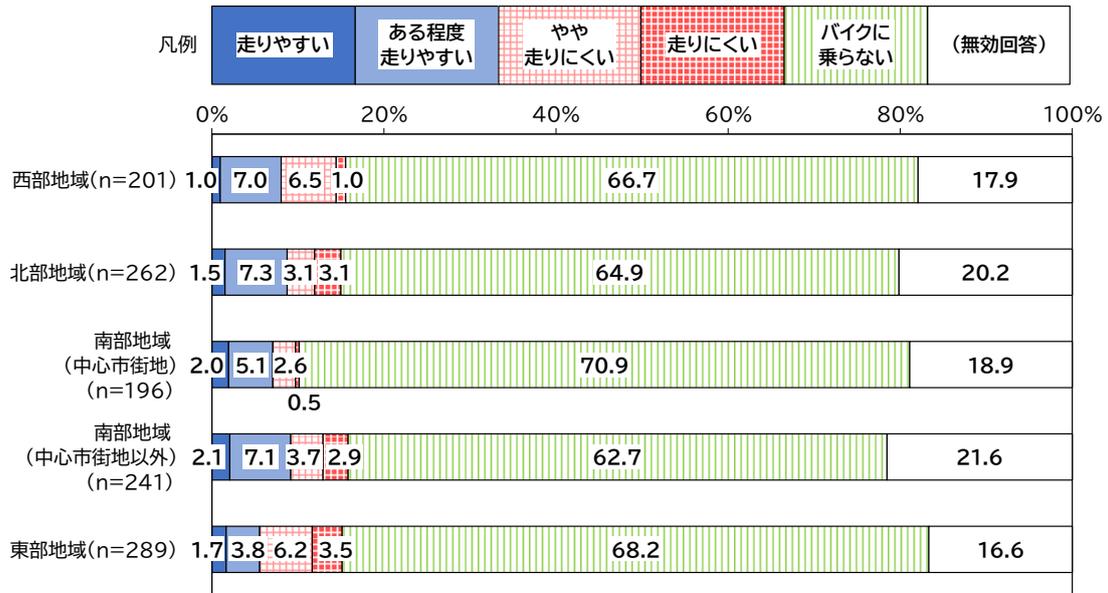
ア 徒歩



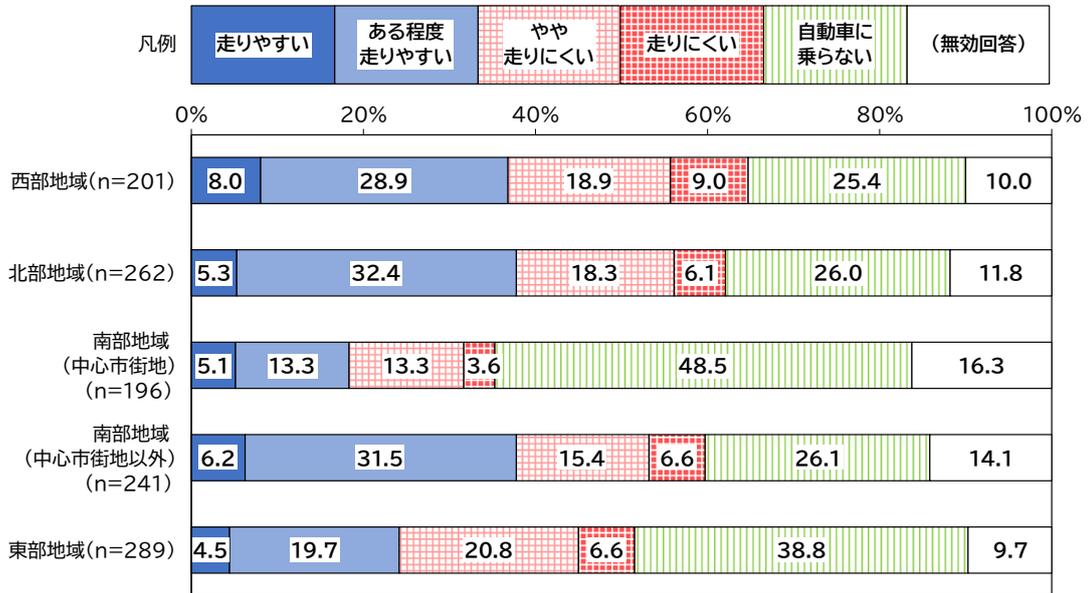
イ 自転車



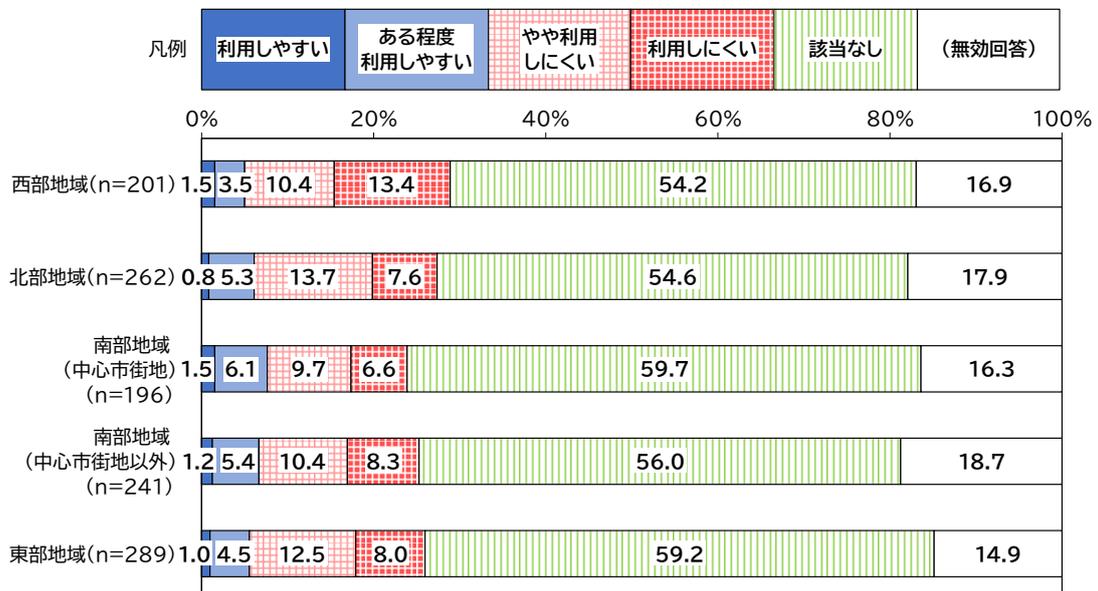
ウ バイク



エ 自動車



オ 車いす・ベビーカー

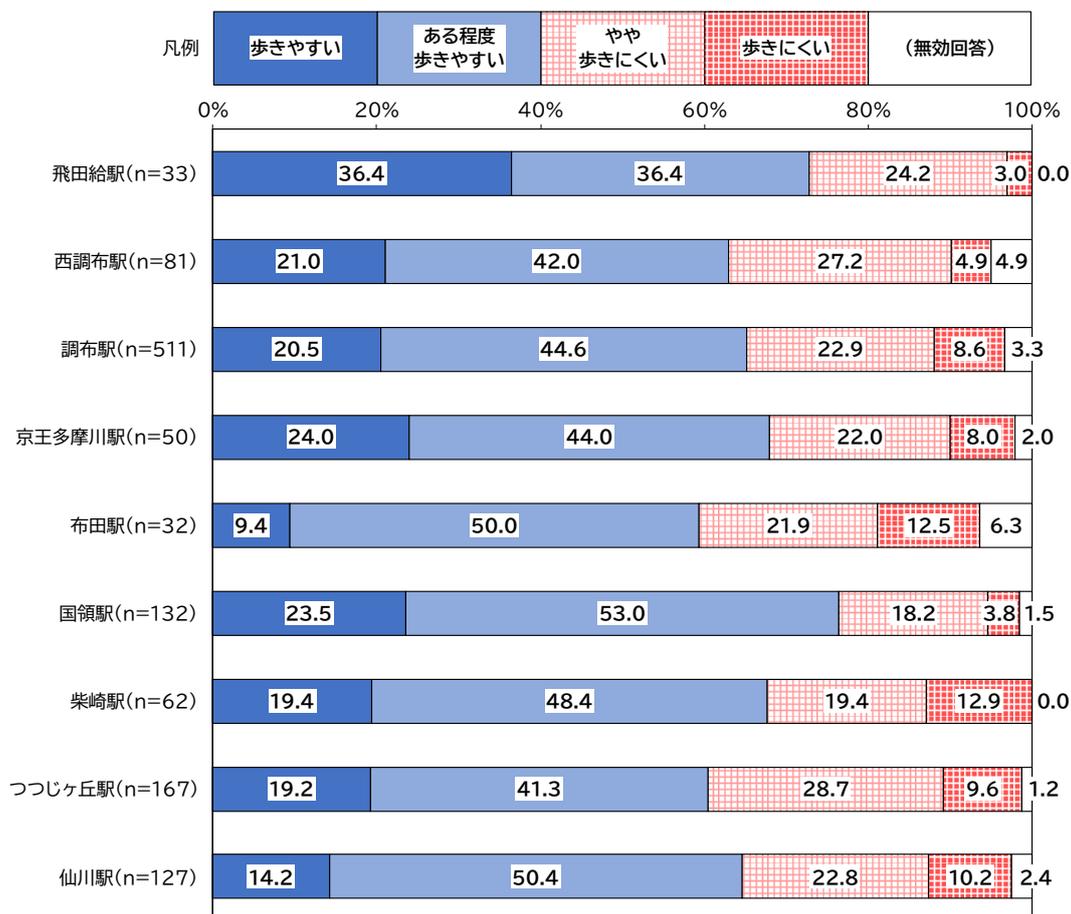


### 第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

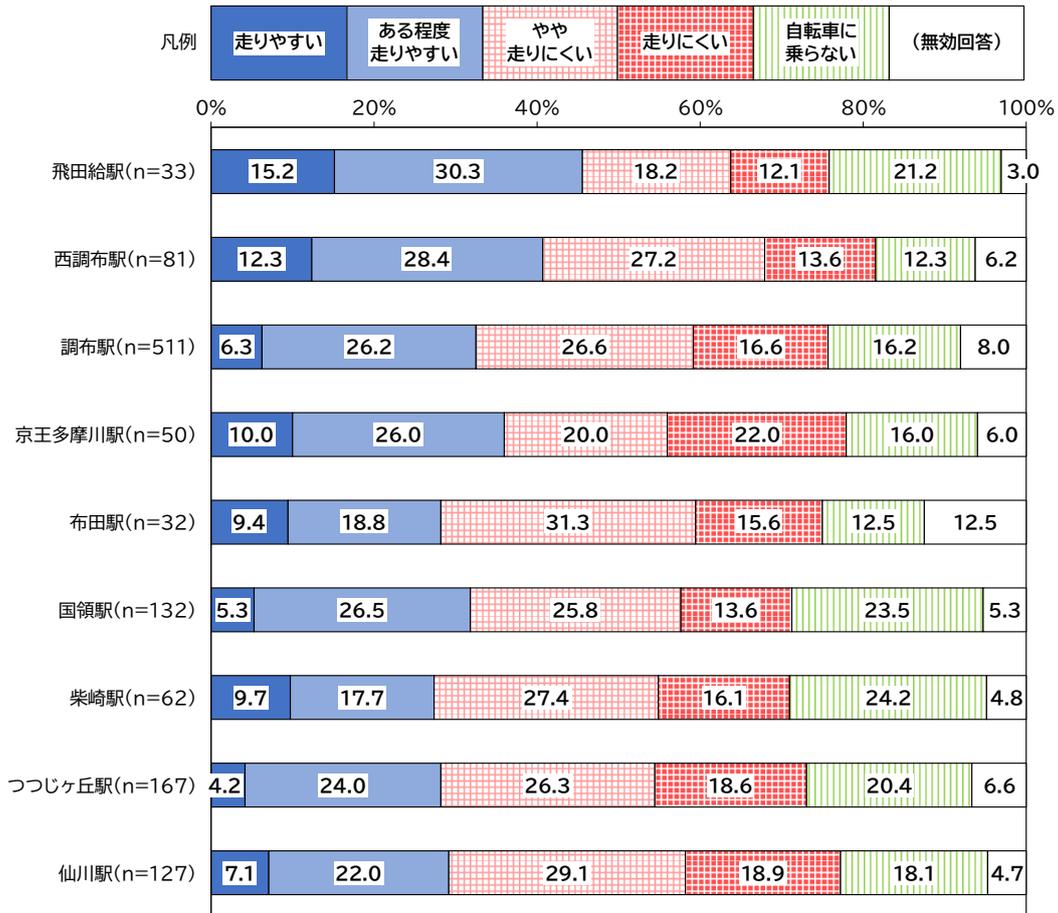
#### <利用駅別>

- 「ア 徒歩」について、つつじヶ丘駅では「やや歩きにくい」と「歩きにくい」の合計が 38.3%となっており、他の駅と比較して高くなっています。
- 「イ 自転車」については、飛田給駅と国領駅以外のすべての駅の利用層で「やや走りにくい」と「走りにくい」の合計が 40%を超えています。

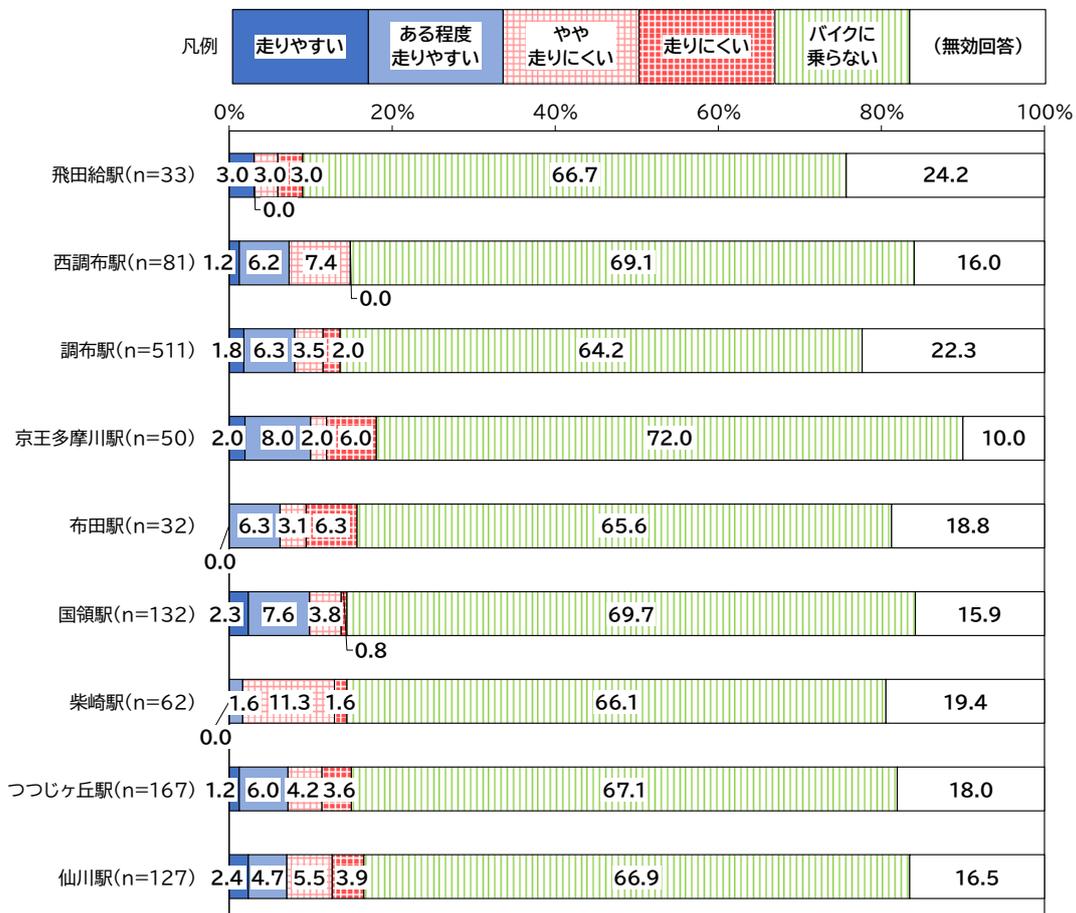
#### ア 徒歩



イ 自転車

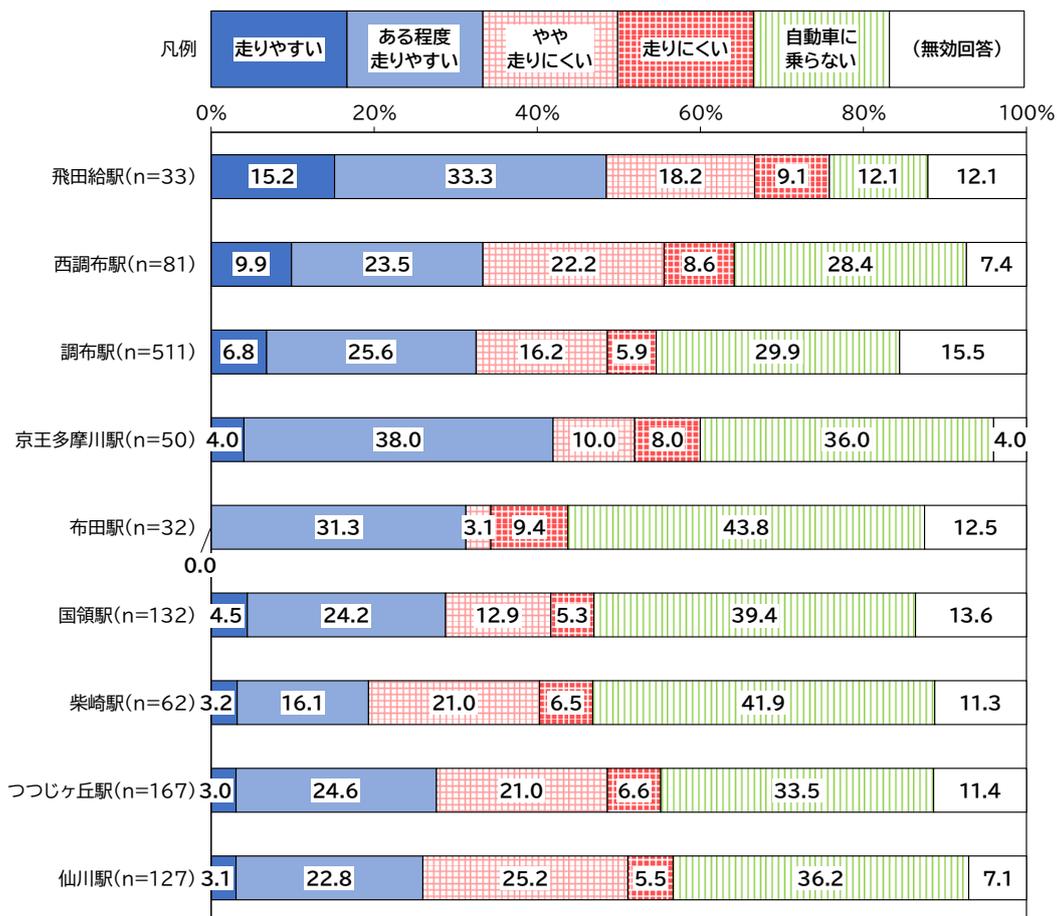


ウ バイク

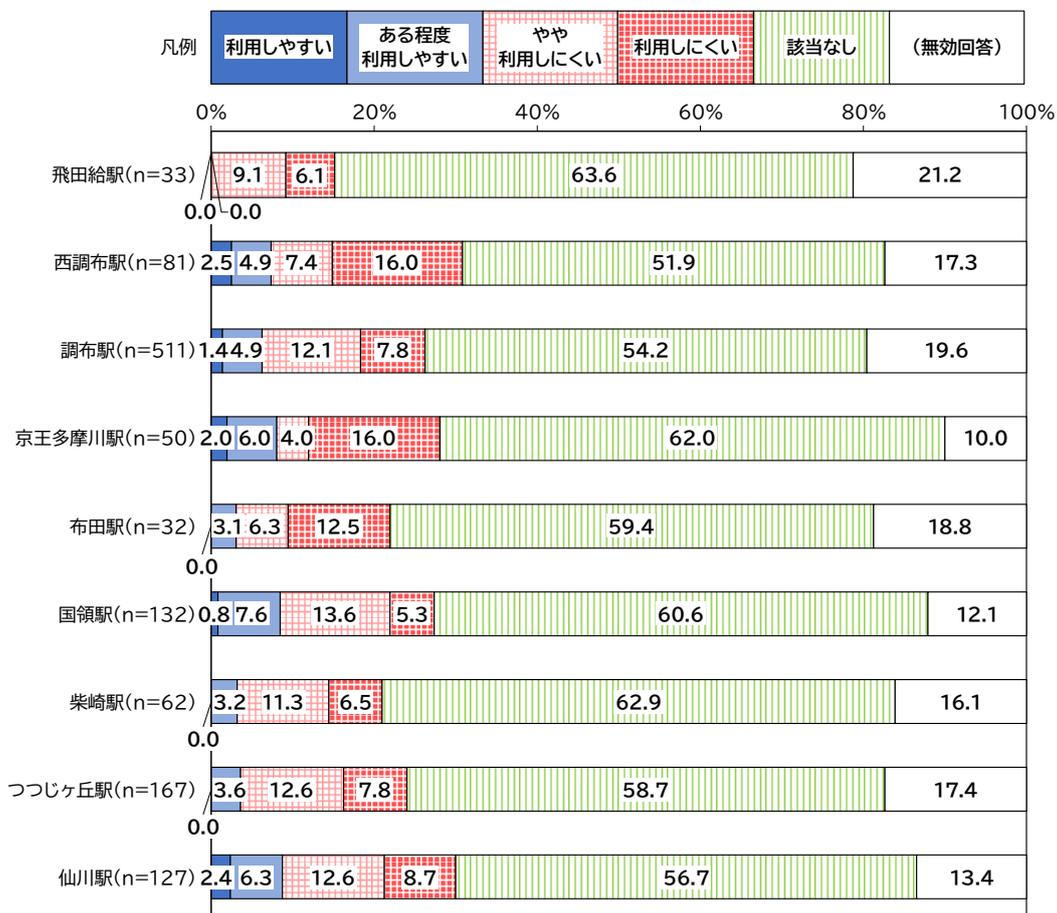


### 第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

#### 工 自動車



#### オ その他 (車いす・ベビーカー)



<自由記述> 主な意見を抜粋

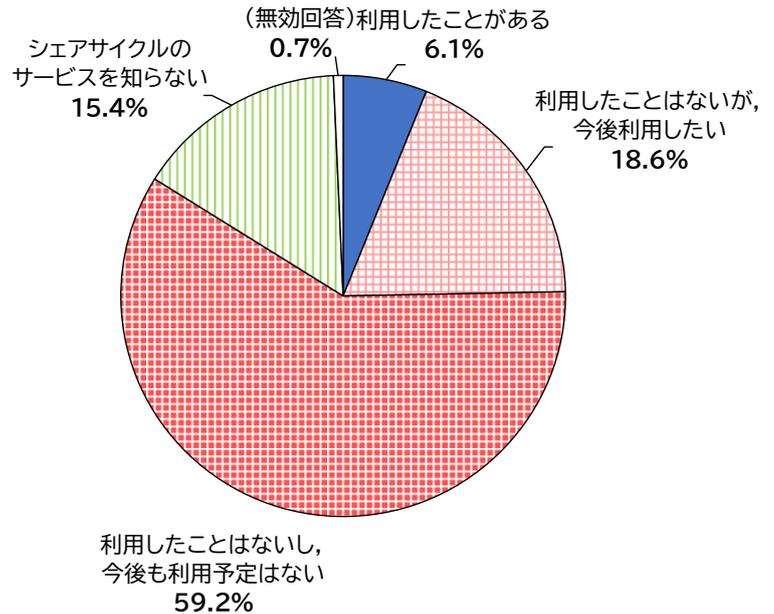
【図表 道路の新設整備や維持補修についてのご意見・ご提案】(248件)

- ・旧甲州街道の歩道，道路が狭く，路面がガタガタになっている個所もある。点字ブロック等も含めボロボロ。整備してほしい。
- ・歩道が狭く傾いていたり段差があり，電柱もあるのでベビーカー，車いすで利用しにくい。歩行もしづらい。
- ・自転車を走りやすくしてほしい。

問 47) あなたは、市内でシェアサイクル※を利用したことはありますか。

<全体 (n=1,211) >

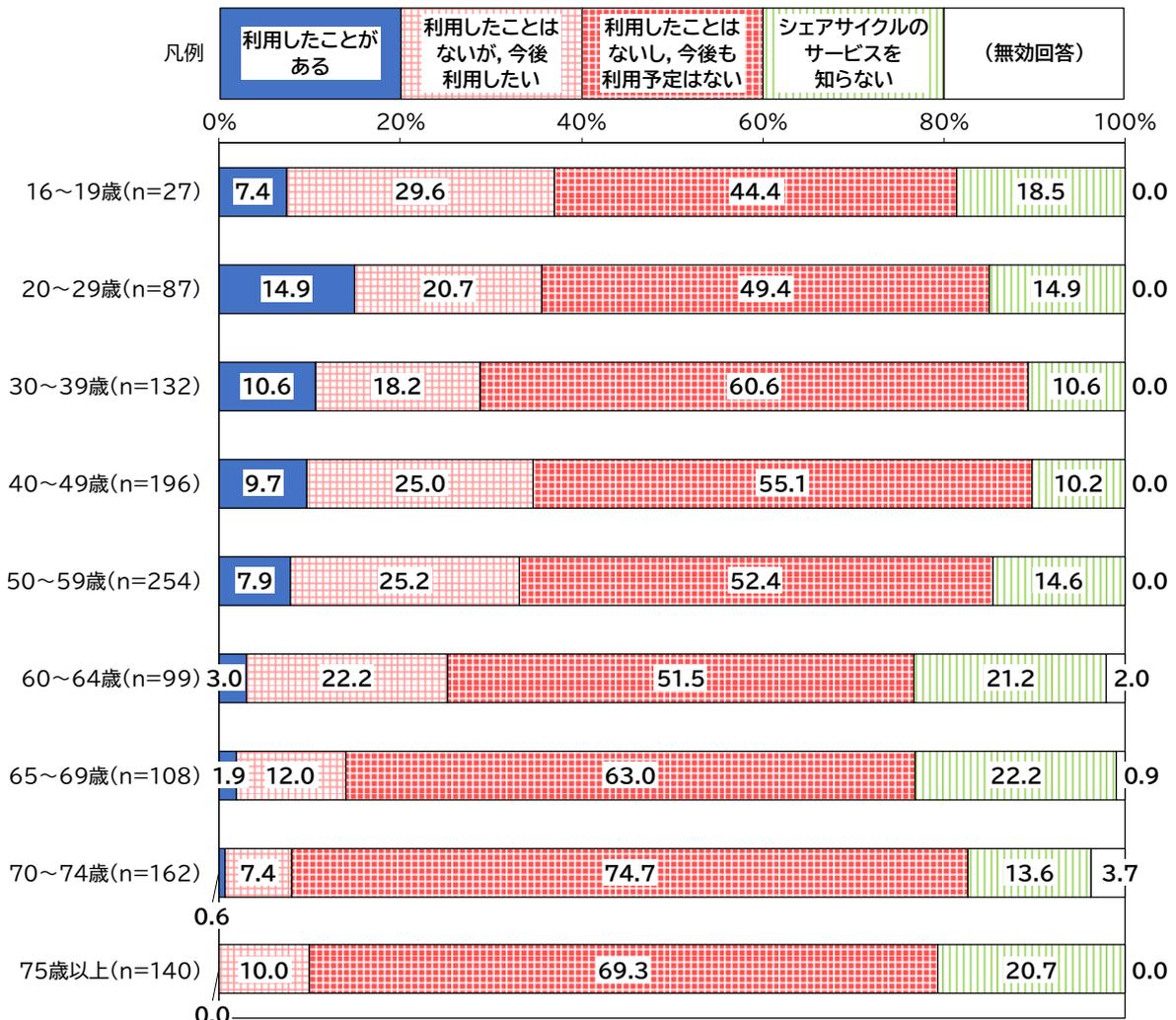
○「利用したことがある」が 6.1%、「利用したことはないが、今後利用したい」が 18.6%で、合計で 24.7%となっており、「利用したことはないし、今後も利用予定はない」は 59.2%を占めています。



※ステーション(専用駐輪スペース)間で片道利用のできる自転車サービス。会員登録をすれば、(同じサービス会社の)全国どこのステーションでも貸出・返却が可能。

<年齢層別>

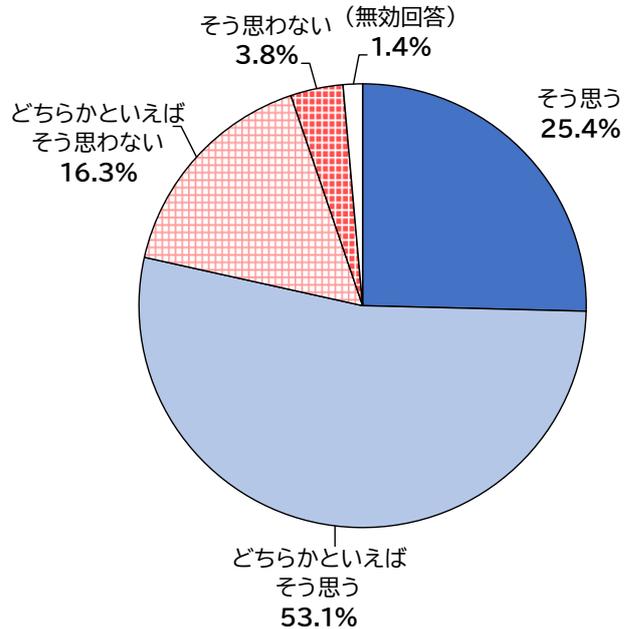
○20~39 歳で、「利用したことがある」が 10%以上となっていますが、65 歳以上では、「利用したこともないし、今後も利用予定はない」が 60%を超えています。



問 48) あなたは、市内の公共交通機関（電車・路線バス・ミニバス）について利用しやすいと思いますか。

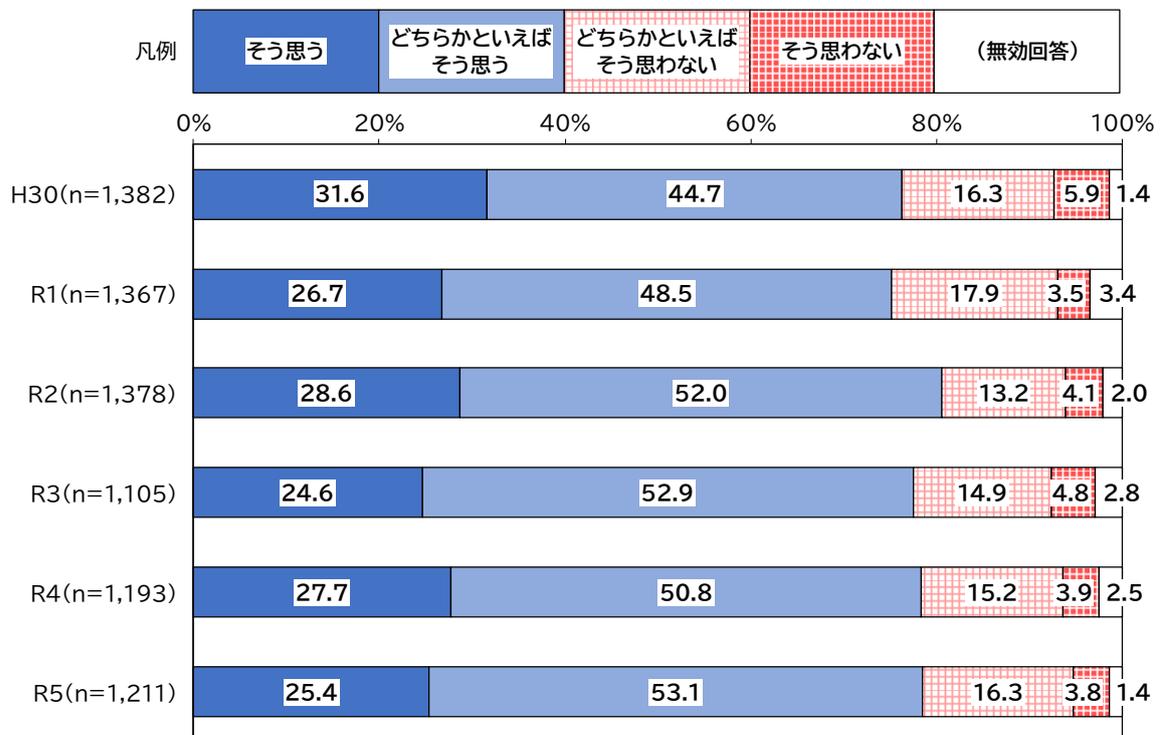
<全体（n=1,211）>

○「そう思う」が 25.4%、「どちらかといえばそう思う」が 53.1%で、合計で 78.5%を占めています。



<経年比較>

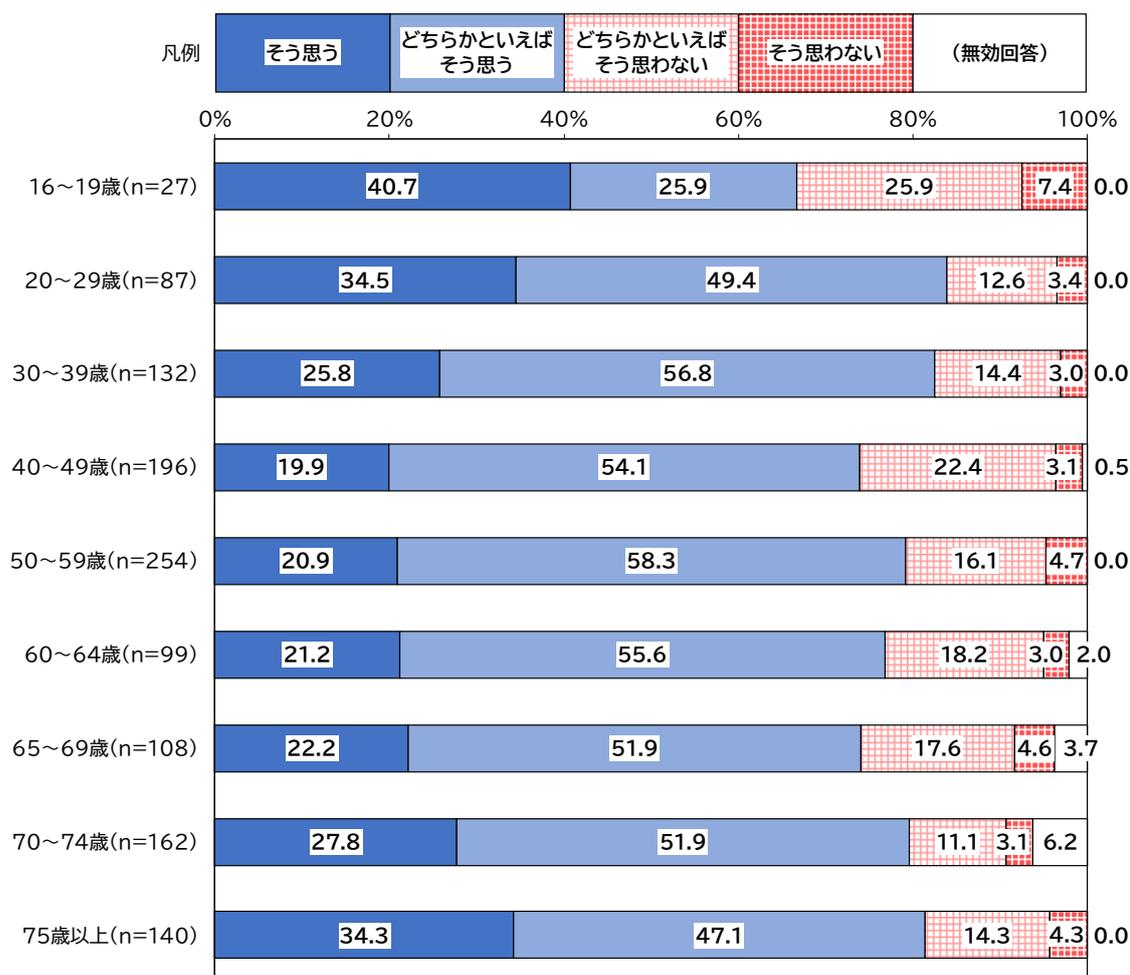
○「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計は、令和 4 年度（78.5%）は令和 3 年度（77.5%）より 1.0 ポイント増加しましたが、令和 5 年度（78.5%）は令和 4 年度と比較して増減はありませんでした。



### 第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

#### <年齢層別>

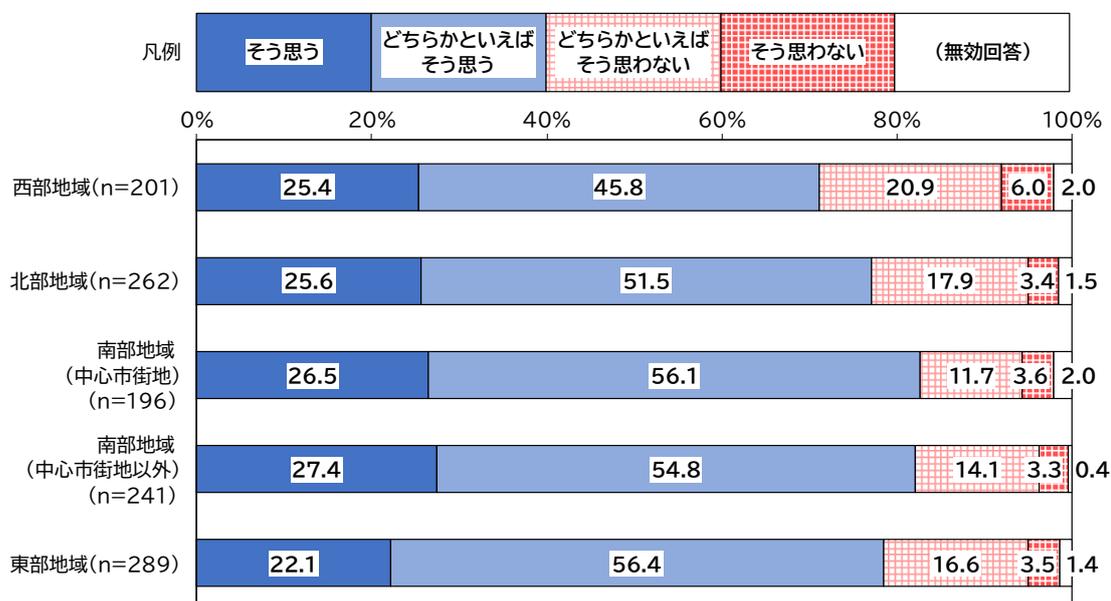
○20～29歳が、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計が83.9%と最も高く、次いで30～39歳の82.6%、75歳以上の81.4%の順となっています。



#### <地域別>

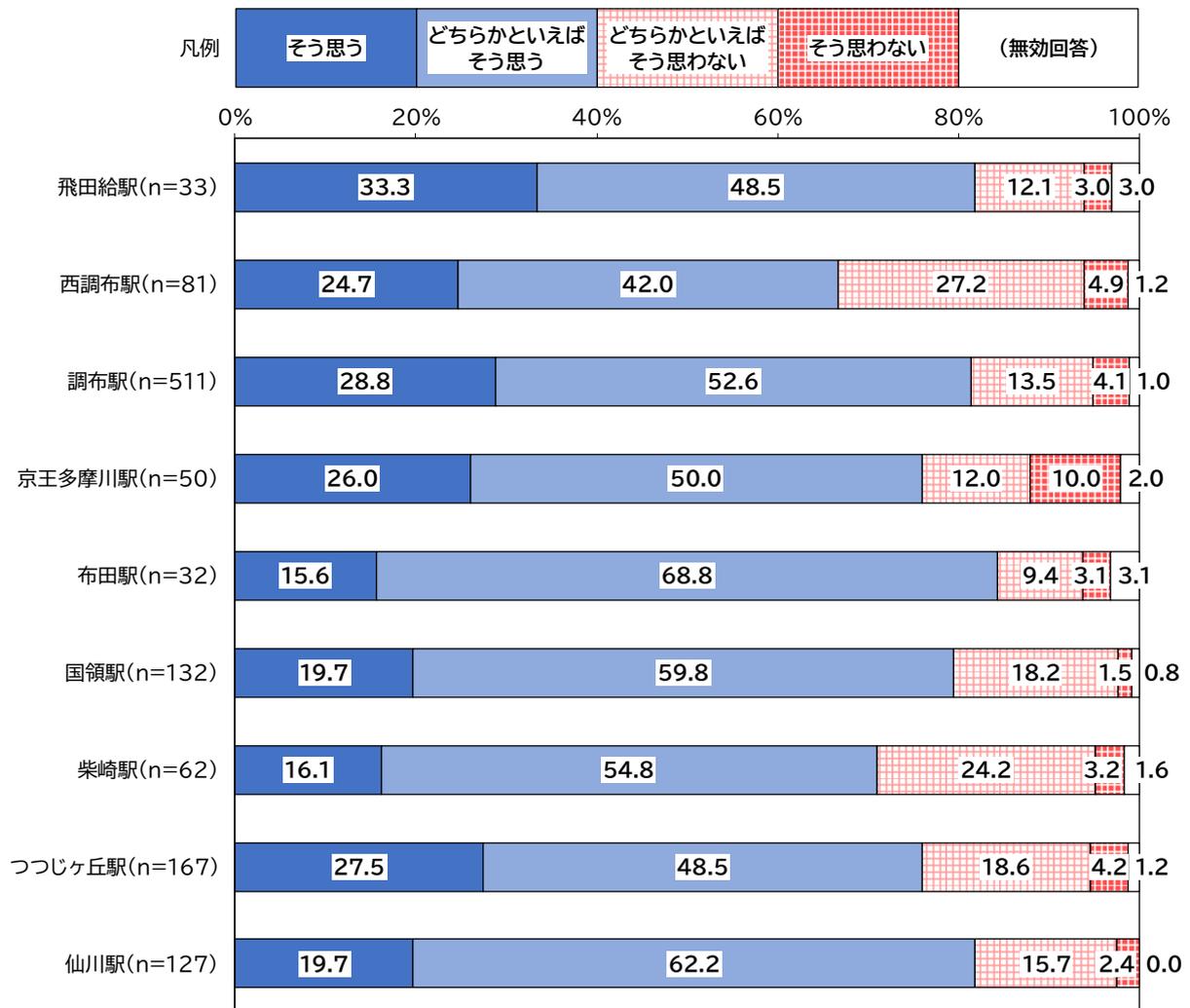
○いずれの地域でも、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計が70%を超えています。

○南部地域（中心市街地）及び南部地域（中心市街地以外）では、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計が80%を超えており、他の地域と比べてやや高くなっています。



<利用駅別>

○布田駅（84.4%）をはじめ、飛田給駅，調布駅，仙川駅で「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計が80%を超えています。西調布駅（66.7%），柴崎駅（70.9%）では、他の駅と比べて低くなっています。

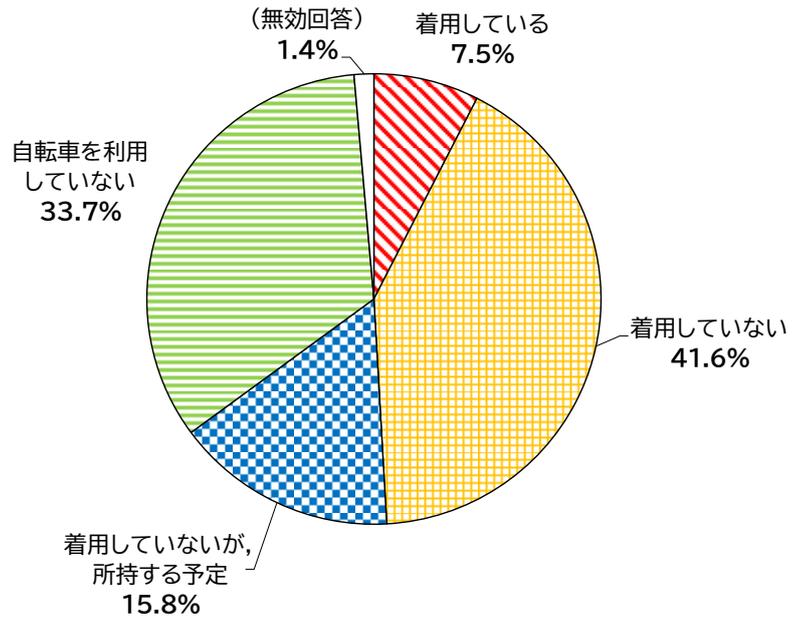


第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

問 49) あなたは、自転車使用時にヘルメットを着用\*していますか。

<全体 (n=1,211) >

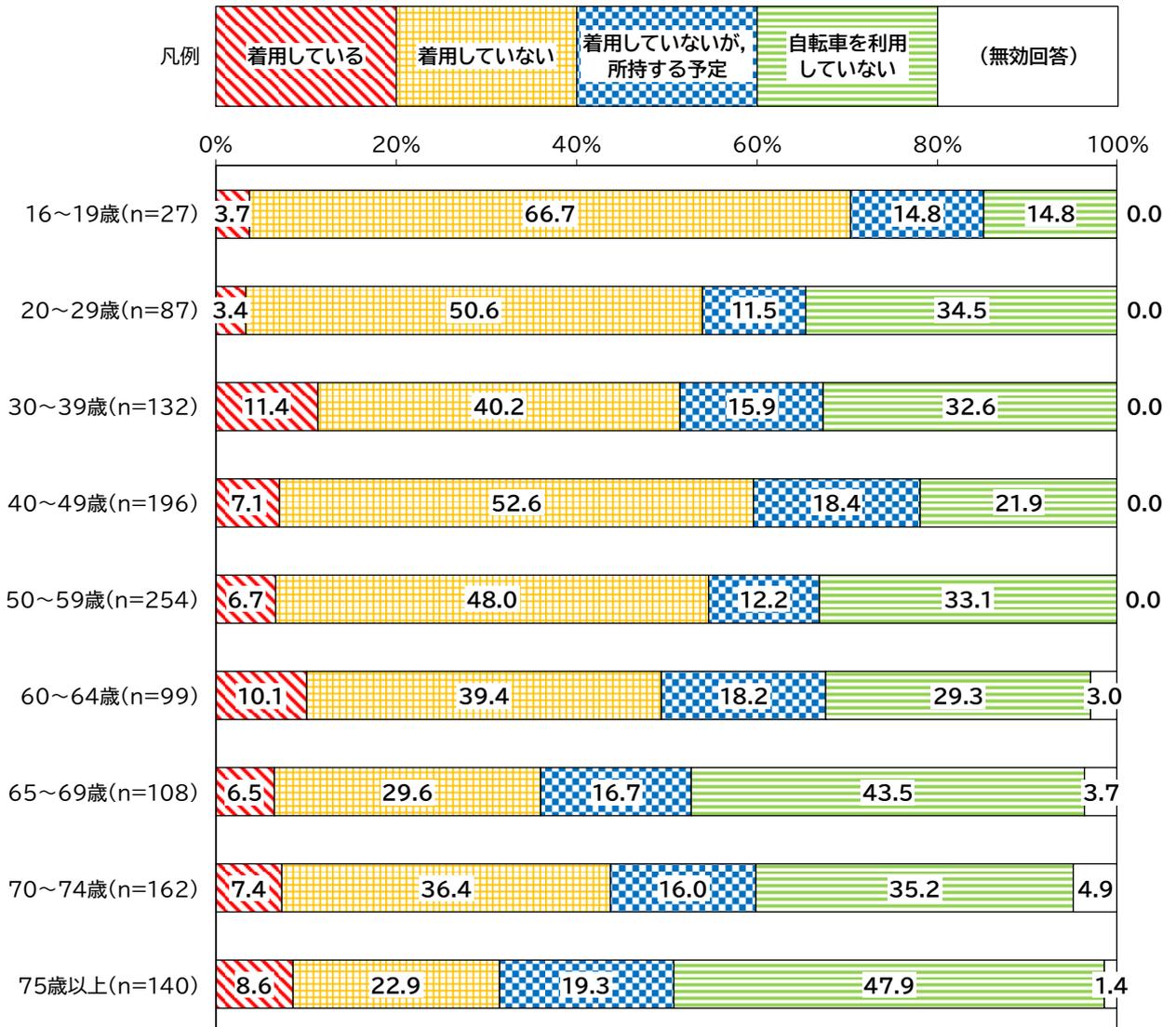
○「着用している」が 7.5%、「着用していない」が 41.6%、「着用していないが、所持する予定」が 15.8%となっています。



※令和5年4月から改正道路交通法が施行され、自転車利用者のヘルメット着用が全世代に対して努力義務となりました。

<年齢層別>

○「着用している」は 30~39 歳が 11.4%で最も高く、次いで 60~64 歳の 10.1%の順となっています。

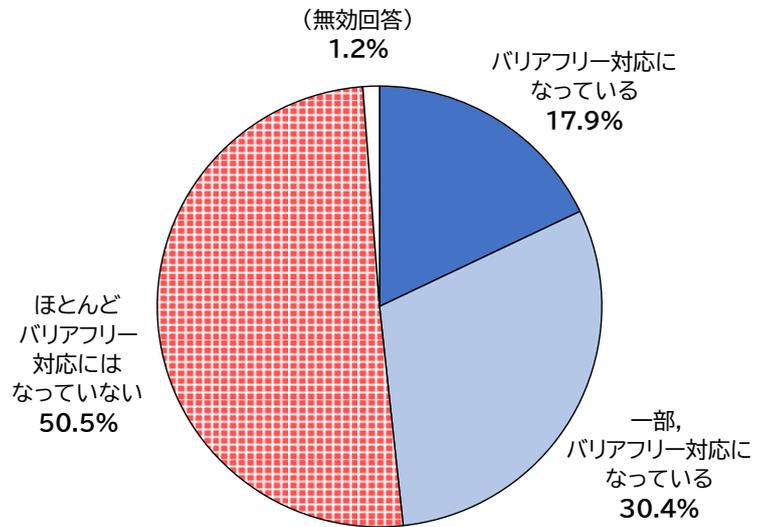


【住環境づくり・地球温暖化対策について】

問 50) あなたの住居はバリアフリー（段差解消やスロープの設置など）対応になっていますか。

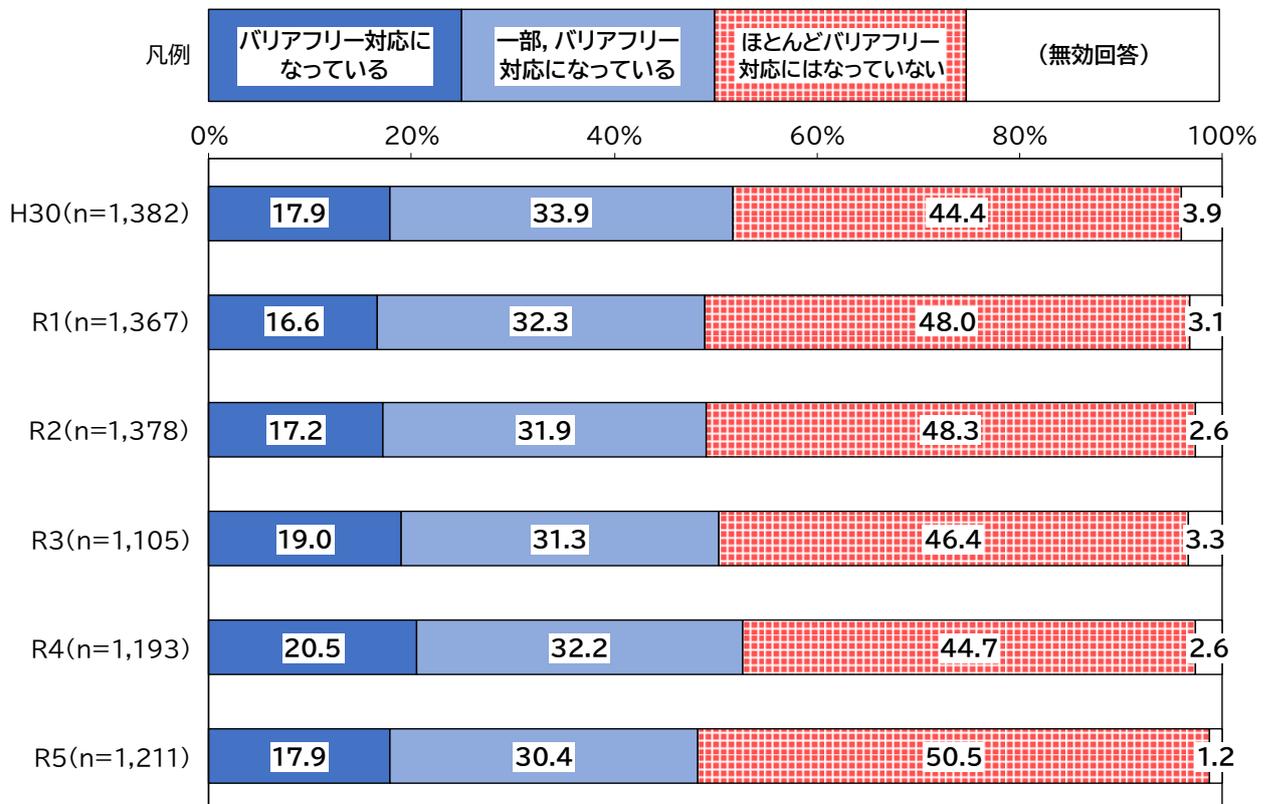
<全体 (n=1,211) >

○「バリアフリー対応になっている」が 17.9%、「一部、バリアフリー対応になっている」が 30.4%で、合計 48.3%を占めています。



<経年比較>

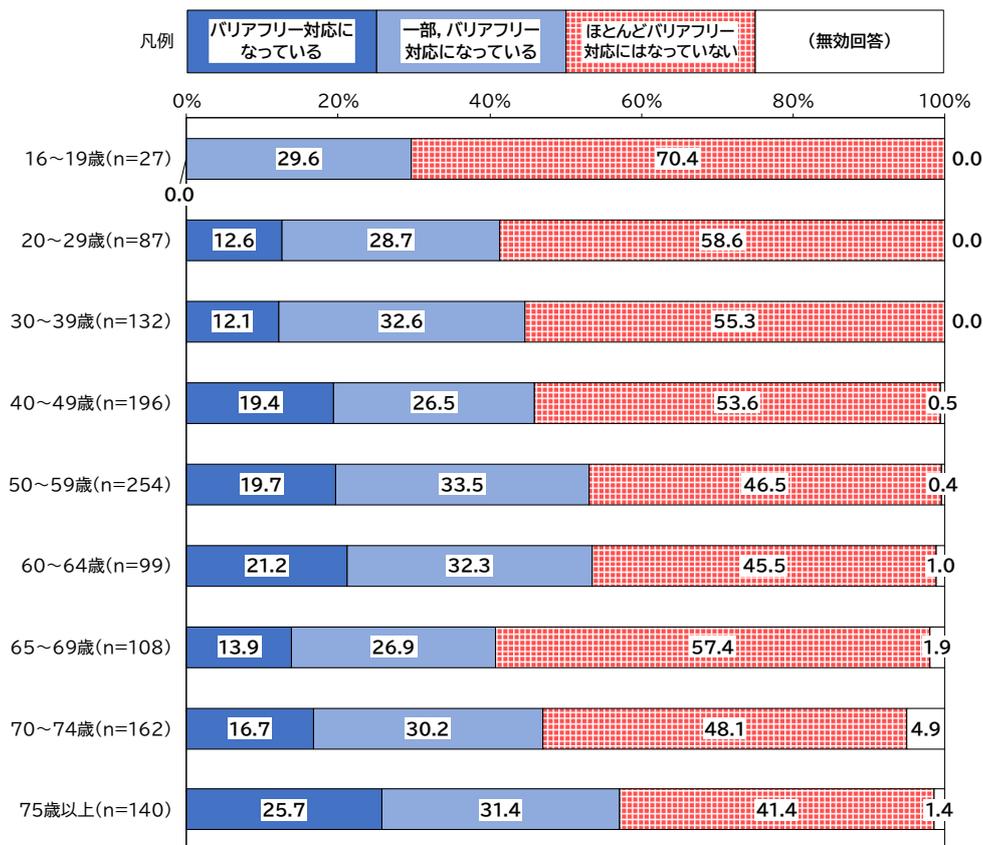
○「バリアフリー対応になっている」と「一部、バリアフリー対応になっている」の合計は、おおむね 50%前後で推移しており、令和 5 年度 (48.3%) は令和 4 年度 (52.7%) に比べ 4.4 ポイント減少しています。



### 第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

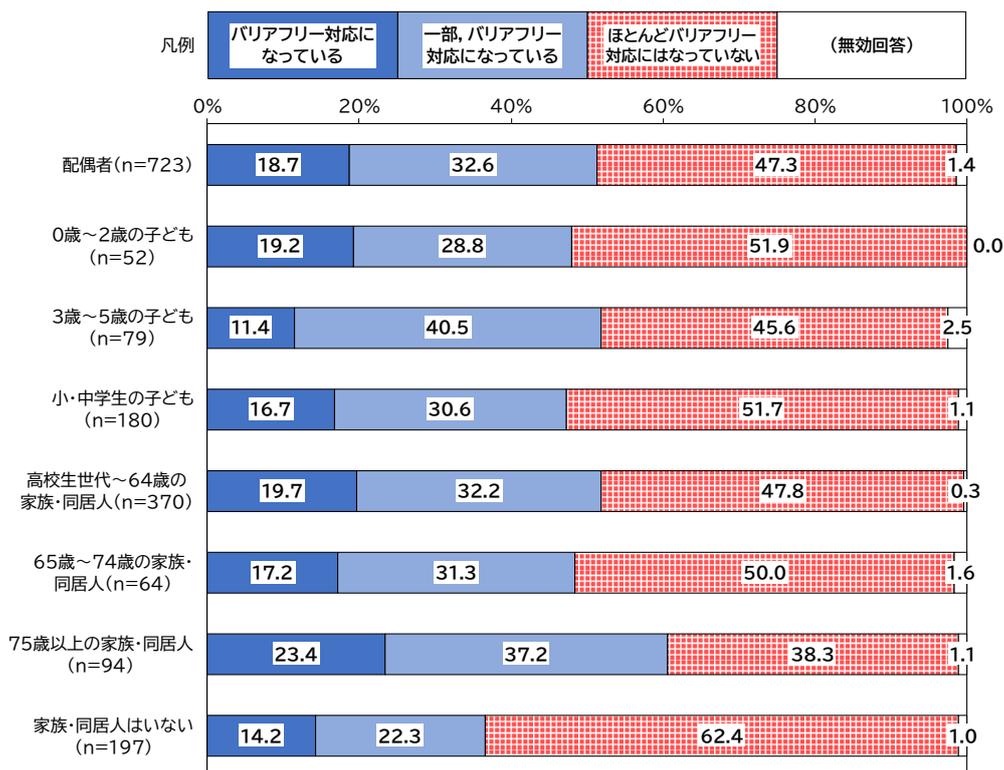
#### <年齢層別>

○50～64歳と75歳以上では、「バリアフリー対応になっている」と「一部、バリアフリー対応になっている」の合計が50%台と他の年齢層と比較して高くなっています。



#### <同居人別>

○75歳以上の家族・同居人がいる層では、「バリアフリー対応になっている」と「一部、バリアフリー対応になっている」の合計は60%を超え、他の層と比べて高くなっています。



<自由記述> 主な意見を抜粋

【図表 住環境づくりに関する施策についてのご意見・ご提案】(22件)

- ・ 祖母が腰を骨折した際に、半年ほど家の中に取り外しのできるスロープなどを設置したが、介護度を出してもらうまでに時間がかかりすぎて、今すぐ必要という時に待つ時間が長すぎた。多少値段がはっても、怪我や病気などですぐに必要な人達がすぐに利用できるような一時的サービスがあるとよい。
- ・ バリアフリーは介護認定がないとできないが、70歳以上で1回だけできる等してほしい。転ばぬ先の杖も大事だと思う。
- ・ 脱衣室、浴室、トイレの寒さ対策が必要かと思います。

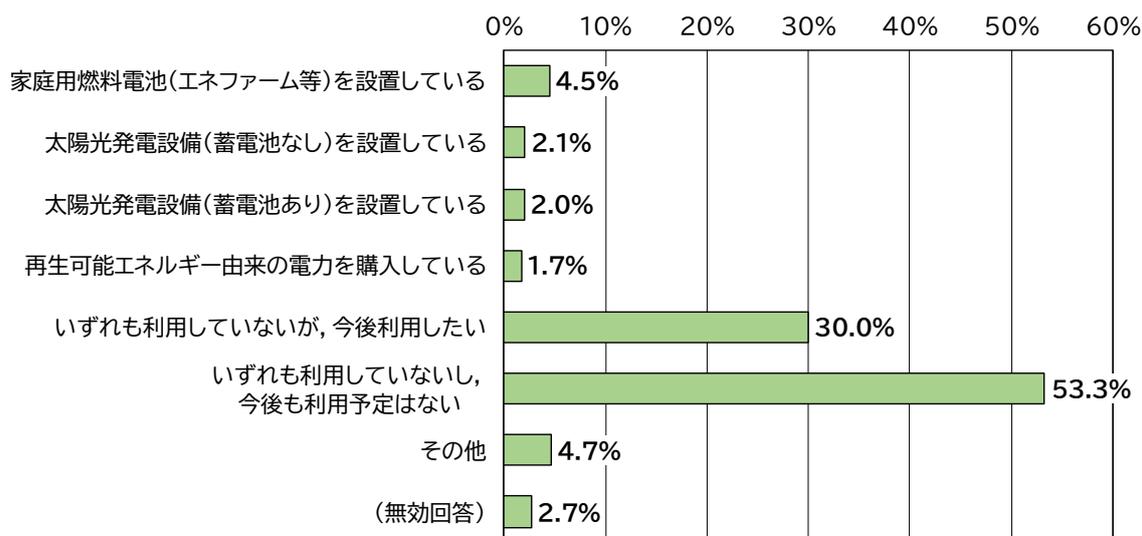
### 第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

問 51) あなたの住居は、再生可能エネルギーを利用していますか。また、創エネルギー設備※を設置していますか。

<全体 (n=1,211) >

○「家庭用燃料電池（エネファーム等）を設置している」が 4.5%、「太陽光発電設備（蓄電池なし）を設置している」が 2.1%、「太陽光発電設備（蓄電池あり）を設置している」が 2.0%となっています。なお、「いずれも利用していないが、今後利用したい」は 30.0%、「いずれも利用していないし、今後も利用予定はない」は 53.3%となっています。

※太陽光発電設備や家庭用燃料電池のように家庭で電力等のエネルギーを創ることのできる設備。



<年齢層別>

○再生可能エネルギーの利用または創エネルギー設備を設置している回答のうち、20～29歳と40歳以上の年齢層で「家庭用燃料電池（エネファーム等）を設置している」の割合が高くなっています。

選択肢	合計	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
全体	1,211	27	87	132	196	254	99	108	162	140
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
家庭用燃料電池（エネファーム等）を設置している	54	0	3	4	12	16	6	3	5	5
	4.5%	0.0%	3.4%	3.0%	6.1%	6.3%	6.1%	2.8%	3.1%	3.6%
太陽光発電設備（蓄電池なし）を設置している	25	1	0	4	8	6	2	0	1	3
	2.1%	3.7%	0.0%	3.0%	4.1%	2.4%	2.0%	0.0%	0.6%	2.1%
太陽光発電設備（蓄電池あり）を設置している	24	0	1	5	6	1	6	1	1	3
	2.0%	0.0%	1.1%	3.8%	3.1%	0.4%	6.1%	0.9%	0.6%	2.1%
再生可能エネルギー由来の電力を購入している	21	1	3	0	2	4	3	3	2	3
	1.7%	3.7%	3.4%	0.0%	1.0%	1.6%	3.0%	2.8%	1.2%	2.1%
いずれも利用していないが、今後利用したい	363	9	26	39	61	86	35	34	37	34
	30.0%	33.3%	29.9%	29.5%	31.1%	33.9%	35.4%	31.5%	22.8%	24.3%
いずれも利用していないし、今後も利用予定はない	646	15	46	72	104	132	42	57	99	77
	53.3%	55.6%	52.9%	54.5%	53.1%	52.0%	42.4%	52.8%	61.1%	55.0%
その他	57	1	7	6	5	9	7	8	6	8
	4.7%	3.7%	8.0%	4.5%	2.6%	3.5%	7.1%	7.4%	3.7%	5.7%
(無効回答)	33	0	1	2	1	1	1	4	12	9
	2.7%	0.0%	1.1%	1.5%	0.5%	0.4%	1.0%	3.7%	7.4%	6.4%

(上段：実数(人)，下段：構成比)

回答割合が最も高い：

回答割合が2番目に高い：

※網掛けは再生可能エネルギーの利用または創エネルギー設備を設置している回答のうちの割合の高いもの

<自由記述> 主な意見を抜粋

【図表 地球温暖化対策・ゼロカーボンシティに関する施策についてのご意見・ご提案】(33件)

- ・ 太陽光発電設備は、設置時はいいが 20 年前後で廃棄処分になるので、地球環境にいいとは言えない。
- ・ 私たちが普段から利用している活動(歩道や使用箇所)で発電したり、エネルギーを作ったり出来る仕組みがあるなら面白いと思う。
- ・ 多摩川住宅が新しくなったら、再生可能エネルギーを利用できるようになると嬉しいです。

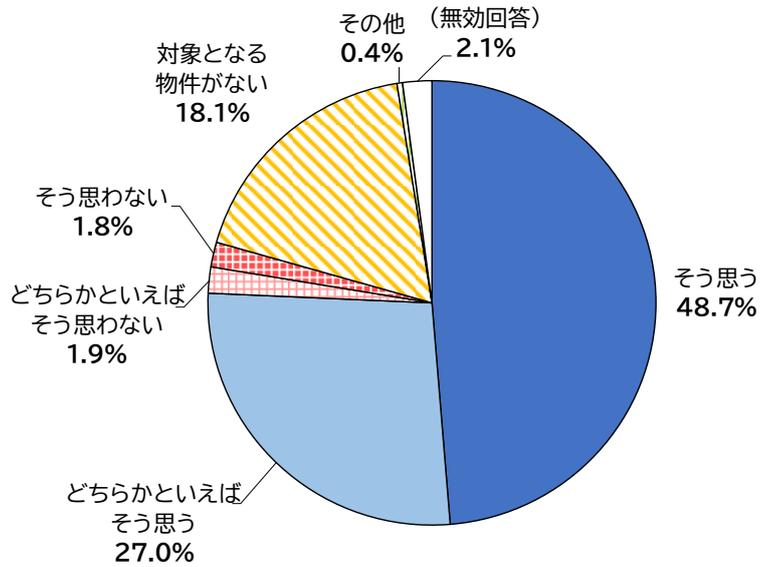
第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

問 52) あなたは、たとえばあなた自身や家族・親戚が所有する市内の物件について、適切な管理が行われていない空き家※とならないための対策が必要であると思いますか。

<全体 (n=1,211) >

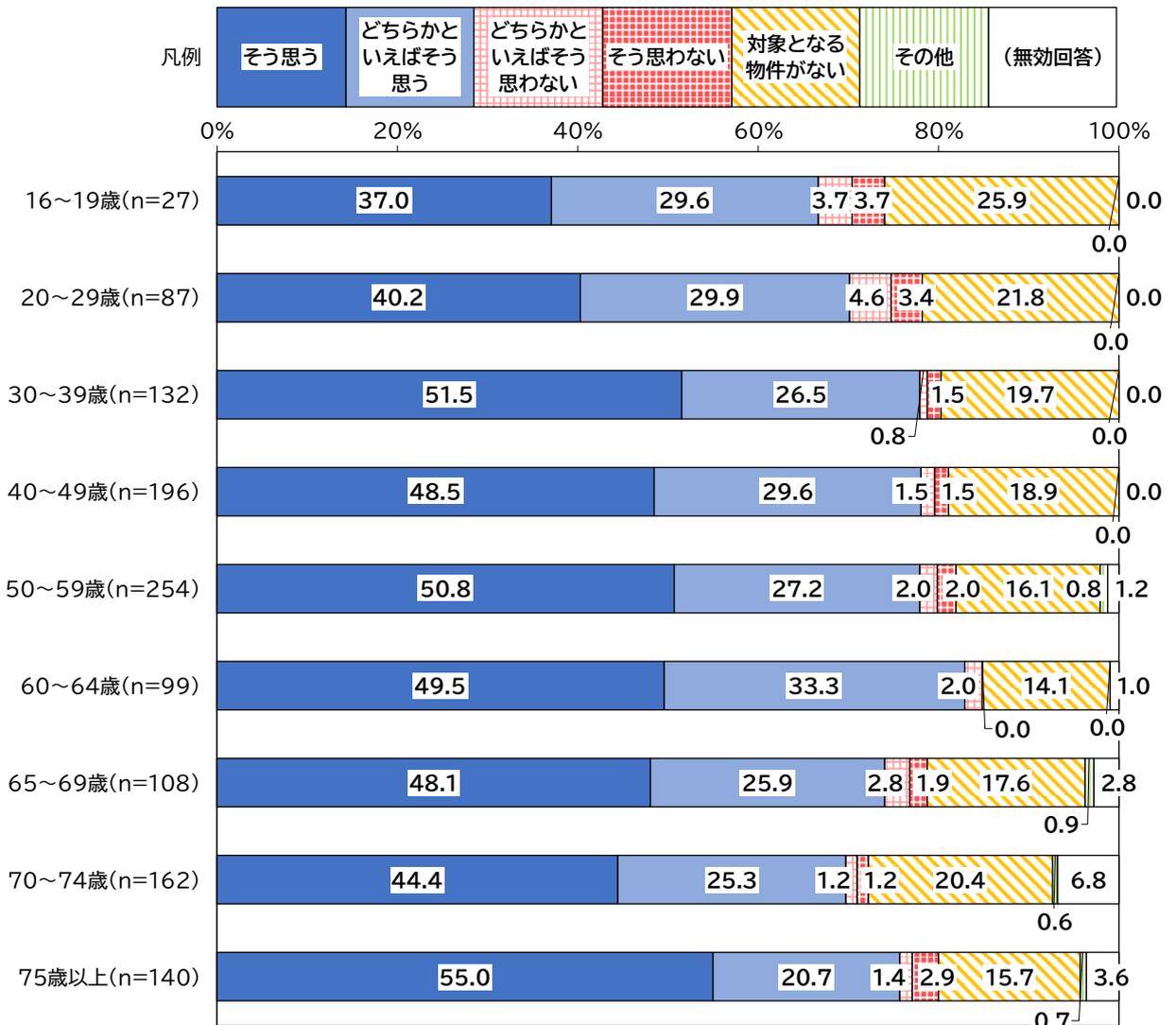
○「そう思う」が 48.7%、「どちらかといえばそう思う」が 27.0%で、合計 75.7%を占めています。

※適切な管理が行われていない空き家は、地域住民の生活環境において、倒壊の危険性や防犯、衛生、景観等に関する深刻な影響を及ぼすなど、社会的な問題となっています。



<年齢層別>

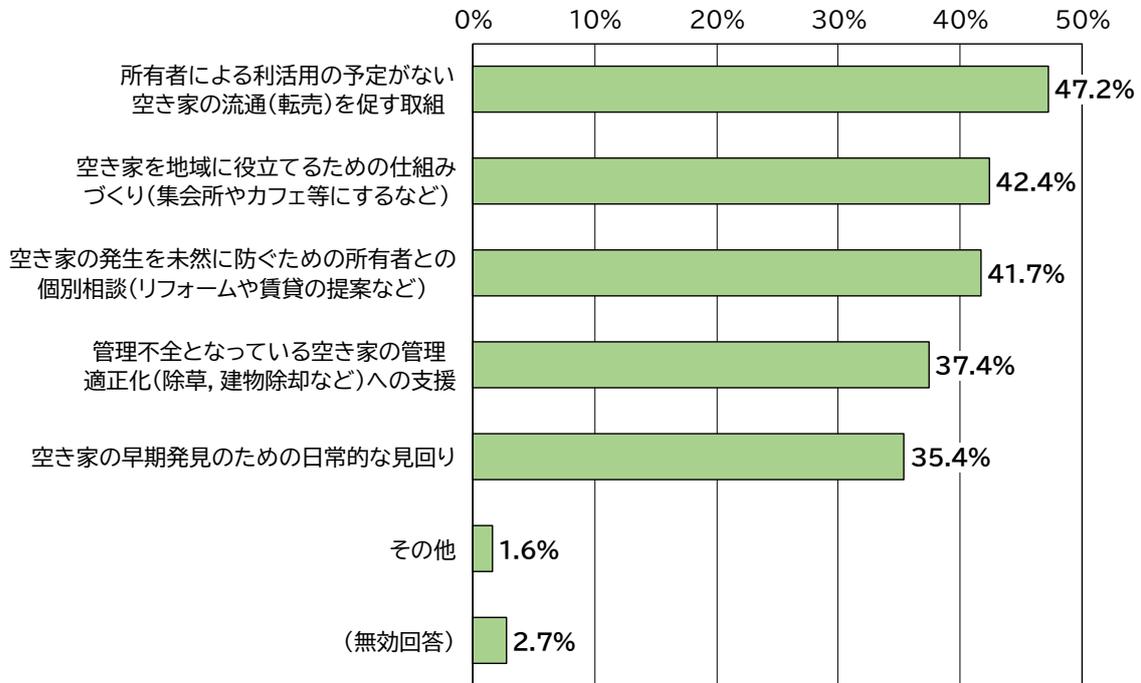
○60～64 歳では、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計が 80%を超えて高くなっています。



問 52-1) あなたは、空き家対策として、今後、市が優先して取り組むべきことは何だと思えますか。

<全体 (n=1,211) >

- 「所有者による利活用の予定がない空き家の流通（転売）を促す取組」が 47.2%で最も高く、次いで「空き家を地域に役立てるための仕組みづくり（集会所やカフェ等にするなど）」の 42.4%、「空き家の発生を未然に防ぐための所有者との個別相談（リフォームや賃貸の提案など）」の 41.7%の順となっています。



<年齢層別>

- 16～19 歳と 50～59 歳では「空き家を地域に役立てるための仕組みづくり（集会所やカフェ等にするなど）」が、20 歳以上では「所有者による利活用の予定がない空き家の流通（転売）を促す取組」が高くなっています。また、60～69 歳では、「空き家の発生を未然に防ぐための所有者との個別相談（リフォームや賃貸の提案など）」も高くなっています。

選択肢	合計	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
全体	1,211	27	87	132	196	254	99	108	162	140
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
所有者による利活用の予定がない空き家の流通(転売)を促す取組	572	7	39	64	96	123	47	49	74	68
	47.2%	25.9%	44.8%	48.5%	49.0%	48.4%	47.5%	45.4%	45.7%	48.6%
空き家を地域に役立てるための仕組みづくり(集会所やカフェ等にするなど)	514	15	37	51	84	123	45	42	60	54
	42.4%	55.6%	42.5%	38.6%	42.9%	48.4%	45.5%	38.9%	37.0%	38.6%
空き家の発生を未然に防ぐための所有者との個別相談(リフォームや賃貸の提案など)	505	10	31	57	83	99	47	49	62	65
	41.7%	37.0%	35.6%	43.2%	42.3%	39.0%	47.5%	45.4%	38.3%	46.4%
管理不全となっている空き家の管理適正化(除草, 建物除却など)への支援	453	7	25	45	69	102	37	44	68	54
	37.4%	25.9%	28.7%	34.1%	35.2%	40.2%	37.4%	40.7%	42.0%	38.6%
空き家の早期発見のための日常的な見回り	429	7	28	44	56	92	37	35	65	60
	35.4%	25.9%	32.2%	33.3%	28.6%	36.2%	37.4%	32.4%	40.1%	42.9%
その他	19	1	0	6	1	1	1	2	5	2
	1.6%	3.7%	0.0%	4.5%	0.5%	0.4%	1.0%	1.9%	3.1%	1.4%
(無効回答)	33	0	1	0	1	3	3	5	9	10
	2.7%	0.0%	1.1%	0.0%	0.5%	1.2%	3.0%	4.6%	5.6%	7.1%

(上段：実数(人)，下段：構成比)

回答割合が最も高い：



回答割合が2番目に高い：



### 第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

#### <自由記述> 主な意見を抜粋

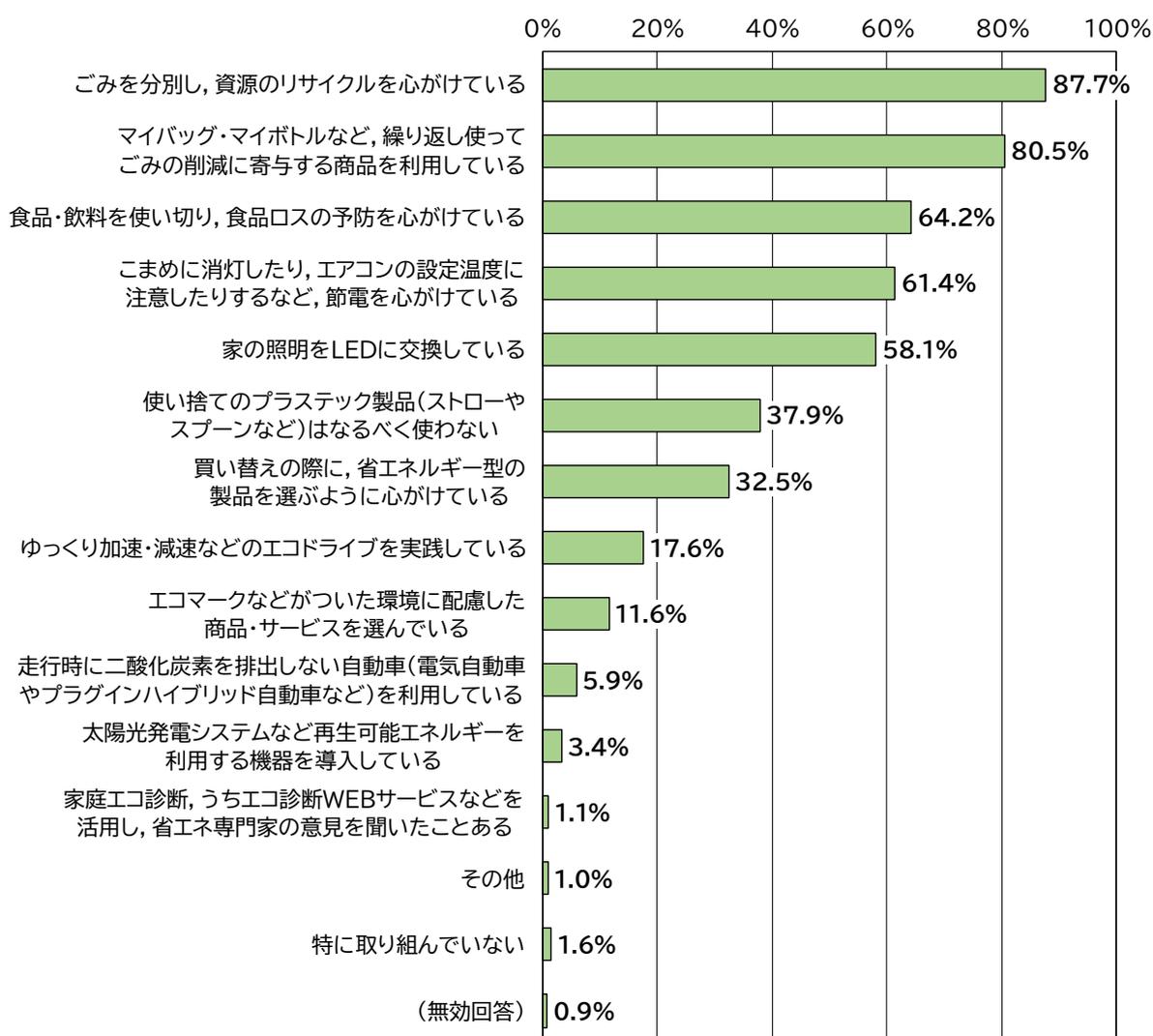
##### 【図表 空き家対策についてのご意見・ご提案】(47件)

- ・ 空き家になる理由や事情はそれぞれあり、放置し続けるのはいけないので、所有者へ保存についてもアドバイスや補助などがあると良いのでは。
- ・ 空き家があっても、市役所のどの部署へ相談すればいいのかわからない。市役所 HP で分かるようにする。
- ・ 古いブロック塀があり危険なため、見まわりや取り崩しなどに取り組んでほしい。
- ・ 市内にある空き家なら購入を検討したいので、情報を発信してもらえると助かる。
- ・ 終活同様に、持ち家や物件を手放したい時の早めの相談場所や方法の周知。

問 53) あなたは、地球温暖化などの環境問題に対し、環境を守るためにどのような取組を行っていますか。

<全体 (n=1,211) >

○「ごみを分別し、資源のリサイクルを心がけている」が 87.7%、「マイバッグ・マイボトルなど、繰り返し使ってごみの削減に寄与する商品を利用している」が 80.5%、「食品・飲料を使い切り、食品ロスの予防を心がけている」が 64.2%となっています。なお、「特に取り組んでいない」は 1.6%となっています。



### 第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

#### <年齢層別>

〇いずれの年齢層も「ごみを分別し、資源のリサイクルを心がけている」と「マイバッグ・マイボトルなど、繰り返し使ってごみの削減に寄与する商品を利用している」が高くなっています。

選択肢	合計	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
全体	1,211	27	87	132	196	254	99	108	162	140
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
ごみを分別し、資源のリサイクルを心がけている	1,062	20	57	103	169	231	95	102	147	133
	87.7%	74.1%	65.5%	78.0%	86.2%	90.9%	96.0%	94.4%	90.7%	95.0%
マイバッグ・マイボトルなど、繰り返し使ってごみの削減に寄与する商品を利用している	975	20	64	111	149	218	86	81	131	110
	80.5%	74.1%	73.6%	84.1%	76.0%	85.8%	86.9%	75.0%	80.9%	78.6%
食品・飲料を使い切り、食品ロスの予防を心がけている	778	14	40	72	127	175	71	80	104	89
	64.2%	51.9%	46.0%	54.5%	64.8%	68.9%	71.7%	74.1%	64.2%	63.6%
こまめに消灯したり、エアコンの設定温度に注意したりするなど、節電を心がけている	744	15	34	72	102	156	69	79	110	103
	61.4%	55.6%	39.1%	54.5%	52.0%	61.4%	69.7%	73.1%	67.9%	73.6%
家の照明をLEDに交換している	703	14	27	59	110	172	74	63	97	84
	58.1%	51.9%	31.0%	44.7%	56.1%	67.7%	74.7%	58.3%	59.9%	60.0%
使い捨てのプラスチック製品（ストローやスプーンなど）はなるべく使わない	459	7	21	43	62	87	53	45	74	63
	37.9%	25.9%	24.1%	32.6%	31.6%	34.3%	53.5%	41.7%	45.7%	45.0%
買い替えの際に、省エネルギー型の製品を選ぶように心がけている	393	4	10	18	53	94	38	44	69	61
	32.5%	14.8%	11.5%	13.6%	27.0%	37.0%	38.4%	40.7%	42.6%	43.6%
ゆっくり加速・減速などのエコドライブを実践している	213	1	9	19	34	54	31	16	27	22
	17.6%	3.7%	10.3%	14.4%	17.3%	21.3%	31.3%	14.8%	16.7%	15.7%
エコマークなどがついた環境に配慮した商品・サービスを選んでいる	141	2	6	12	17	30	14	12	25	21
	11.6%	7.4%	6.9%	9.1%	8.7%	11.8%	14.1%	11.1%	15.4%	15.0%
走行時に二酸化炭素を排出しない自動車（電気自動車やプラグインハイブリッド自動車など）を利用している	72	1	3	5	13	15	11	7	9	8
	5.9%	3.7%	3.4%	3.8%	6.6%	5.9%	11.1%	6.5%	5.6%	5.7%
太陽光発電システムなど再生可能エネルギーを利用する機器を導入している	41	0	4	4	6	10	8	3	1	5
	3.4%	0.0%	4.6%	3.0%	3.1%	3.9%	8.1%	2.8%	0.6%	3.6%
家庭エコ診断、うちエコ診断WEBサービスなどを活用し、省エネ専門家の意見を聞いたことある	13	0	0	0	3	4	1	2	0	3
	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	1.5%	1.6%	1.0%	1.9%	0.0%	2.1%
その他	12	0	1	2	1	3	0	2	2	1
	1.0%	0.0%	1.1%	1.5%	0.5%	1.2%	0.0%	1.9%	1.2%	0.7%
特に取り組んでいない	19	0	5	3	4	2	0	2	3	0
	1.6%	0.0%	5.7%	2.3%	2.0%	0.8%	0.0%	1.9%	1.9%	0.0%
(無効回答)	11	0	0	0	0	2	0	1	5	3
	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%	0.9%	3.1%	2.1%

(上段：実数(人)，下段：構成比)

回答割合が最も高い：



回答割合が2番目に高い：

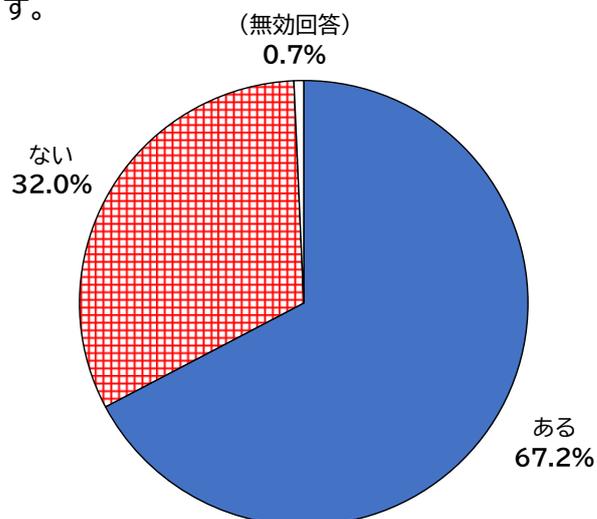


【平和について】

問 54) あなたは、この1年間に、身近な人と戦争や平和について話し合ったり、戦争中の話を聞いたりしたことがありますか。

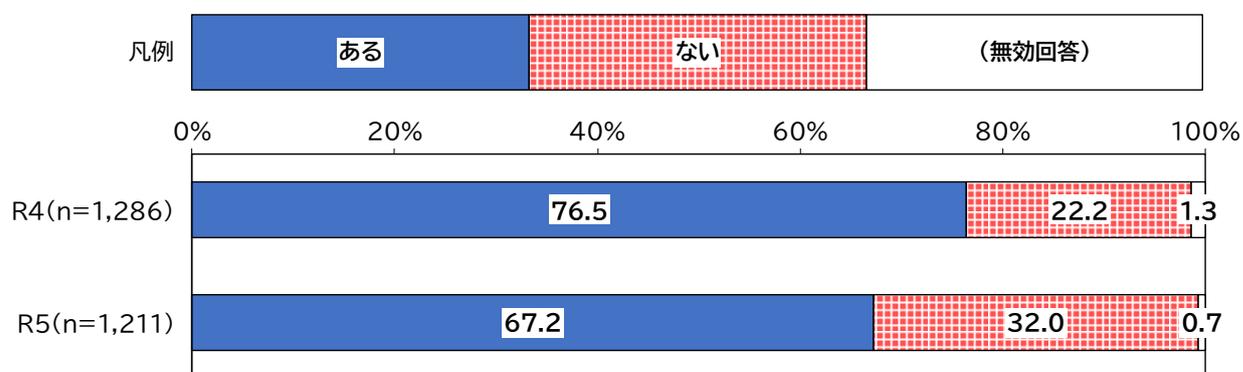
<全体 (n=1,211) >

○「ある」が67.2%、「ない」が32.0%となっています。



<経年比較>

○「ある」は、令和4年度(76.5%)に比べて、9.3ポイント減少しています。

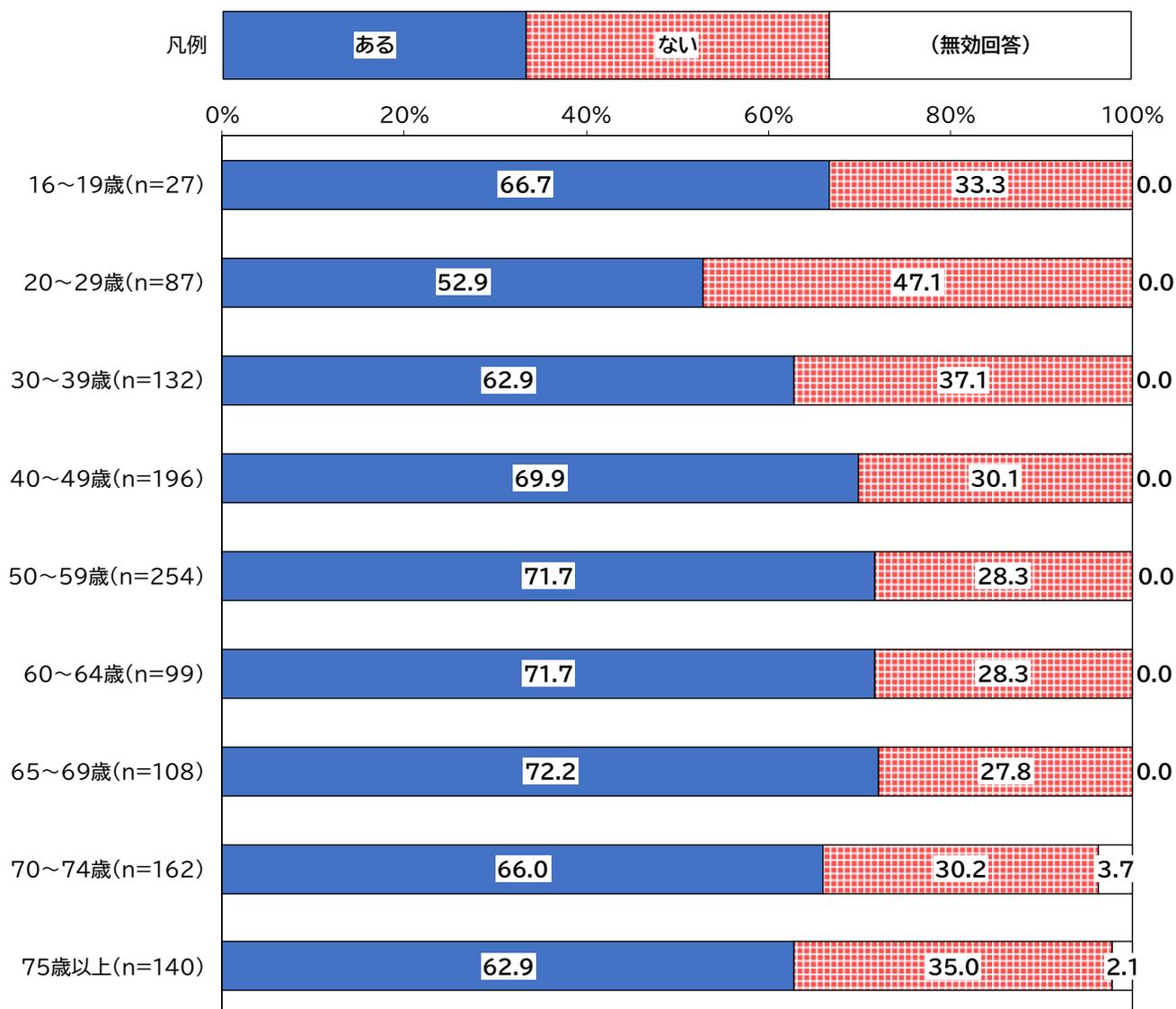


※「調布市基本権計画策定に関する市民アンケート調査 (R4. 12. 12~12. 28)」からの新設した調査項目です。

### 第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

#### <年齢層別>

○20～29歳を除くいずれの年齢層も「ある」が60%を超えています。



#### <自由記述> 主な意見を抜粋

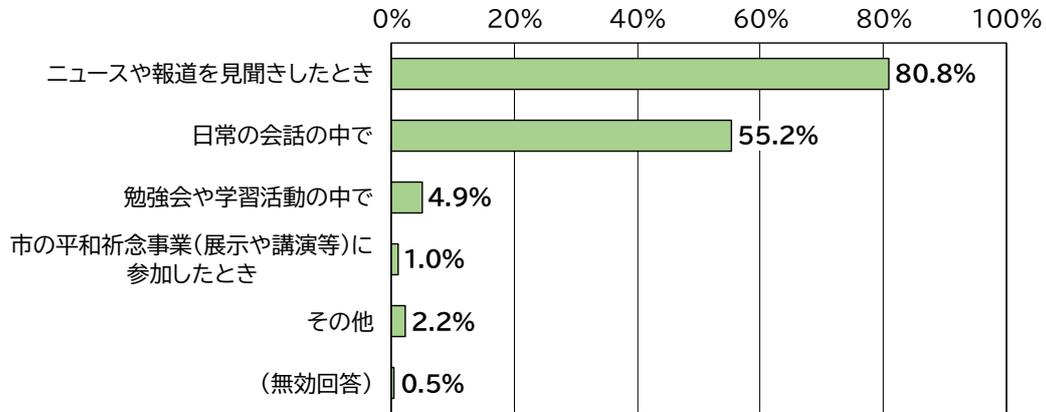
##### 【図表 平和に関する施策についてのご意見・ご提案】(23件)

- ・ 原爆などの悲惨さは伝えられていますが、東京大空襲などの悲惨さが伝えられていない。
- ・ 催しがあるとありがたい。子どもが小学生の時に連れて行ったが、今度は孫にも聴かせたい。
- ・ 対岸のことだと思いがちだがそうではないため、子どもの教育にももっと盛り込むべきと感じる。

問 54-1) 問 54 で「ある」と回答した方にうかがいます。それはどんな時ですか。

<全体 (n=814) >

○場面については、「ニュースや報道を見聞きしたとき」が 80.8%で最も高く、次いで「日常の会話の中で」の 55.2%の順となっています。



<年齢層別>

○いずれの年齢層も「ニュースや報道を見聞きしたとき」と「日常の会話の中で」が高くなっています。

選択肢	合計	16~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~64歳	65~69歳	70~74歳	75歳以上
全体	814	18	46	83	137	182	71	78	107	88
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
ニュースや報道を見聞きしたとき	658	13	38	65	109	142	56	63	91	78
	80.8%	72.2%	82.6%	78.3%	79.6%	78.0%	78.9%	80.8%	85.0%	88.6%
日常の会話の中で	449	8	21	42	67	95	45	43	67	59
	55.2%	44.4%	45.7%	50.6%	48.9%	52.2%	63.4%	55.1%	62.6%	67.0%
勉強会や学習活動の中で	40	8	2	6	7	2	2	3	4	5
	4.9%	44.4%	4.3%	7.2%	5.1%	1.1%	2.8%	3.8%	3.7%	5.7%
市の平和祈念事業(展示や講演等)に参加したとき	8	0	0	1	1	0	0	2	1	3
	1.0%	0.0%	0.0%	1.2%	0.7%	0.0%	0.0%	2.6%	0.9%	3.4%
その他	18	1	0	1	5	3	2	3	2	1
	2.2%	5.6%	0.0%	1.2%	3.6%	1.6%	2.8%	3.8%	1.9%	1.1%
(無効回答)	4	1	0	0	0	2	0	0	1	0
	0.5%	5.6%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%

(上段：実数(人)，下段：構成比)

回答割合が最も高い：

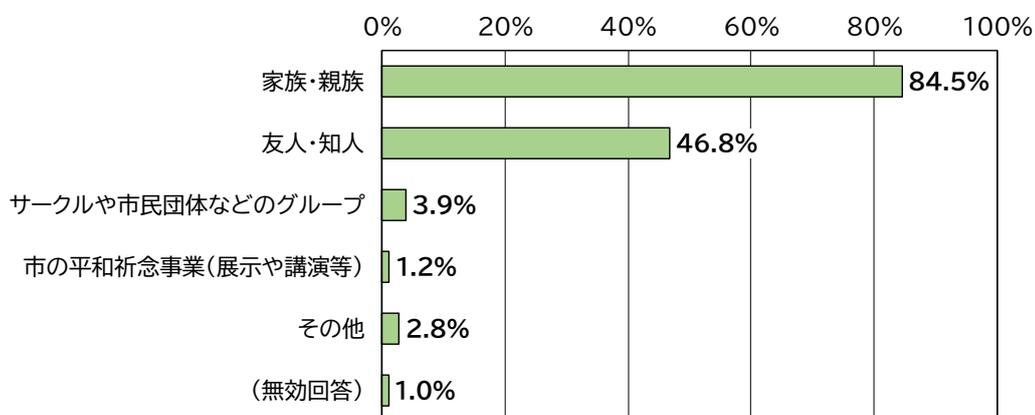
回答割合が2番目に高い：

### 第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

問 54-2) 問 54 で「ある」と回答した方にうかがいます。それは誰と話し合ったり、誰から聞いたりしましたか。

<全体 (n=814) >

○相手については、「家族・親族」が 84.5%で最も高く、次いで「友人・知人」の 46.8%の順となっています。



<年齢層別>

○いずれの年齢層も「家族・親族」と「友人・知人」が高くなっています。

選択肢	合計	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
全体	814	18	46	83	137	182	71	78	107	88
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
家族・親族	688	13	36	74	120	171	57	56	89	69
	84.5%	72.2%	78.3%	89.2%	87.6%	94.0%	80.3%	71.8%	83.2%	78.4%
友人・知人	381	10	18	34	48	65	41	45	66	53
	46.8%	55.6%	39.1%	41.0%	35.0%	35.7%	57.7%	57.7%	61.7%	60.2%
サークルや市民団体などのグループ	32	1	1	2	2	0	4	1	11	9
	3.9%	5.6%	2.2%	2.4%	1.5%	0.0%	5.6%	1.3%	10.3%	10.2%
市の平和祈念事業(展示や講演等)	10	0	0	0	1	1	1	2	2	3
	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	0.5%	1.4%	2.6%	1.9%	3.4%
その他	23	4	2	2	5	4	0	1	3	2
	2.8%	22.2%	4.3%	2.4%	3.6%	2.2%	0.0%	1.3%	2.8%	2.3%
(無効回答)	8	0	1	0	0	1	2	3	1	0
	1.0%	0.0%	2.2%	0.0%	0.0%	0.5%	2.8%	3.8%	0.9%	0.0%

(上段：実数(人)，下段：構成比)

回答割合が最も高い：



回答割合が2番目に高い：



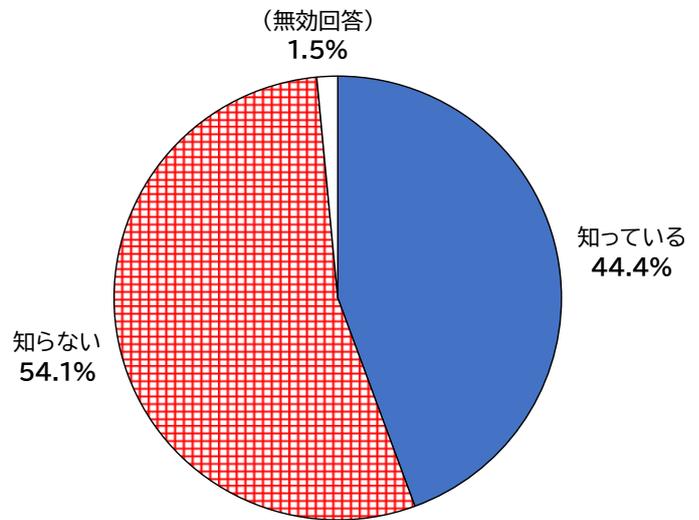
【児童虐待・人権・男女共同参画について】

問 55) あなたは、児童虐待やDV（ドメスティックバイオレンス）に関する次の相談窓口を知っていますか。

<全体 (n=1,211) >

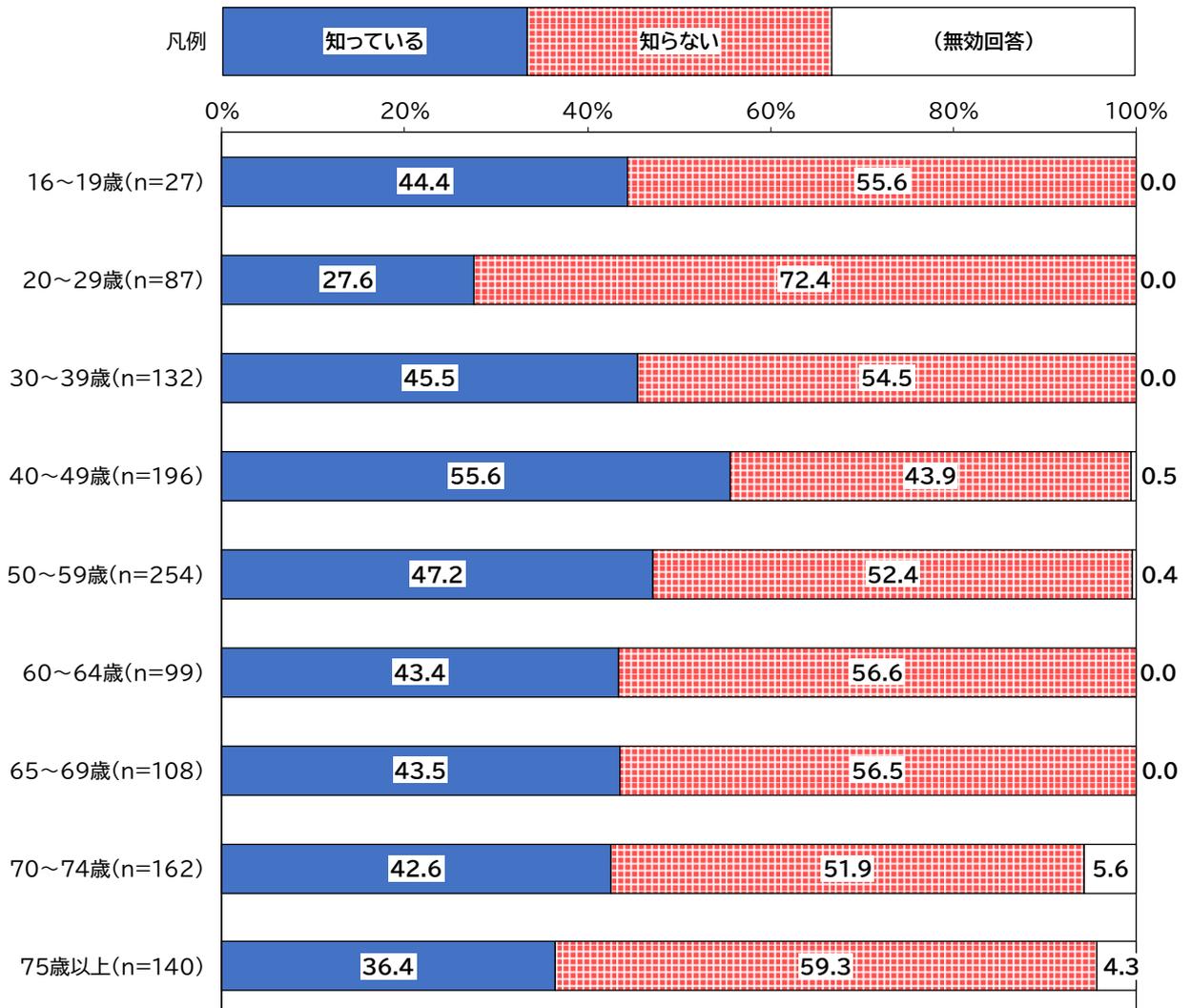
ア 児童虐待に関する相談

○「知っている」は 44.4%、「知らない」は 54.1%となっています。



<年齢層別>

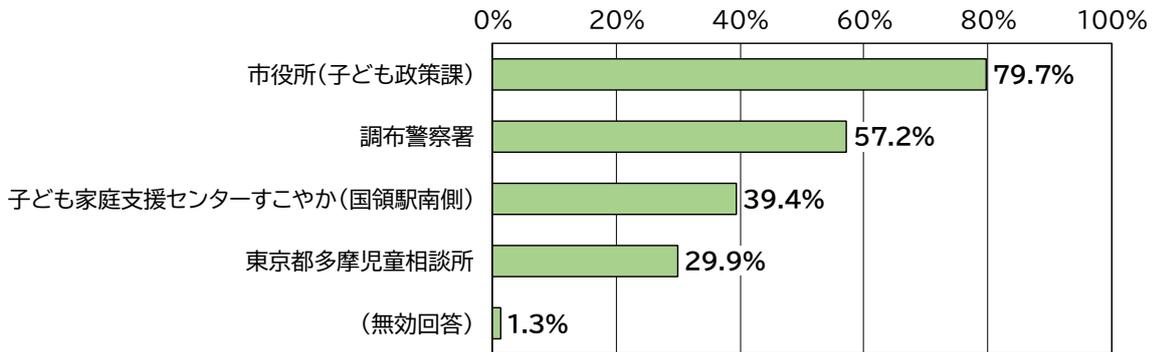
○40～49 歳では「知っている」が半数を超えている一方で、20～29 歳では「知らない」が 70%を超えています。



第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

<相談窓口 (n=538) >

○「市役所 (子ども政策課)」が 79.7%で最も高く、次いで「調布警察署」の 57.2%、「子ども家庭支援センターすこやか (国領駅南側)」の 39.4%の順となっています。



<年齢別相談窓口>

○おおむねいずれの年齢層も「市役所 (子ども政策課)」と「調布警察署」が高くなっていますが、40～49 歳では「子ども家庭支援センターすこやか (国領駅南側)」が他の年齢層と比べて高くなっています。

選択肢	合計	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
全体	538	12	24	60	109	120	43	47	69	51
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
市役所 (子ども政策課)	429	10	20	51	94	93	32	32	50	44
	79.7%	83.3%	83.3%	85.0%	86.2%	77.5%	74.4%	68.1%	72.5%	86.3%
調布警察署	308	6	17	33	49	74	25	26	41	35
	57.2%	50.0%	70.8%	55.0%	45.0%	61.7%	58.1%	55.3%	59.4%	68.6%
子ども家庭支援センターすこやか (国領駅南側)	212	5	5	29	55	51	13	13	21	18
	39.4%	41.7%	20.8%	48.3%	50.5%	42.5%	30.2%	27.7%	30.4%	35.3%
東京都多摩児童相談所	161	1	7	20	33	38	13	15	19	14
	29.9%	8.3%	29.2%	33.3%	30.3%	31.7%	30.2%	31.9%	27.5%	27.5%
(無効回答)	7	0	0	0	3	0	0	2	2	0
	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%	2.8%	0.0%	0.0%	4.3%	2.9%	0.0%

(上段：実数 (人)，下段：構成比)

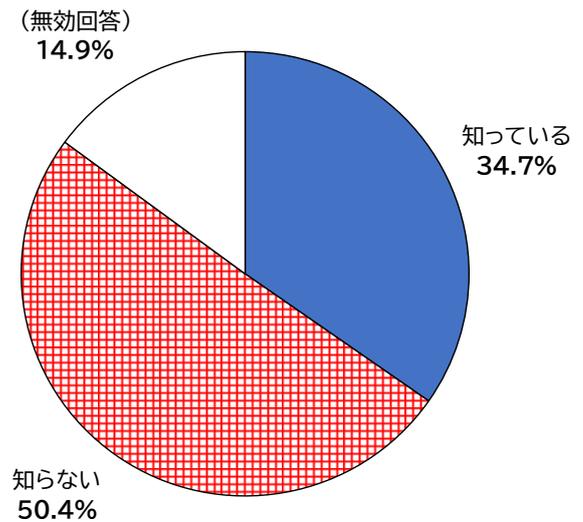
回答割合が最も高い：

回答割合が2番目に高い：

<全体 (n=1,211) >

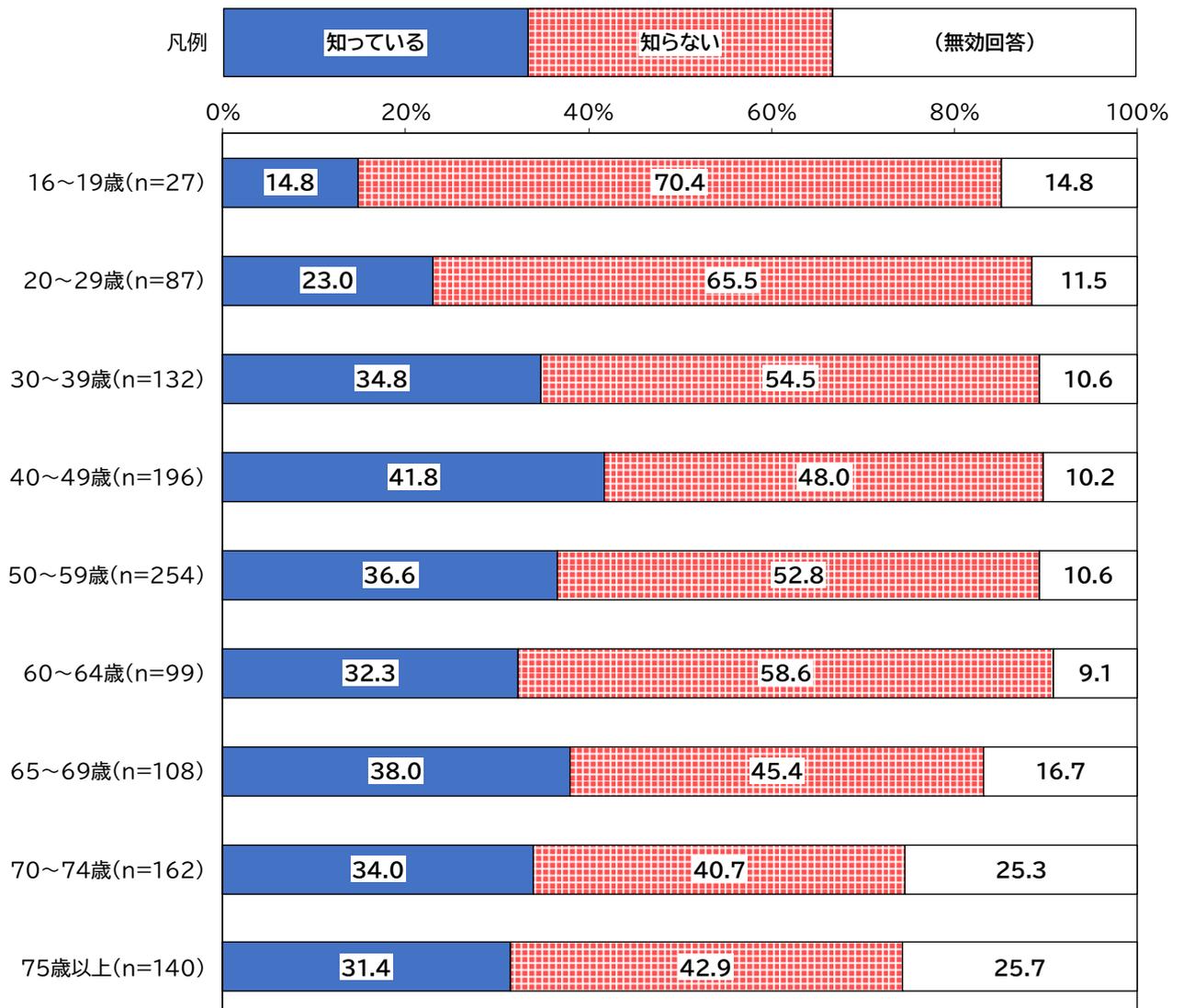
イ DV (ドメスティックバイオレンス) に関する相談窓口

○「知っている」は 34.7%, 「知らない」は 50.4%となっています。



<年齢層別>

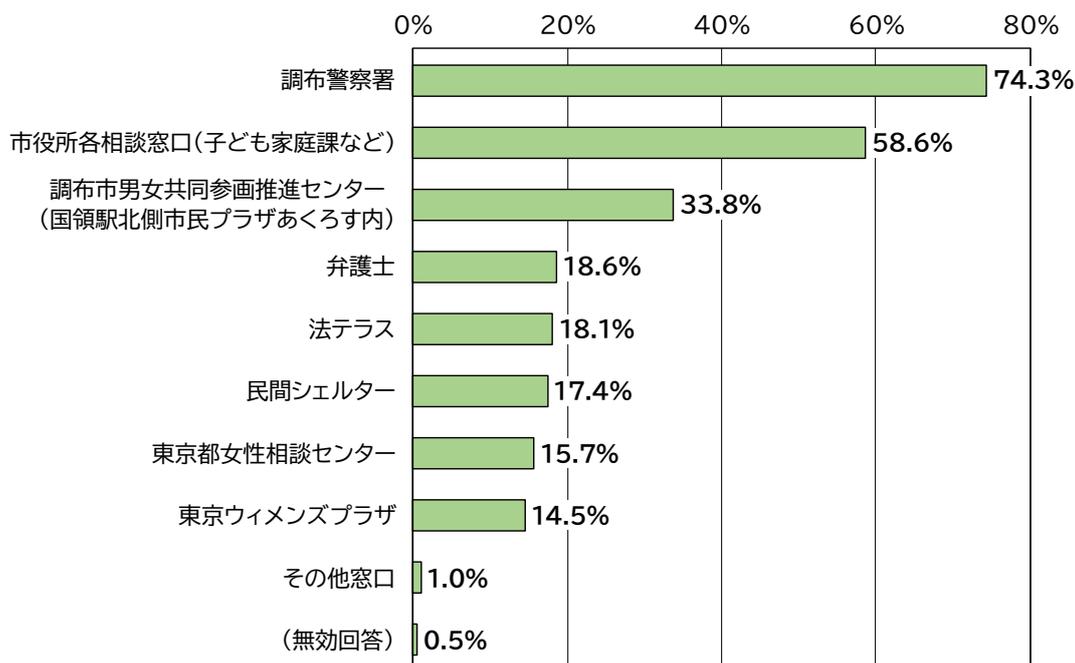
○いずれの年齢層も「知らない」が「知っている」を上回っており、特に 16~29 歳は「知らない」が 60%を超えています。



### 第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

<相談窓口 (n=420) >

○「調布警察署」が 74.3%で最も高く、次いで「市役所各相談窓口 (子ども家庭課など)」の 58.6%、「調布市男女共同参画推進センター (国領駅北側市民プラザあくろす内)」の 33.8%の順となっています。



<年齢層別>

○いずれの年齢層でも「調布警察署」が最も高く、「市役所各相談窓口 (子ども家庭課など)」がおおむね 2 番目に高くなっています。

選択肢	合計	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
全体	420	4	20	46	82	93	32	41	55	44
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
調布警察署	312	3	17	34	56	71	27	29	38	34
	74.3%	75.0%	85.0%	73.9%	68.3%	76.3%	84.4%	70.7%	69.1%	77.3%
市役所各相談窓口 (子ども家庭課など)	246	3	11	25	54	53	20	19	27	33
	58.6%	75.0%	55.0%	54.3%	65.9%	57.0%	62.5%	46.3%	49.1%	75.0%
調布市男女共同参画推進センター (国領駅北側市民プラザあくろす内)	142	1	4	19	28	31	9	13	22	13
	33.8%	25.0%	20.0%	41.3%	34.1%	33.3%	28.1%	31.7%	40.0%	29.5%
弁護士	78	0	6	12	16	17	4	5	13	4
	18.6%	0.0%	30.0%	26.1%	19.5%	18.3%	12.5%	12.2%	23.6%	9.1%
法テラス	76	0	2	13	12	23	3	5	8	8
	18.1%	0.0%	10.0%	28.3%	14.6%	24.7%	9.4%	12.2%	14.5%	18.2%
民間シェルター	73	1	4	12	18	18	4	4	5	6
	17.4%	25.0%	20.0%	26.1%	22.0%	19.4%	12.5%	9.8%	9.1%	13.6%
東京都女性相談センター	66	0	3	8	12	17	5	5	9	6
	15.7%	0.0%	15.0%	17.4%	14.6%	18.3%	15.6%	12.2%	16.4%	13.6%
東京ウィメンズプラザ	61	0	0	10	14	19	1	7	6	2
	14.5%	0.0%	0.0%	21.7%	17.1%	20.4%	3.1%	17.1%	10.9%	4.5%
その他窓口	4	0	0	0	0	2	1	0	0	1
	1.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.2%	3.1%	0.0%	0.0%	2.3%
(無効回答)	2	0	0	0	0	0	0	1	1	0
	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.4%	1.8%	0.0%

(上段：実数 (人)，下段：構成比)

回答割合が最も高い：



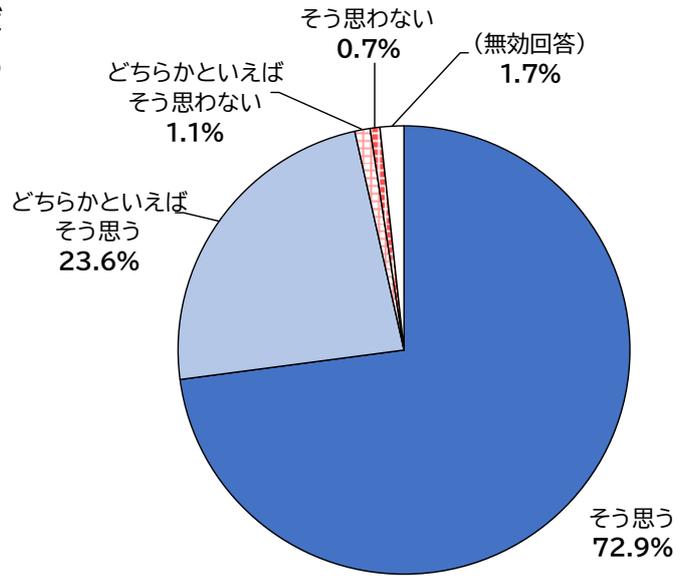
回答割合が2番目に高い：



問 56) あなたは、家事・子育て・介護などの家庭内での役割は男女がともに担う必要があると思いますか。

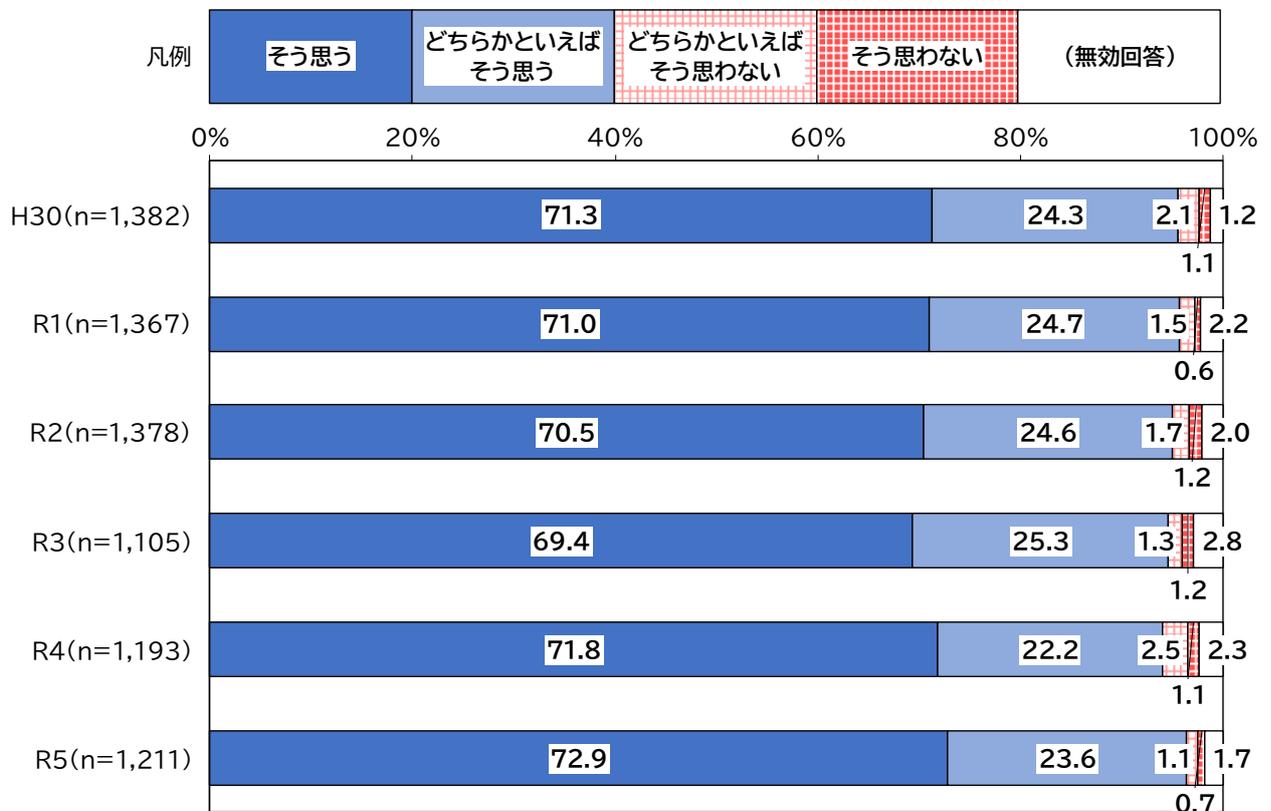
<全体 (n=1,211) >

○「そう思う」が 72.9%、「どちらかといえば  
そう思う」が 23.6%で、合計 96.5%を占めています。



<経年比較>

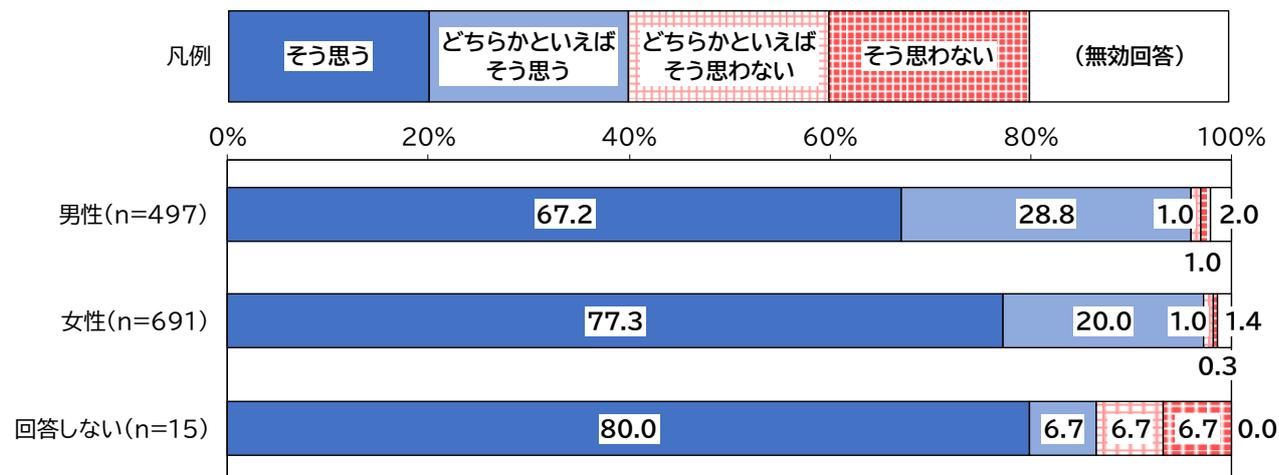
○「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計は、平成 30 年度以降、一貫して 95%前後で推移しています。



### 第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

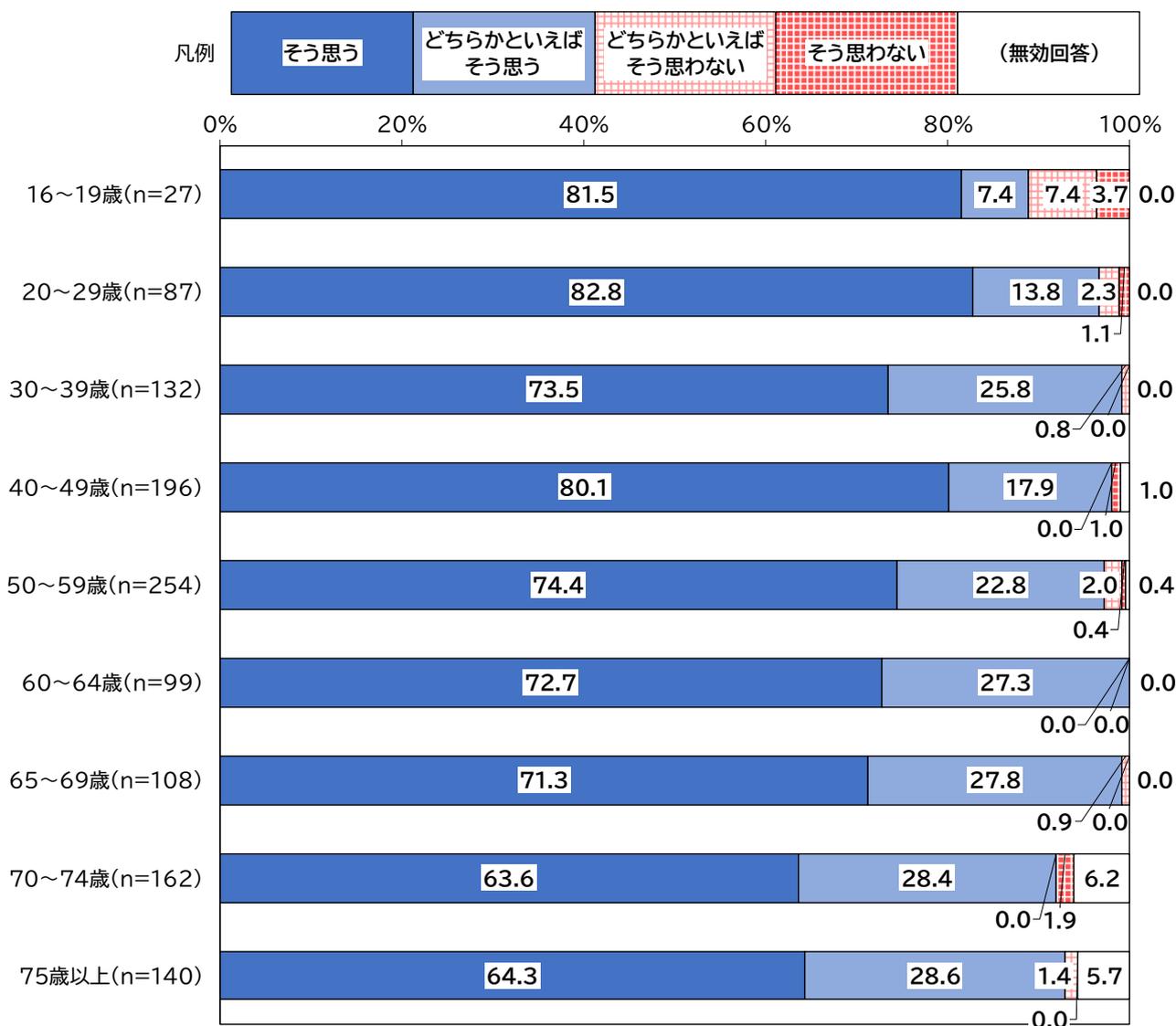
#### <性別>

○「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計は、男性が96.0%、女性が97.3%となっています。



#### <年齢層別>

○16～19歳を除くいずれの年齢層で、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計が90%台となっています。また、「そう思う」は、おおむね年齢が下がるにつれて高くなる傾向にあります。



<自由記述> 主な意見を抜粋

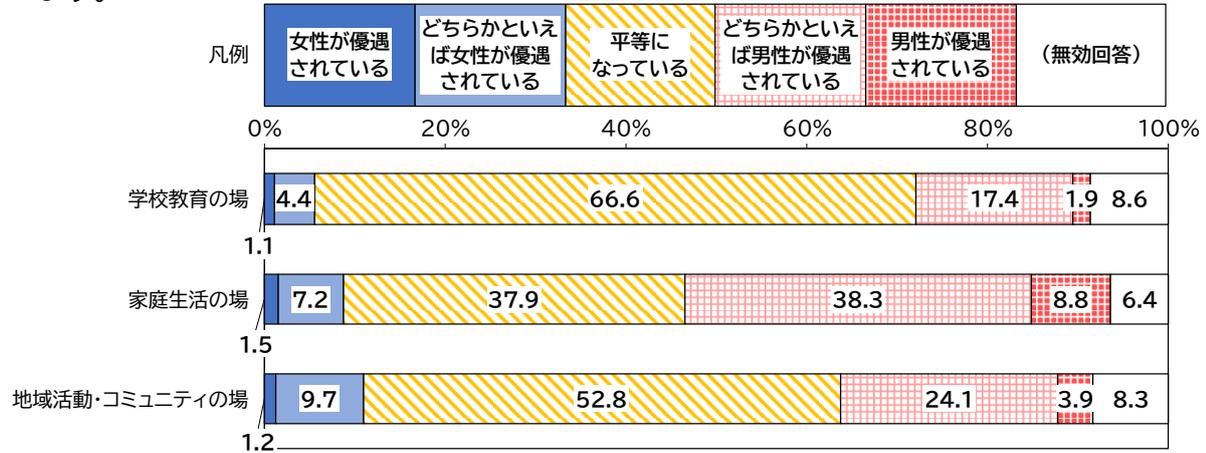
【図表 人権・男女共同参画に関する施策についてのご意見・ご提案】(60件)

- ・ 些細なことかもしれないが、広報の挿絵など女性，男性だけでなく，両者をいれることが大事かと思う。
- ・ 男性が手伝っているという考えを止めた方がいいと思う。役割を果たす権利があると思った方が，取り組みやすい。
- ・ 現在の子育ては女性が担う生活になっていると思う。例えば共働きの場合，安価な保育施設がなく，正社員を続けることが難しいと感じた。
- ・ 国レベルの話になってしまいますが，妻が何かと苦労しているのを見ていると，選択式夫婦別姓制度は早く実現すべきだと感じています。
- ・ 子どもが小さいうちからの意識改革が必要（保育園，小学校）。

問 57) 次の場面について、あなたは男女平等だと感じていますか。

<全体 (n=1,211) >

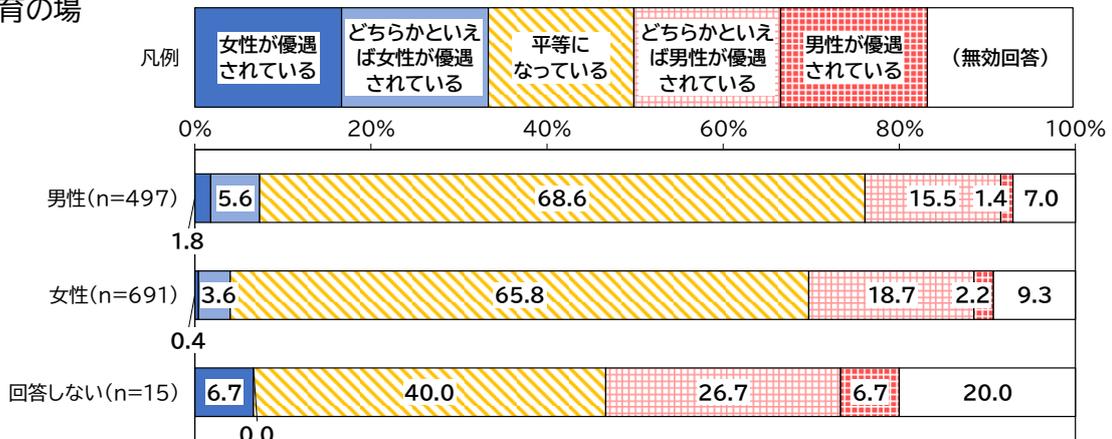
○「学校教育の場」及び「地域活動・コミュニティの場」では「平等になっている」が半数を超えています。また、「家庭生活の場」では、「どちらかといえば男性が優遇されている」が 38.3%で高くなっています。



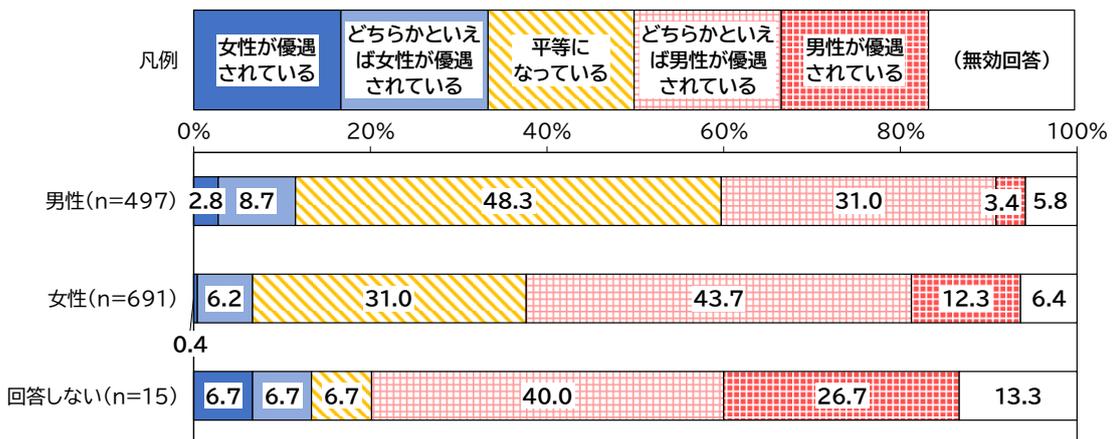
<性別>

○いずれの場面も、「どちらかといえば男性が優遇されている」と「男性が優遇されている」の合計が、「どちらかといえば女性が優遇されている」と「女性が優遇されている」の合計を上回っていますが、「学校教育の場」では、「平等になっている」が男性・女性とも 60%を超えています。

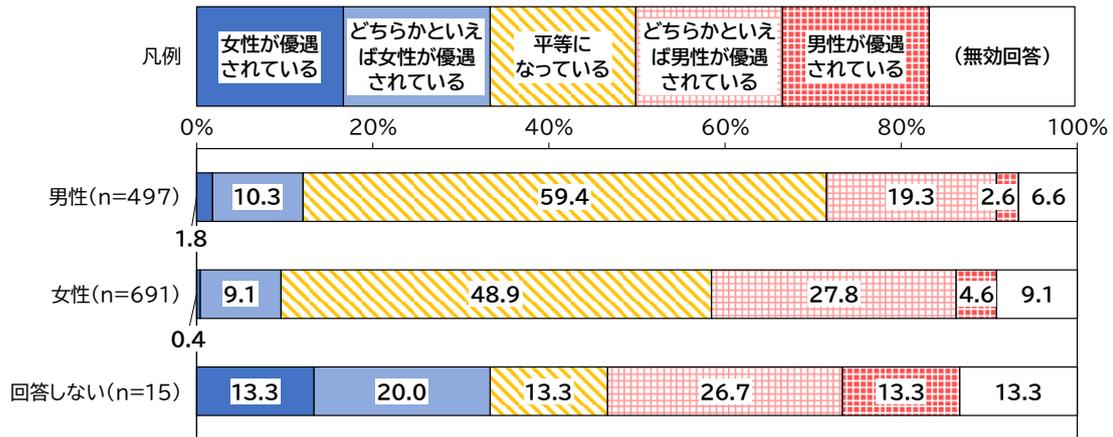
学校教育の場



家庭生活の場



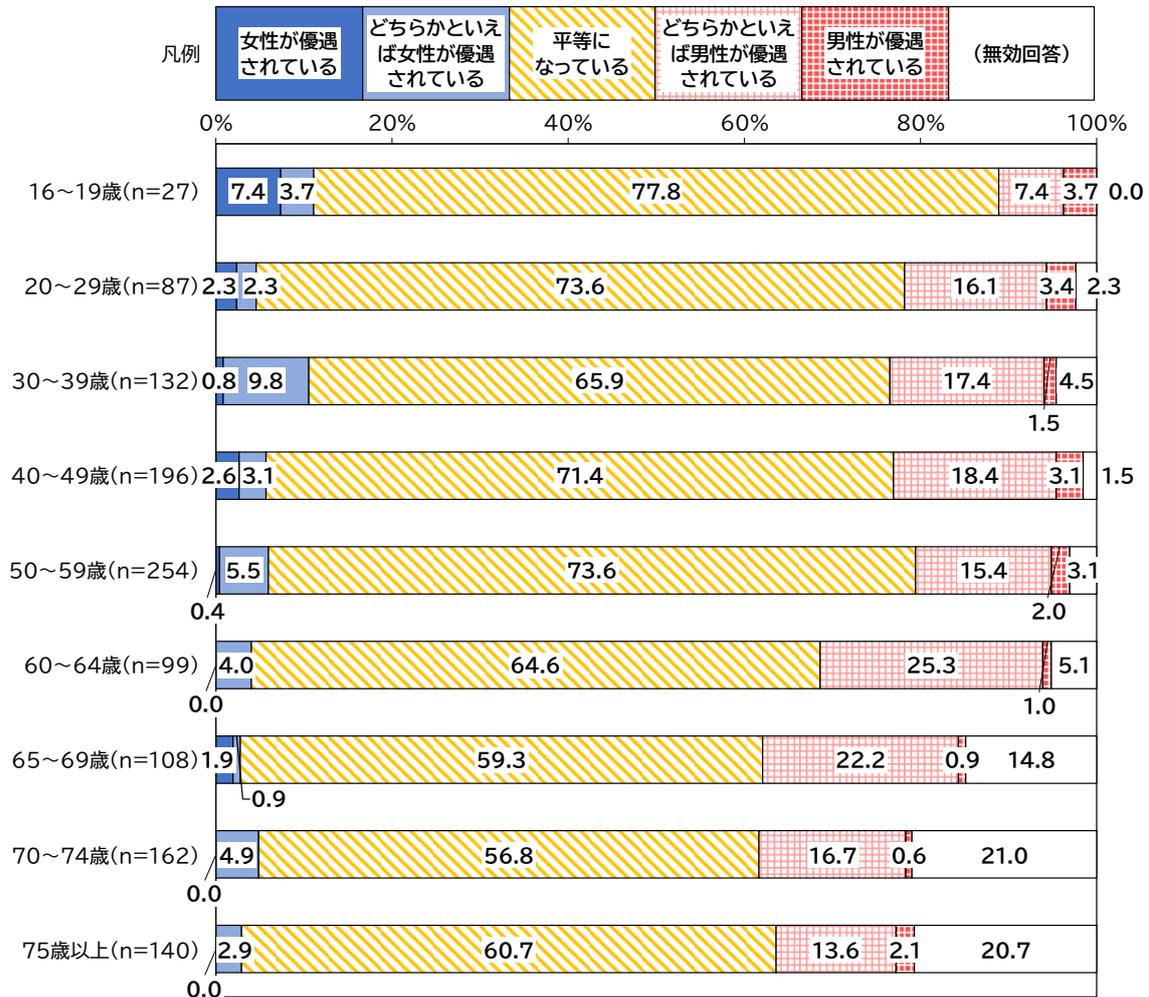
地域活動・コミュニティの場



<年齢層別>

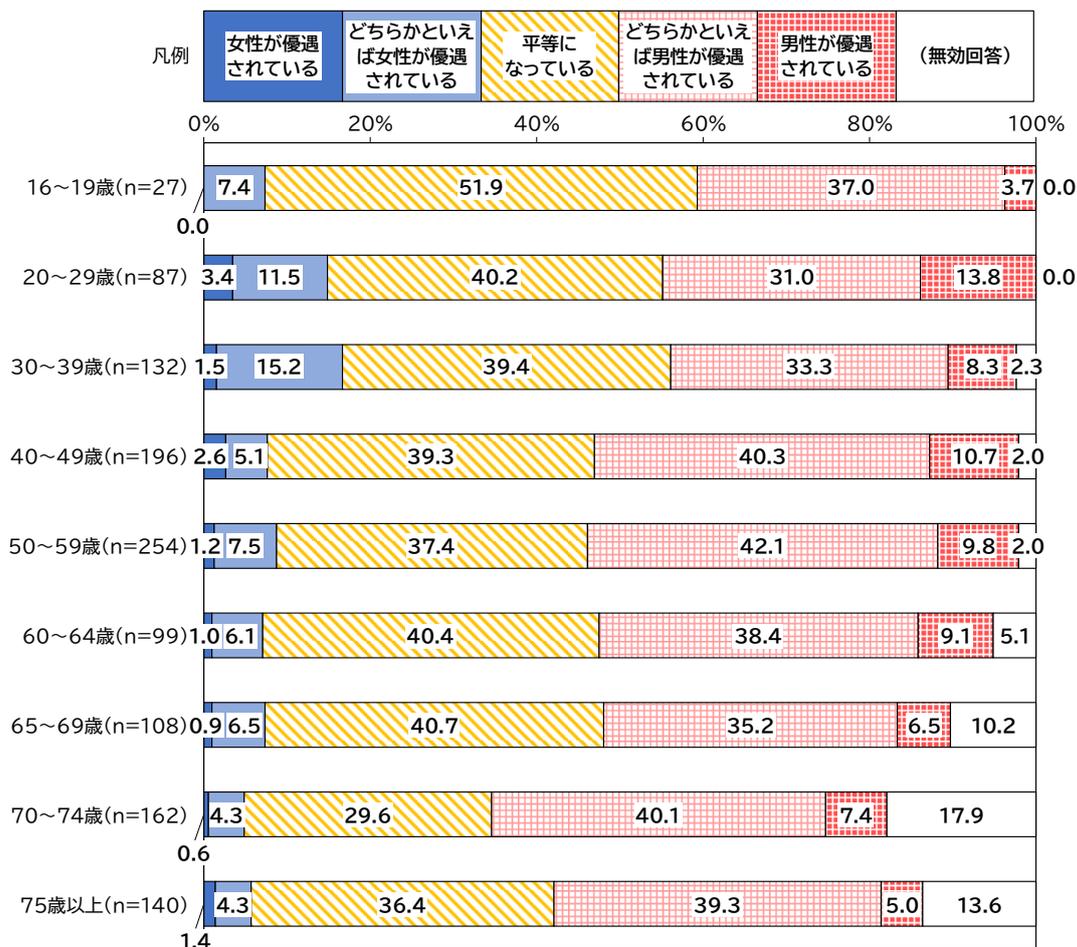
○「学校教育の場」、「地域活動・コミュニティの場」の16～19歳を除き、いずれの場面、年齢層も、「どちらかといえば男性が優遇されている」と「男性が優遇されている」の合計が、「どちらかといえば女性が優遇されている」と「女性が優遇されている」の合計を上回っています。

学校教育の場

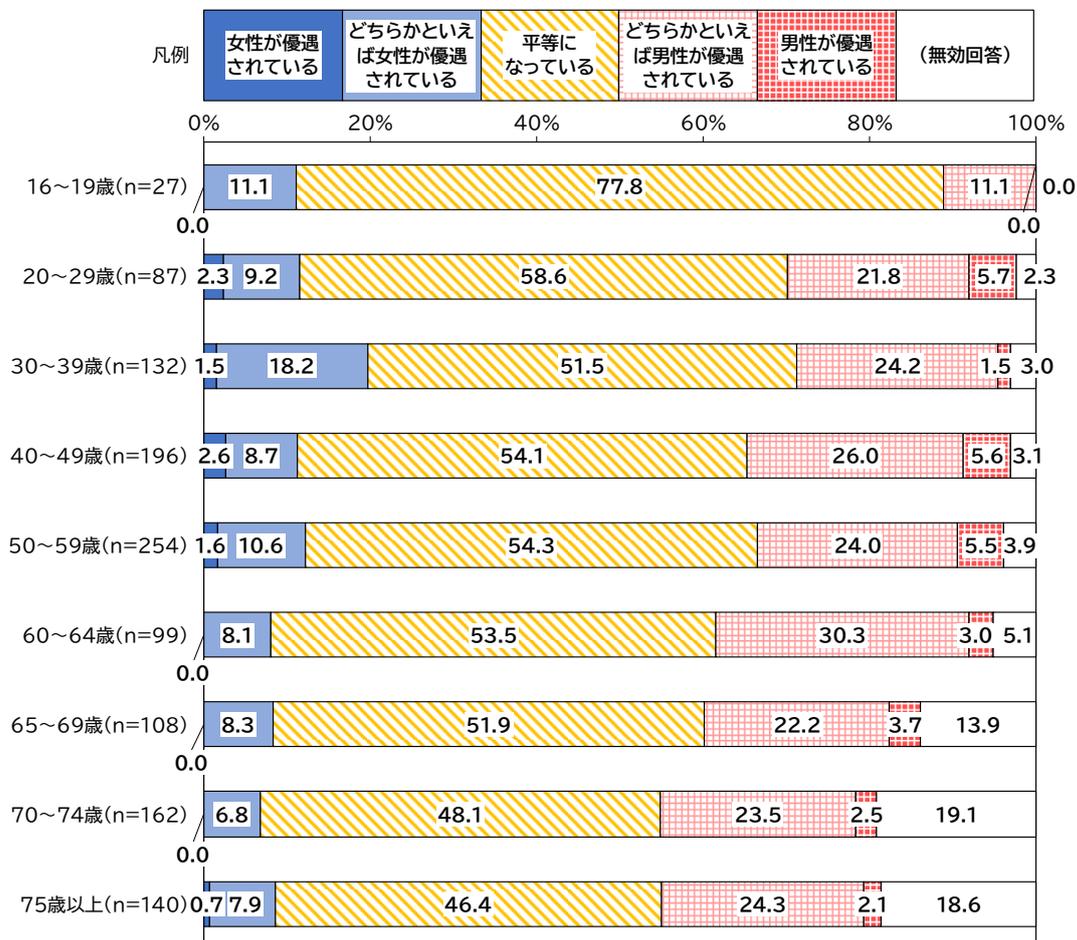


### 第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

#### 家庭生活の場



#### 地域活動・コミュニティの場

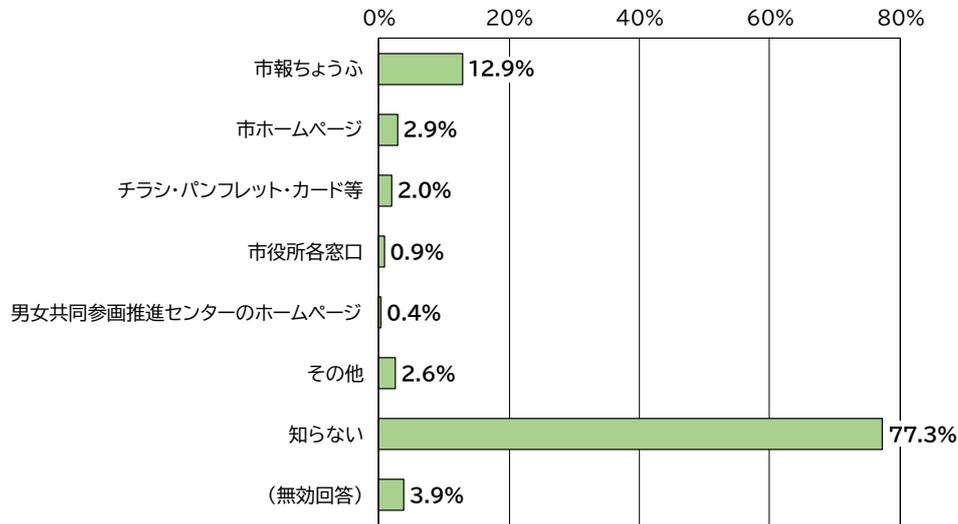


問 58) あなたは、多様な性に関する市の取組について知っていますか。知っている場合は、何によって知ったかあてはまるものに○をつけてください。知らない場合は、知らないに○をつけてください。

調布市パートナーシップ宣誓制度

<全体 (n=1,211) >

○「市報ちょうふ」が12.9%で最も高くなっています。なお、「知らない」は77.3%となっています。



※同性同士のカップル等について、結婚に相当するパートナー関係であることを公的に証明する制度で、都内では21市区（令和5年9月現在）が実施しています。ただし、法律婚とは異なり法的効力はありません。

<年齢層別>

○16～29歳では、「市ホームページ」、30歳以上では、「市報ちょうふ」が高くなっています。

選択肢	合計	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
全体	1,211	27	87	132	196	254	99	108	162	140
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
市報ちょうふ	156	2	2	13	28	34	14	15	26	21
	12.9%	7.4%	2.3%	9.8%	14.3%	13.4%	14.1%	13.9%	16.0%	15.0%
市ホームページ	35	3	4	1	4	7	3	2	7	4
	2.9%	11.1%	4.6%	0.8%	2.0%	2.8%	3.0%	1.9%	4.3%	2.9%
チラシ・パンフレット・カード等	24	0	2	1	4	3	1	1	7	4
	2.0%	0.0%	2.3%	0.8%	2.0%	1.2%	1.0%	0.9%	4.3%	2.9%
市役所各窓口	11	0	0	1	3	2	0	1	3	1
	0.9%	0.0%	0.0%	0.8%	1.5%	0.8%	0.0%	0.9%	1.9%	0.7%
男女共同参画推進センターのホームページ	5	0	0	0	1	1	0	1	1	1
	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	0.4%	0.0%	0.9%	0.6%	0.7%
その他	31	0	4	2	6	6	2	2	9	0
	2.6%	0.0%	4.6%	1.5%	3.1%	2.4%	2.0%	1.9%	5.6%	0.0%
知らない	936	22	76	113	152	203	82	80	107	96
	77.3%	81.5%	87.4%	85.6%	77.6%	79.9%	82.8%	74.1%	66.0%	68.6%
(無効回答)	47	1	0	1	3	3	0	7	15	17
	3.9%	3.7%	0.0%	0.8%	1.5%	1.2%	0.0%	6.5%	9.3%	12.1%

(上段：実数(人)，下段：構成比)

回答割合が最も高い： 市報ちょうふ

回答割合が2番目に高い： 知らない

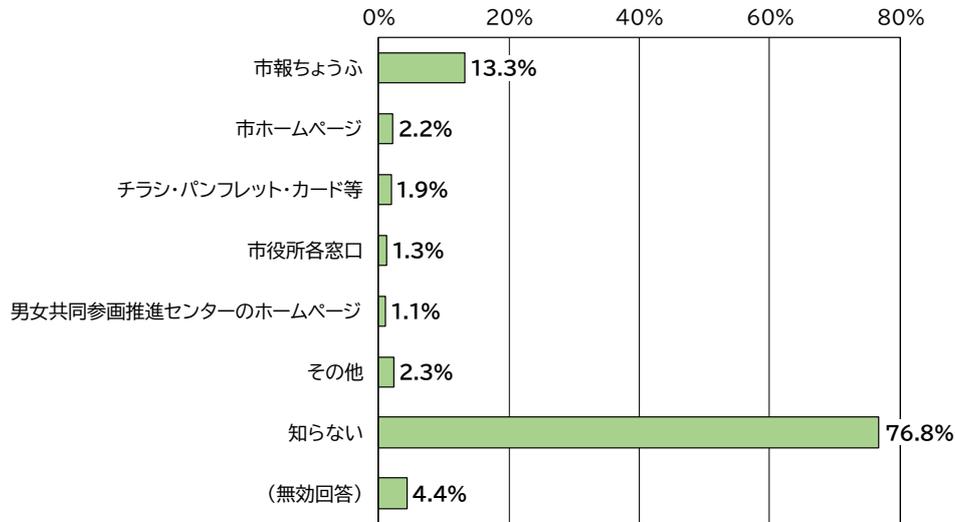
※網掛けは「知らない」を除く各項目のうち割合の高いもの

第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

多様な性に関する相談

<全体 (n=1,211) >

○「市報ちようふ」が13.3%で最も高くなっています。なお、「知らない」は76.8%となっています。



<年齢層別>

○16～19歳では、「市ホームページ」、20歳以上では、「市報ちようふ」が高くなっています。

選択肢	合計	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
全体	1,211	27	87	132	196	254	99	108	162	140
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
市報ちようふ	161	0	6	13	24	44	16	12	22	23
	13.3%	0.0%	6.9%	9.8%	12.2%	17.3%	16.2%	11.1%	13.6%	16.4%
市ホームページ	27	2	2	1	3	6	3	2	6	2
	2.2%	7.4%	2.3%	0.8%	1.5%	2.4%	3.0%	1.9%	3.7%	1.4%
チラシ・パンフレット・カード等	23	0	0	1	3	5	1	0	7	5
	1.9%	0.0%	0.0%	0.8%	1.5%	2.0%	1.0%	0.0%	4.3%	3.6%
市役所各窓口	16	1	1	1	5	1	1	1	4	1
	1.3%	3.7%	1.1%	0.8%	2.6%	0.4%	1.0%	0.9%	2.5%	0.7%
男女共同参画推進センターのホームページ	13	1	0	0	5	1	1	1	2	2
	1.1%	3.7%	0.0%	0.0%	2.6%	0.4%	1.0%	0.9%	1.2%	1.4%
その他	28	0	1	2	5	8	2	2	7	1
	2.3%	0.0%	1.1%	1.5%	2.6%	3.1%	2.0%	1.9%	4.3%	0.7%
知らない	930	23	77	113	153	194	80	81	108	96
	76.8%	85.2%	88.5%	85.6%	78.1%	76.4%	80.8%	75.0%	66.7%	68.6%
(無効回答)	53	1	0	1	3	4	0	10	18	16
	4.4%	3.7%	0.0%	0.8%	1.5%	1.6%	0.0%	9.3%	11.1%	11.4%

(上段：実数(人)，下段：構成比)

回答割合が最も高い：

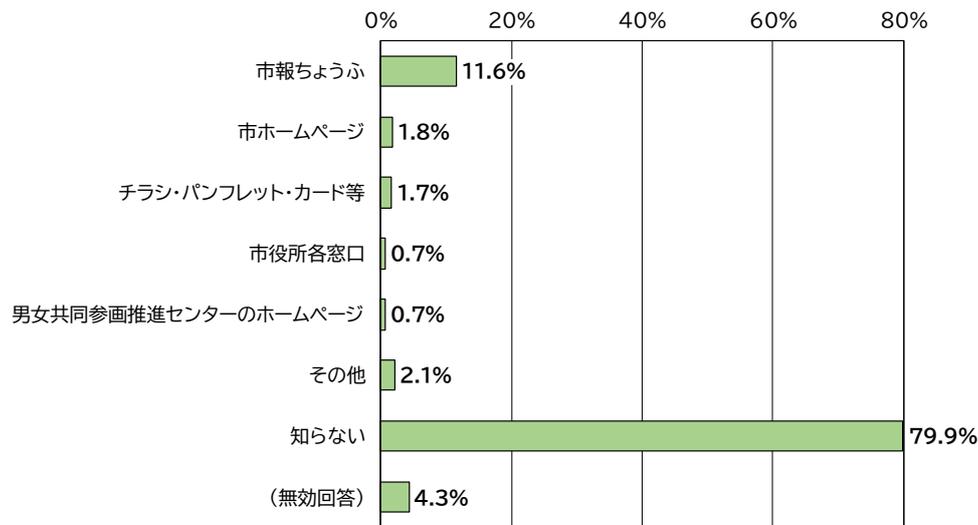
回答割合が2番目に高い：

※網掛けは「知らない」を除く各項目のうち割合の高いもの

LGBT※1や SOGI※2 に関する講座

<全体 (n=1,211) >

○「市報ちょうふ」が11.6%で最も高くなっています。なお、「知らない」は79.9%となっています。



※1Lはレズビアン（女性の同性愛者）、Gはゲイ（男性の同性愛者）、Bはバイセクシャル（両性愛者）、Tはトランスジェンダー（性的違和感を持つ方）の頭文字を取った言葉で、性的マイノリティの総称のひとつとして使われています。さらに、自分の性のあり方について「わからない」「迷っている」「決めたくない」などの人を指すクエスチョニング（Questioning）や性的マイノリティを包括するクエア（Queer）の頭文字と、これ以外の様々な性のあり方を指す「+」からなる「LGBTQ+」という言葉もあります。

性的マイノリティとは、性のあり方が多数派と異なる人のことをいい、「からだの性」と「自分が認識する性」が一致しない人（性同一性障害）、恋愛感情などの性的な意識が同性又は両性に向かう人（同性愛者、両性愛者）などを総称した言葉です。

※2「Sexual Orientation and Gender Identity（性的指向と性自認）」の頭文字を取った言葉です。さらに、性表現（Gender Expression）の頭文字を加えた「SOGIE」という言葉もあります。近年、LGBTのほか、SOGIという言葉で表現されることもあります。

<年齢層別>

○20歳以上では、「市報ちょうふ」が高くなっています。

選択肢	合計	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
全体	1,211	27	87	132	196	254	99	108	162	140
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
市報ちょうふ	140	0	7	12	22	32	12	12	23	19
	11.6%	0.0%	8.0%	9.1%	11.2%	12.6%	12.1%	11.1%	14.2%	13.6%
市ホームページ	22	1	2	0	2	5	3	2	4	3
	1.8%	3.7%	2.3%	0.0%	1.0%	2.0%	3.0%	1.9%	2.5%	2.1%
チラシ・パンフレット・カード等	21	0	0	1	3	4	1	1	8	2
	1.7%	0.0%	0.0%	0.8%	1.5%	1.6%	1.0%	0.9%	4.9%	1.4%
市役所各窓口	9	1	0	1	4	1	0	0	2	0
	0.7%	3.7%	0.0%	0.8%	2.0%	0.4%	0.0%	0.0%	1.2%	0.0%
男女共同参画推進センターのホームページ	8	1	0	0	4	1	0	0	2	0
	0.7%	3.7%	0.0%	0.0%	2.0%	0.4%	0.0%	0.0%	1.2%	0.0%
その他	26	1	2	1	4	4	2	4	6	2
	2.1%	3.7%	2.3%	0.8%	2.0%	1.6%	2.0%	3.7%	3.7%	1.4%
知らない	967	24	76	116	159	208	84	82	112	101
	79.9%	88.9%	87.4%	87.9%	81.1%	81.9%	84.8%	75.9%	69.1%	72.1%
(無効回答)	52	1	0	1	3	4	0	9	17	17
	4.3%	3.7%	0.0%	0.8%	1.5%	1.6%	0.0%	8.3%	10.5%	12.1%

(上段：実数(人)，下段：構成比)

回答割合が最も高い：

回答割合が2番目に高い：

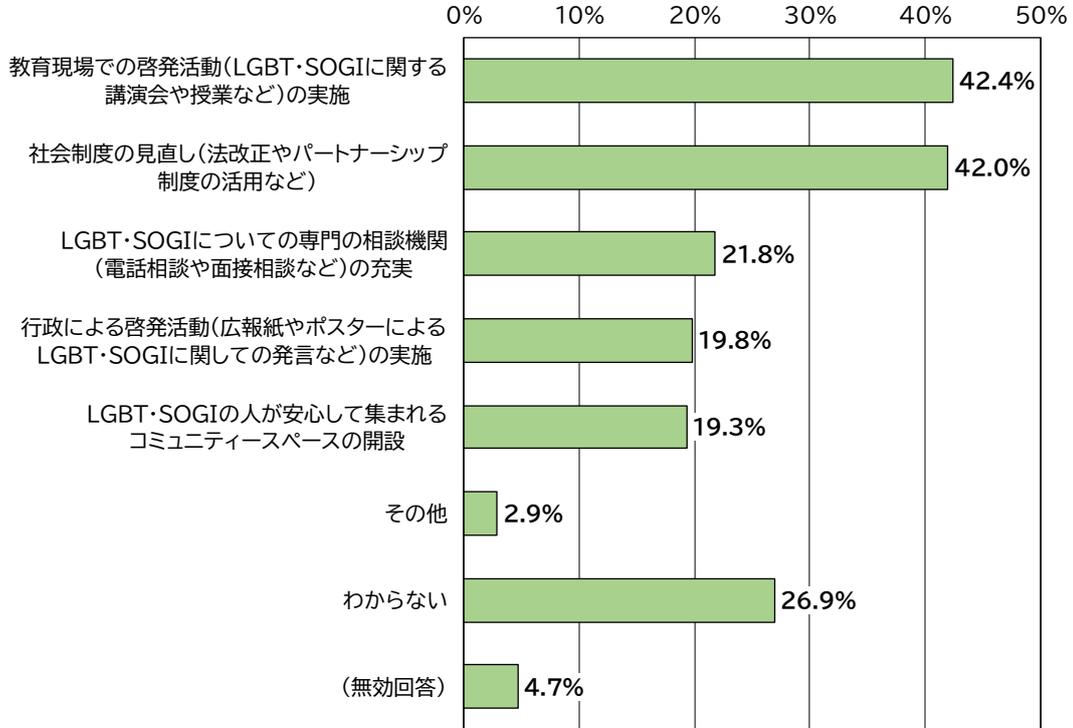
※網掛けは「知らない」を除く各項目のうち割合の高いもの

第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

問 59) あなたは、多様な性に関する啓発などについて、どのような取組が必要だと思いますか。

<全体 (n=1,211) >

○「教育現場での啓発活動（LGBT・SOGI に関する講演会や授業など）の実施」が 42.4%で最も高く、次いで「社会制度の見直し（法改正やパートナーシップ制度の導入など）」の 42.0%、「LGBT・SOGI についての専門の相談機関（電話相談や面接相談など）の設置」の 21.8%の順となっています。



<年齢層別>

○いずれの年齢層も、「教育現場での啓発活動（LGBT・SOGI に関する講演会や授業など）の実施」，「社会制度の見直し（法改正やパートナーシップ制度の導入など）」が高くなっています。

選択肢	合計	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
全体	1,211	27	87	132	196	254	99	108	162	140
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
教育現場での啓発活動（LGBT・SOGIに関する講演会や授業など）の実施	514	11	34	52	93	107	50	50	57	59
	42.4%	40.7%	39.1%	39.4%	47.4%	42.1%	50.5%	46.3%	35.2%	42.1%
社会制度の見直し（法改正やパートナーシップ制度の活用など）	509	13	32	64	92	101	46	50	58	50
	42.0%	48.1%	36.8%	48.5%	46.9%	39.8%	46.5%	46.3%	35.8%	35.7%
LGBT・SOGIについての専門の相談機関（電話相談や面接相談など）の充実	264	4	21	27	35	59	25	22	30	37
	21.8%	14.8%	24.1%	20.5%	17.9%	23.2%	25.3%	20.4%	18.5%	26.4%
行政による啓発活動（広報紙やポスターによるLGBT・SOGIに関しての発言など）の実施	240	9	14	20	33	45	25	24	32	36
	19.8%	33.3%	16.1%	15.2%	16.8%	17.7%	25.3%	22.2%	19.8%	25.7%
LGBT・SOGIの人が安心して集まれるコミュニティースペースの開設	234	4	23	33	33	49	21	17	28	24
	19.3%	14.8%	26.4%	25.0%	16.8%	19.3%	21.2%	15.7%	17.3%	17.1%
その他	35	0	1	7	8	7	5	5	1	1
	2.9%	0.0%	1.1%	5.3%	4.1%	2.8%	5.1%	4.6%	0.6%	0.7%
わからない	326	6	27	31	49	64	24	29	55	40
	26.9%	22.2%	31.0%	23.5%	25.0%	25.2%	24.2%	26.9%	34.0%	28.6%
(無効回答)	57	1	1	2	4	4	2	7	21	14
	4.7%	3.7%	1.1%	1.5%	2.0%	1.6%	2.0%	6.5%	13.0%	10.0%

(上段：実数(人)，下段：構成比)

回答割合が最も高い：

回答割合が2番目に高い：

※網掛けは必要と思われる取組を回答したうちの割合の高いもの

<自由記述> 主な意見を抜粋

【図表 上記の取組が必要だと思う理由】(101件)

- ・ 多様な性があることを子どもの頃から教わることで、偏見や差別をなくすことができそうだから。
- ・ 当事者が孤独を感じないようにする必要があると思う。
- ・ 偏見があるのは否定出来ないのので、教育を繰り返したり社会制度を見直したりして市民の意識を少しずつ変えていく。
- ・ オンラインサロンで LGBT の方の話を聞く機会があり、大変参考になったので。
- ・ 誰もが差別される事のない社会になって欲しい。

【図表 多様な性に対する理解の促進に関する施策についてのご意見・ご提案】(63件)

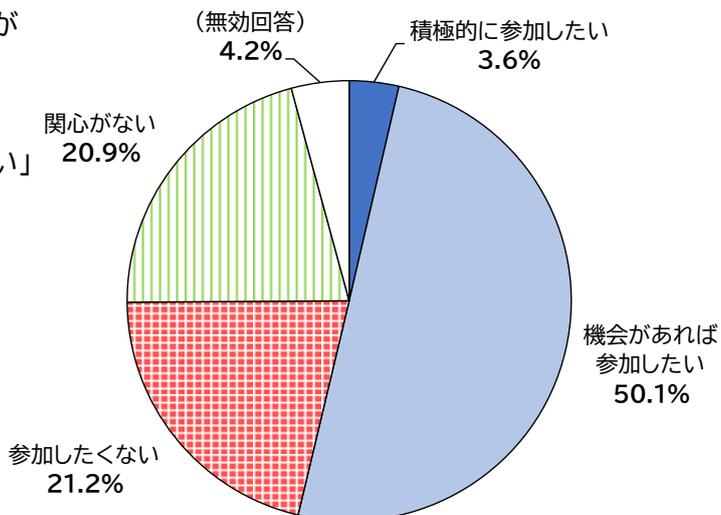
- ・ 映画のまちなので、映画を上映するイベントなどがあってもよいと思います。
- ・ 本当に LGBT だったり SOGI のひとの考え方や意見の講演会を、聴きたいと思う。テレビぐらいの情報ではよく分からない。
- ・ 市の取り組みを知らせることを強化すべき。

【市民参加について】

問 60) あなたは、市政・まちづくりに参加したいと思いませんか。

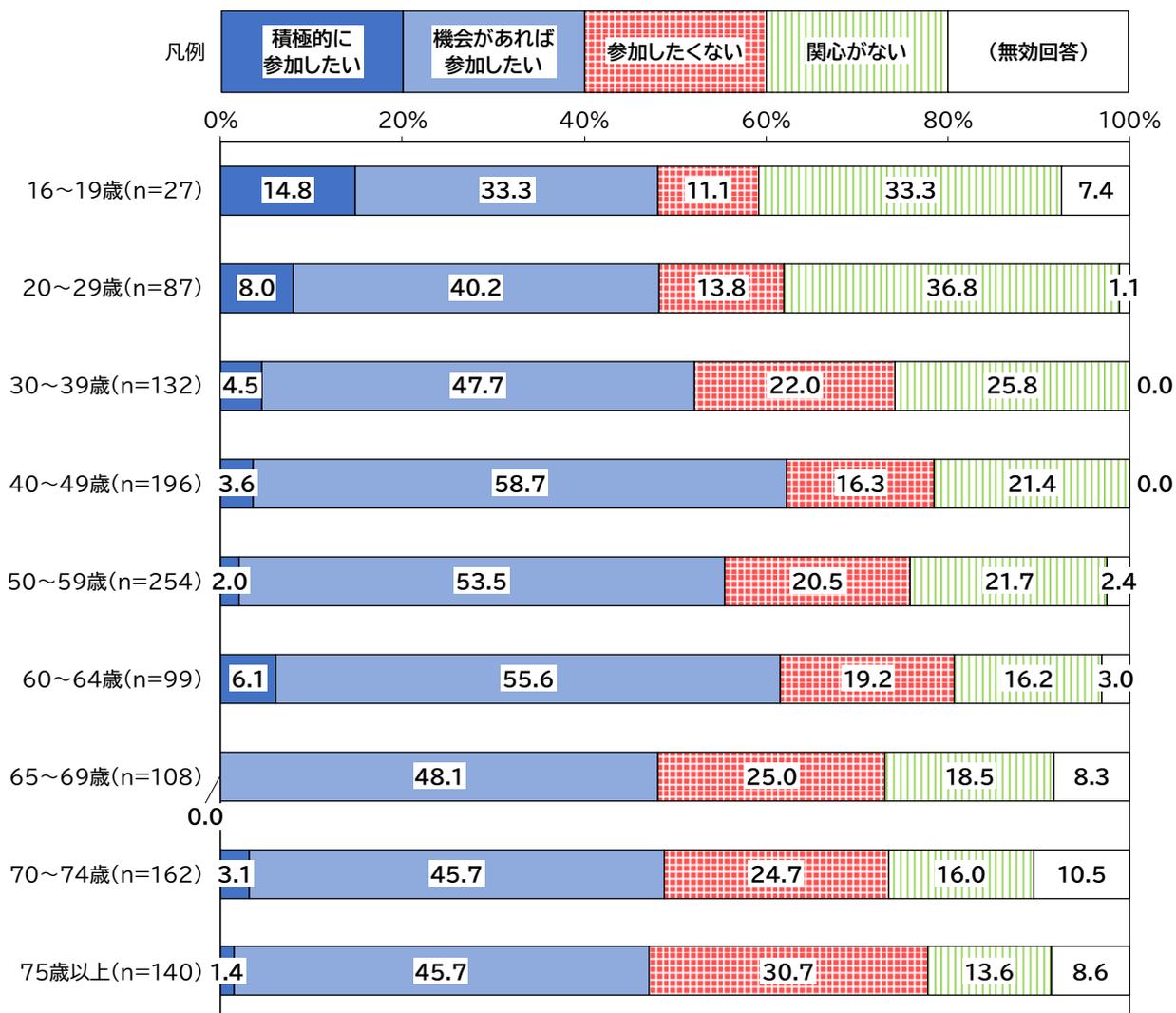
<全体 (n=1,211) >

- 「積極的に参加したい」の3.6%と「機会があれば参加したい」の50.1%の合計は、53.7%を占めています。
- 「参加したくない」は21.2%、「関心がない」は20.9%となっています。



<年齢層別>

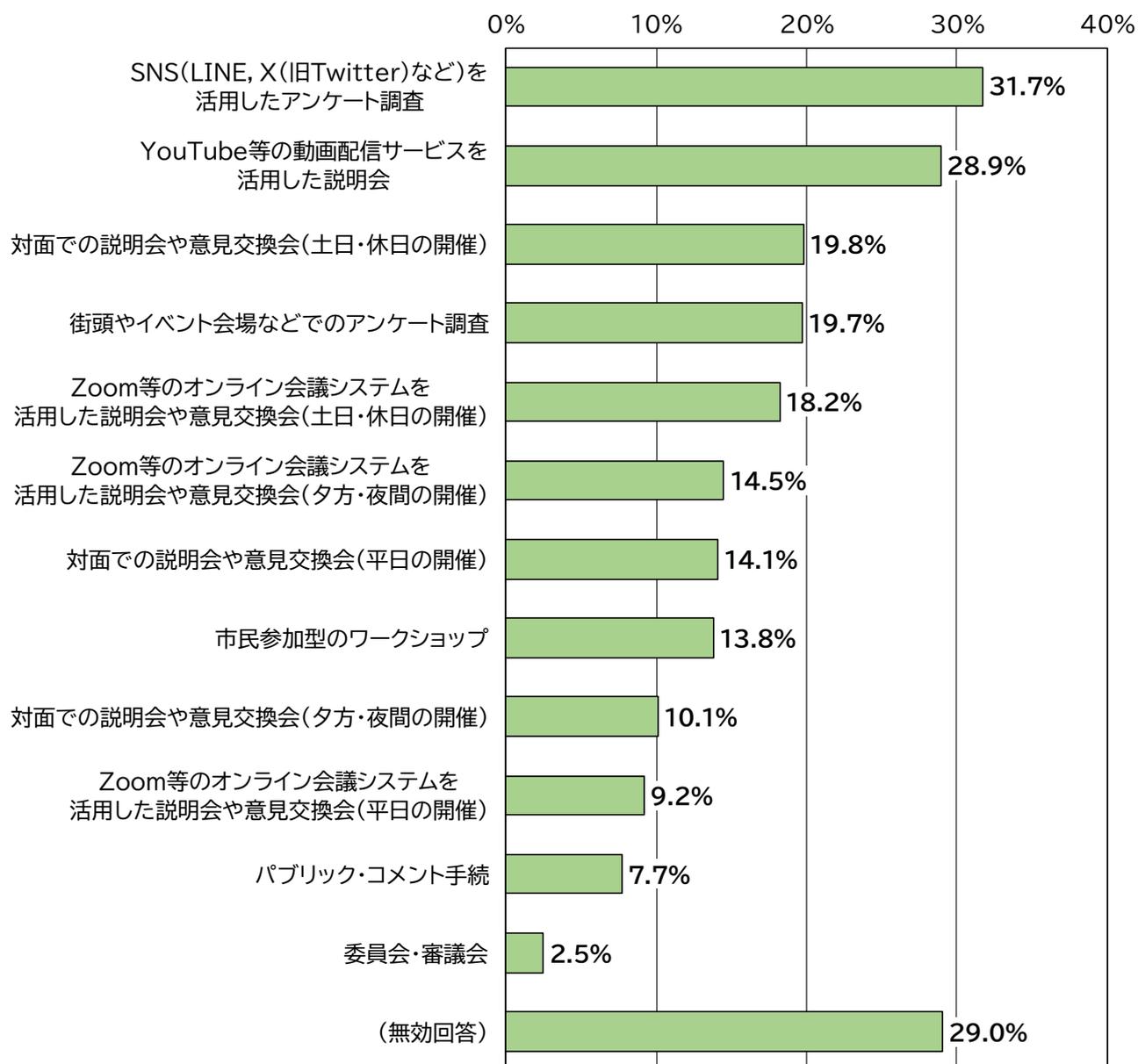
- 「積極的に参加したい」と「機会があれば参加したい」の合計は、30～64歳で半数を上回っています。



問 61) あなたは、市民参加の取組を行うとしたら、どのような手法なら参加できますか。

<全体 (n=1,211) >

- 「SNS (LINE, X (旧 Twitter) など) を活用したアンケート調査」が 31.7%で最も高く、次いで「YouTube 等の動画配信サービスを活用した説明会」の 28.9%、「対面での説明会や意見交換会 (土日・休日の開催)」の 19.8%の順となっています。



### 第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

#### <年齢層別>

○16～59 歳では、「SNS (LINE, X (旧 Twitter) など) を活用したアンケート調査」や「YouTube などの動画配信サービスを活用した説明会」、60～64 歳では、「SNS (LINE, X (旧 Twitter) など) を活用したアンケート調査」や「対面での説明会や意見交換会 (土日・休日の開催)」, 65～69 歳では、「YouTube などの動画配信サービスを活用した説明会」や「街頭やイベント会場などでのアンケート調査」, 70 歳以上では、「対面での説明会や意見交換会 (平日の開催)」や「街頭やイベント会場などでのアンケート調査」が高くなっています。

選択肢	合計	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
全体	1,211	27	87	132	196	254	99	108	162	140
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
SNS (LINE, X (旧Twitter) など) を活用したアンケート調査	384	16	47	67	98	84	30	16	15	11
	31.7%	59.3%	54.0%	50.8%	50.0%	33.1%	30.3%	14.8%	9.3%	7.9%
YouTube等の動画配信サービスを活用した説明会	350	11	31	59	72	91	24	25	24	11
	28.9%	40.7%	35.6%	44.7%	36.7%	35.8%	24.2%	23.1%	14.8%	7.9%
対面での説明会や意見交換会 (土日・休日の開催)	240	2	16	26	48	64	26	19	19	16
	19.8%	7.4%	18.4%	19.7%	24.5%	25.2%	26.3%	17.6%	11.7%	11.4%
街頭やイベント会場などでのアンケート調査	238	6	14	29	50	47	22	24	26	19
	19.7%	22.2%	16.1%	22.0%	25.5%	18.5%	22.2%	22.2%	16.0%	13.6%
Zoom等のオンライン会議システムを活用した説明会や意見交換会 (土日・休日の開催)	221	5	16	37	50	58	19	12	13	11
	18.2%	18.5%	18.4%	28.0%	25.5%	22.8%	19.2%	11.1%	8.0%	7.9%
Zoom等のオンライン会議システムを活用した説明会や意見交換会 (夕方・夜間の開催)	175	4	16	36	39	55	12	7	5	1
	14.5%	14.8%	18.4%	27.3%	19.9%	21.7%	12.1%	6.5%	3.1%	0.7%
対面での説明会や意見交換会 (平日の開催)	171	2	1	10	16	25	21	23	42	28
	14.1%	7.4%	1.1%	7.6%	8.2%	9.8%	21.2%	21.3%	25.9%	20.0%
市民参加型のワークショップ	167	0	12	30	28	34	19	11	21	12
	13.8%	0.0%	13.8%	22.7%	14.3%	13.4%	19.2%	10.2%	13.0%	8.6%
対面での説明会や意見交換会 (夕方・夜間の開催)	122	0	11	16	24	40	11	7	8	5
	10.1%	0.0%	12.6%	12.1%	12.2%	15.7%	11.1%	6.5%	4.9%	3.6%
Zoom等のオンライン会議システムを活用した説明会や意見交換会 (平日の開催)	112	3	6	17	17	19	11	11	15	11
	9.2%	11.1%	6.9%	12.9%	8.7%	7.5%	11.1%	10.2%	9.3%	7.9%
パブリック・コメント手続	93	3	9	12	21	18	9	4	6	11
	7.7%	11.1%	10.3%	9.1%	10.7%	7.1%	9.1%	3.7%	3.7%	7.9%
委員会・審議会	30	0	3	4	5	3	7	0	3	4
	2.5%	0.0%	3.4%	3.0%	2.6%	1.2%	7.1%	0.0%	1.9%	2.9%
(無効回答)	351	5	19	29	36	58	22	40	70	72
	29.0%	18.5%	21.8%	22.0%	18.4%	22.8%	22.2%	37.0%	43.2%	51.4%

(上段：実数 (人), 下段：構成比)

回答割合が最も高い：



回答割合が2番目に高い：



#### <自由記述> 主な意見を抜粋

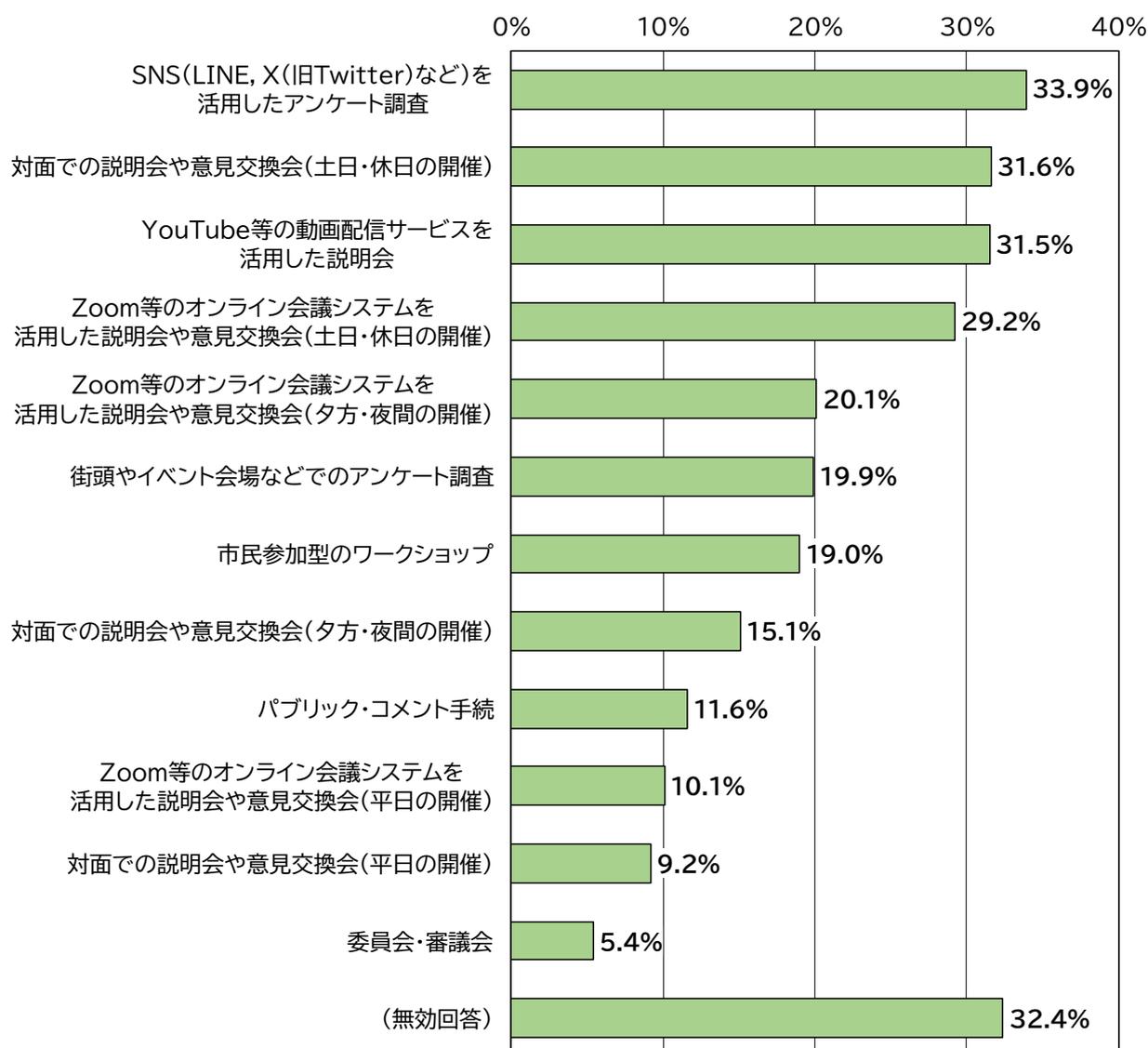
##### 【図表 上記のように思う理由】 (65 件)

- ・ 平日昼間は働く人が多いので、平日夕方以降か土日が参加しやすい。
- ・ SNS, オンライン参加は敷居が低い。場所を選ばない。若者が参加しやすい。
- ・ ネット利用は便利ですが、情報が外部に漏れるのではないかと心配。
- ・ ネットのツールで匿名の場合は正直な意見が集まると思う。対面だと少し遠慮するかもしれません。

問 61) (続き) あなたは、より多くの市民の意見が行政に届くには、どのような参加手法をとればよいと思いますか。

<全体 (n=1,211) >

○「SNS (LINE, X (旧 Twitter) など) を活用したアンケート調査」が 33.9%で最も高く、次いで「対面での説明会や意見交換会 (土日・休日の開催)」の 31.6%, 「YouTube 等の動画配信サービスを活用した説明会」の 31.5%の順となっています。



第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

<年齢層別>

○16～49 歳では、「SNS（LINE, X（旧 Twitter）など）を活用したアンケート調査」、50～59 歳は「YouTube などの動画配信サービスを活用した説明会」、60 歳以上では、「対面での説明会や意見交換会（土日・休日の開催）」が最も高くなっています。

選択肢	合計	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
全体	1,211	27	87	132	196	254	99	108	162	140
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
SNS（LINE, X（旧Twitter）など）を活用したアンケート調査	410	13	41	66	93	94	34	24	26	18
	33.9%	48.1%	47.1%	50.0%	47.4%	37.0%	34.3%	22.2%	16.0%	12.9%
対面での説明会や意見交換会（土日・休日の開催）	383	9	30	53	75	88	38	26	34	29
	31.6%	33.3%	34.5%	40.2%	38.3%	34.6%	38.4%	24.1%	21.0%	20.7%
YouTube等の動画配信サービスを活用した説明会	382	10	36	56	79	100	30	22	30	17
	31.5%	37.0%	41.4%	42.4%	40.3%	39.4%	30.3%	20.4%	18.5%	12.1%
Zoom等のオンライン会議システムを活用した説明会や意見交換会（土日・休日の開催）	354	7	31	53	81	79	34	23	23	21
	29.2%	25.9%	35.6%	40.2%	41.3%	31.1%	34.3%	21.3%	14.2%	15.0%
Zoom等のオンライン会議システムを活用した説明会や意見交換会（夕方・夜間の開催）	243	3	18	44	54	66	19	13	15	9
	20.1%	11.1%	20.7%	33.3%	27.6%	26.0%	19.2%	12.0%	9.3%	6.4%
街頭やイベント会場などでのアンケート調査	241	5	17	33	50	58	28	18	16	16
	19.9%	18.5%	19.5%	25.0%	25.5%	22.8%	28.3%	16.7%	9.9%	11.4%
市民参加型のワークショップ	230	6	21	26	38	49	24	21	22	22
	19.0%	22.2%	24.1%	19.7%	19.4%	19.3%	24.2%	19.4%	13.6%	15.7%
対面での説明会や意見交換会（夕方・夜間の開催）	183	5	12	22	33	51	22	13	13	12
	15.1%	18.5%	13.8%	16.7%	16.8%	20.1%	22.2%	12.0%	8.0%	8.6%
パブリック・コメント手続	140	3	10	18	28	24	14	15	12	16
	11.6%	11.1%	11.5%	13.6%	14.3%	9.4%	14.1%	13.9%	7.4%	11.4%
Zoom等のオンライン会議システムを活用した説明会や意見交換会（平日の開催）	122	1	11	21	26	25	10	8	11	8
	10.1%	3.7%	12.6%	15.9%	13.3%	9.8%	10.1%	7.4%	6.8%	5.7%
対面での説明会や意見交換会（平日の開催）	112	1	6	21	17	15	10	13	16	13
	9.2%	3.7%	6.9%	15.9%	8.7%	5.9%	10.1%	12.0%	9.9%	9.3%
委員会・審議会	65	1	4	9	12	12	7	7	10	3
	5.4%	3.7%	4.6%	6.8%	6.1%	4.7%	7.1%	6.5%	6.2%	2.1%
（無効回答）	392	6	18	24	42	66	24	45	78	85
	32.4%	22.2%	20.7%	18.2%	21.4%	26.0%	24.2%	41.7%	48.1%	60.7%

（上段：実数（人），下段：構成比）

回答割合が最も高い： 

回答割合が2番目に高い： 

<自由記述> 主な意見を抜粋

【図表 住民参加の取組に関する施策についてのご意見・ご提案】（28件）

- ・ 実は市民の意見を行政に伝えるのは敷居の高いことだと思っている。機会もない。あきらめの気持ちが勝っている。もし自分で役立てることがあれば参加したい。
- ・ 議会の人とお話できる機会があるといい。個別に陳情するわけでもないし、コミュニケーションのチャンネルがなにかあるといい。議会のおしらせは文字だけで一方通行。
- ・ 仕事でたくさんのまちづくりに参加して来ましたが、行政のアリバイ作りに利用されるだけだと思っているので参加はしない。
- ・ 20代30代の人達がより意見を言いやすい、SNSでの発信を強化すべき。

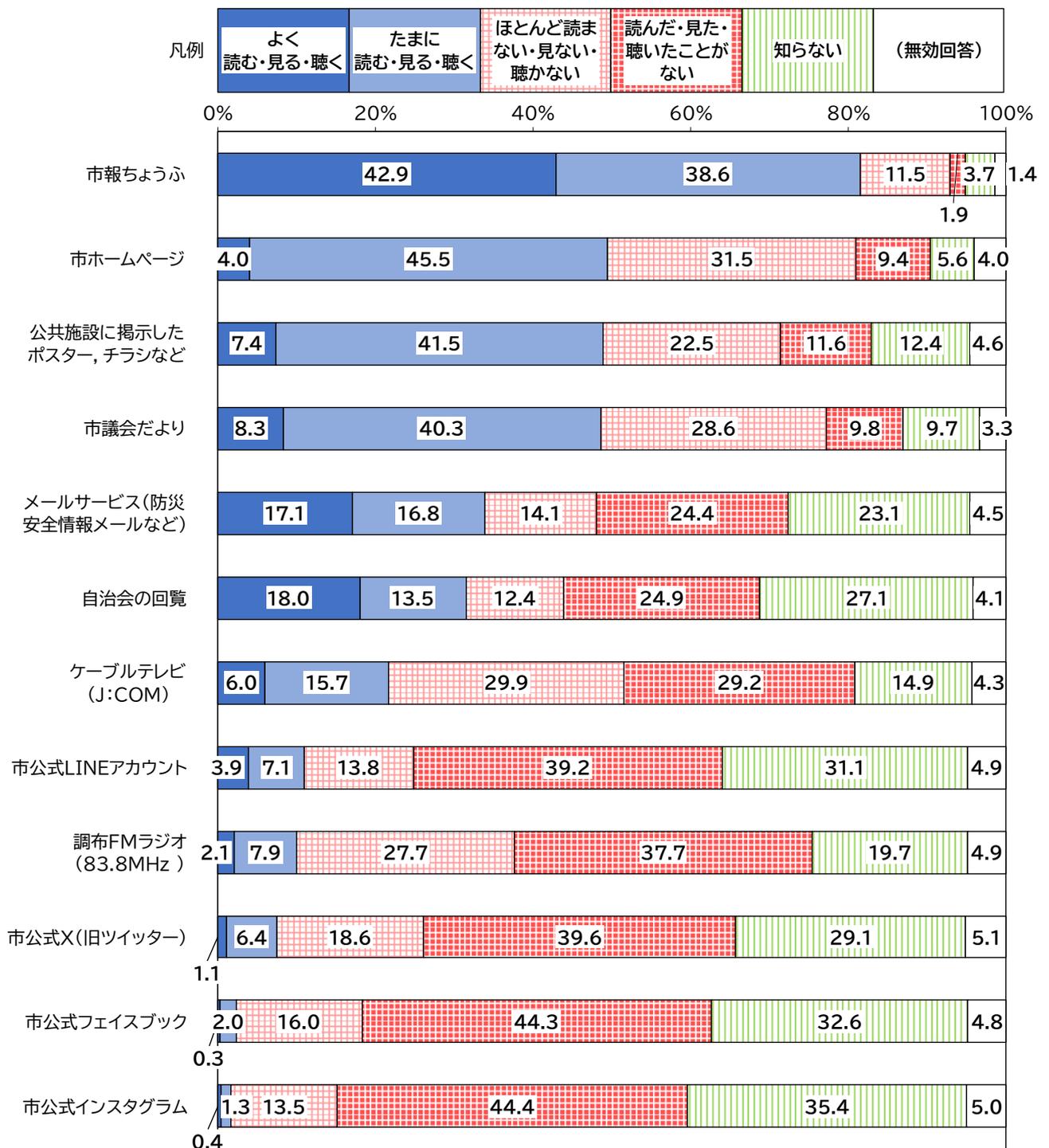
【市政等の情報について】

問 62) あなたの市政・まちづくりに関する情報の入手方法をうかがいます。

<全体 (n=1,211) >

○「よく読む・見る・聴く」と「たまに読む・見る・聴く」の合計は、「市報ちょうふ」が 81.5%で最も高く、次いで「市ホームページ」の 49.5%、「公共施設に掲示したポスター、チラシなど」の 48.9%の順となっています。

○一方、「読んだことがない・見たことがない・聴いたことがない」と「ほとんど読まない・見ない・聴かない」の合計は、「調布 FM ラジオ (83.8MHz)」が 65.4%で最も高く、次いで「市公式フェイスブック」の 60.3%の順となっています。

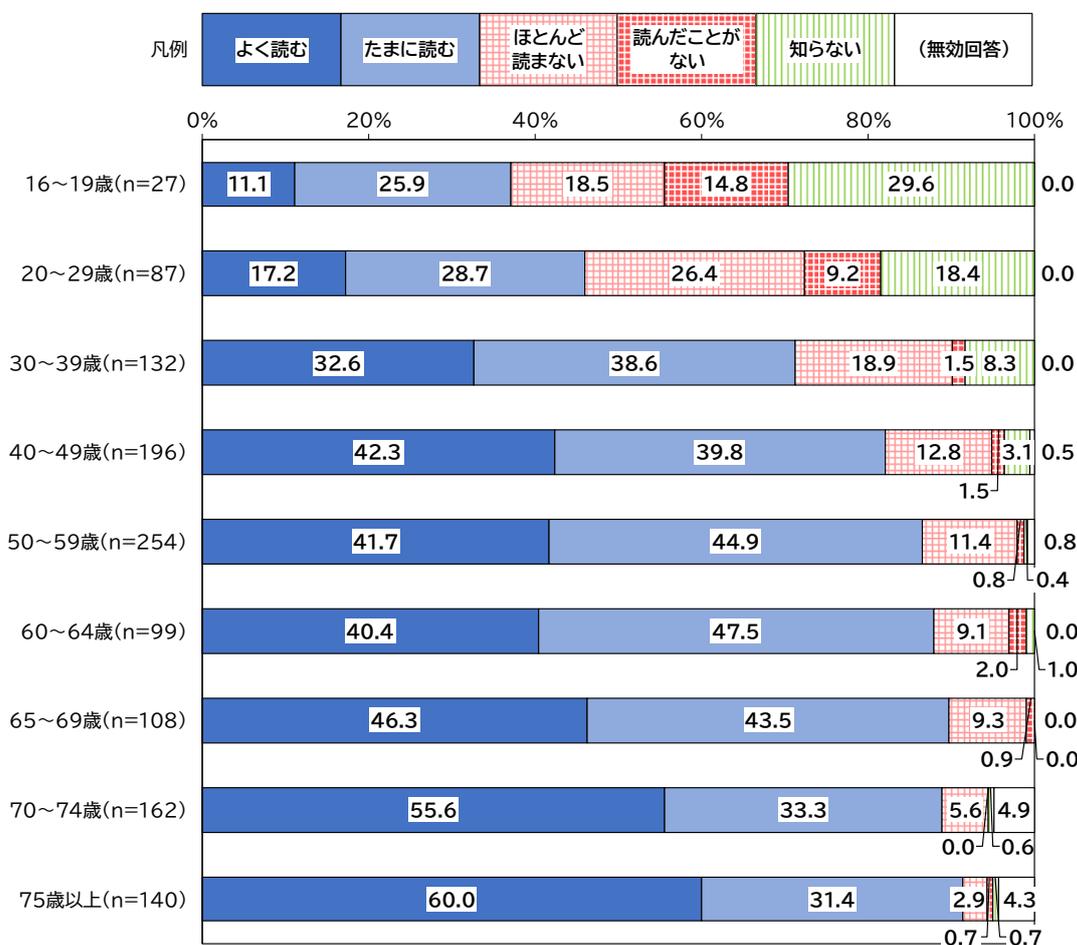


### 第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

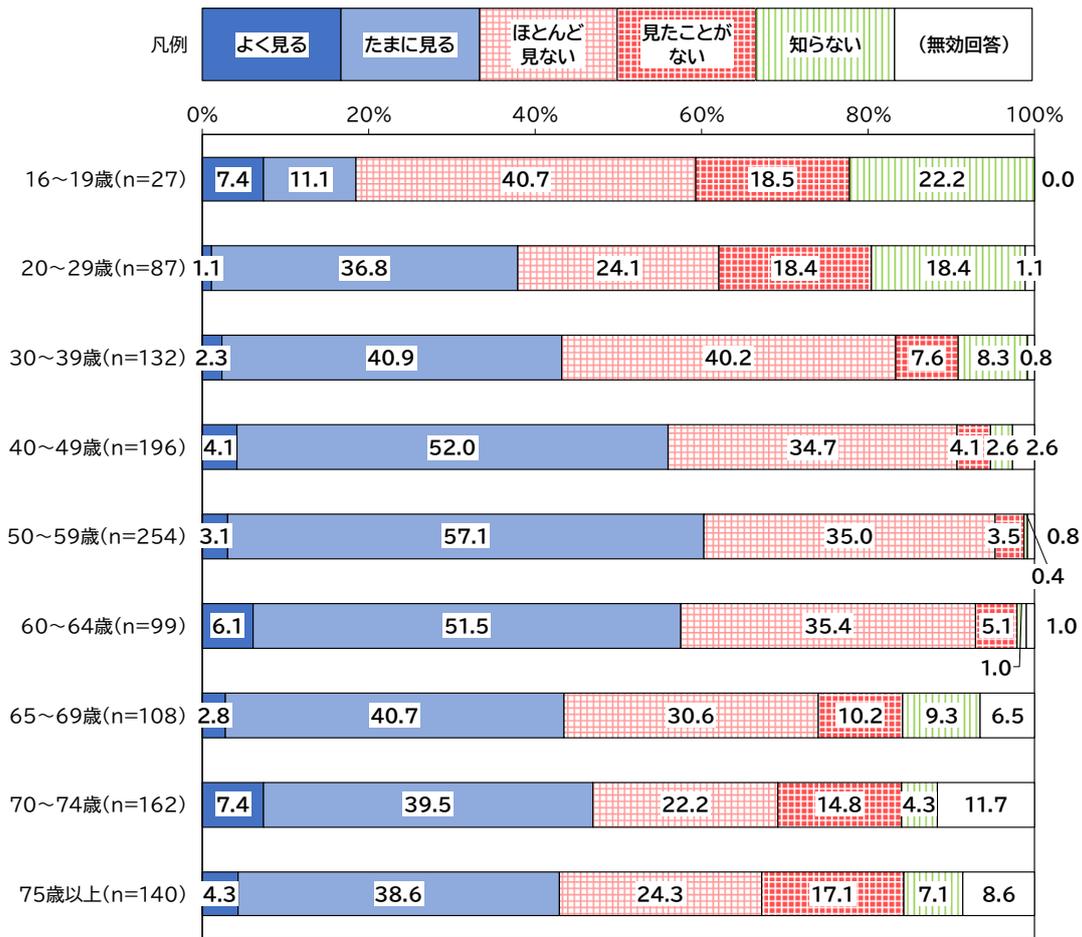
#### <年齢層別>

- 「市報ちょうふ」、「自治会の回覧」、「市議会だより」については、年齢層が上がるにつれて「よく読む・見る」と「たまに読む・見る」の合計が高くなる傾向となっており、特に「市報ちょうふ」は40歳以上の年齢層で80%を超えています。
- 「市ホームページ」は、40～64歳の年齢層の「よく見る」と「たまに見る」合計が、50%を超えており、他の年齢層に比べて高くなっています。
- 「市公式フェイスブック」、「市公式LINEアカウント」、「市公式インスタグラム」などのSNSは、おおむね29歳以下で「知らない」が、他の年齢層に比べて高い傾向があります。
- 「メールサービス」は、40～59歳の年齢層の「よく見る」と「たまに見る」の合計が、40%を超えており、他の年齢層に比べて高くなっています。

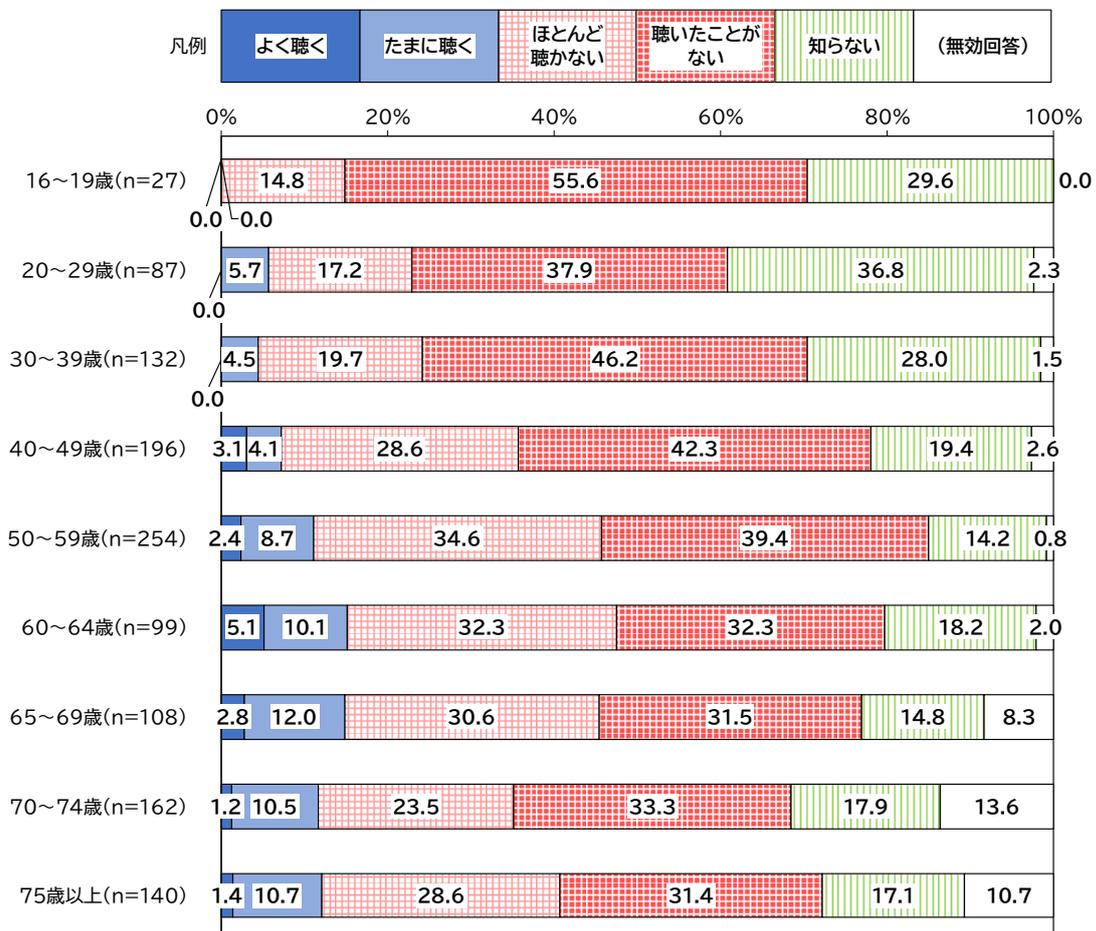
#### ア 市報ちょうふ



イ 市ホームページ

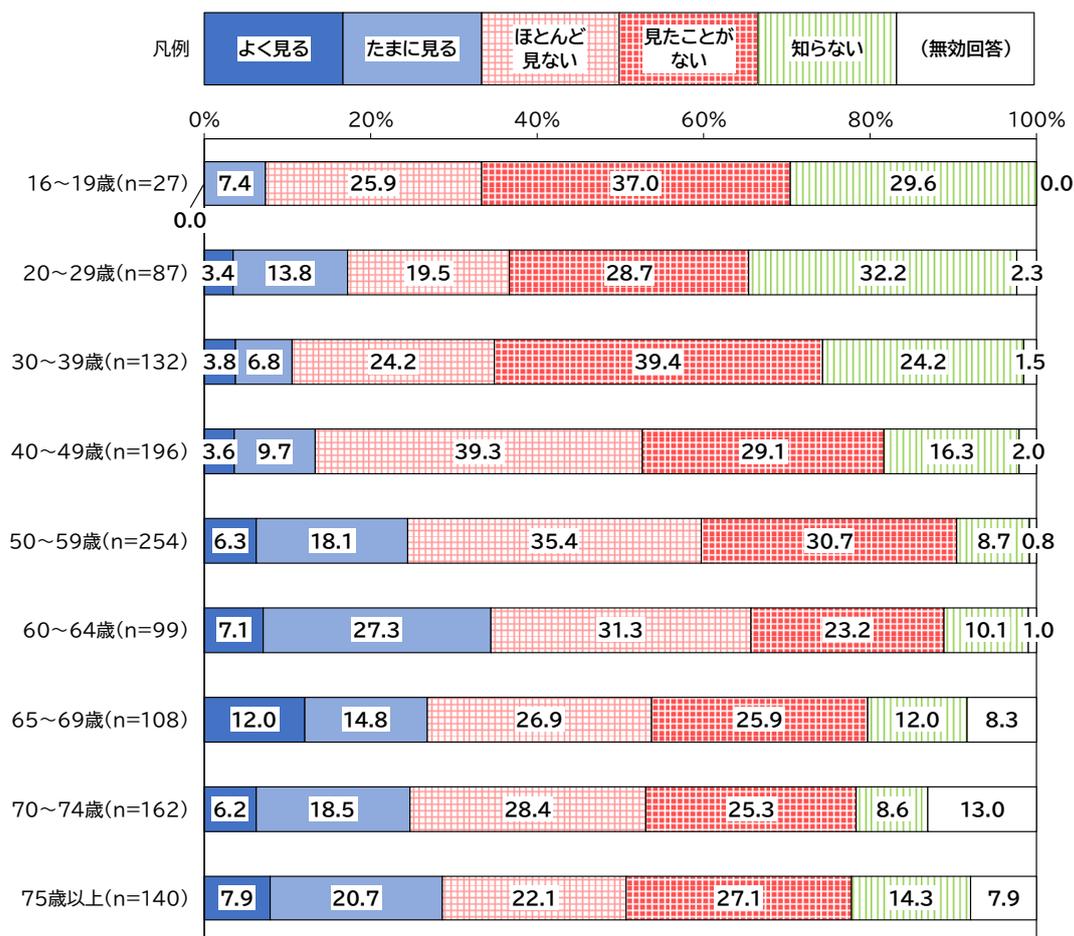


ウ 調布 FM ラジオ (83.8MHz)

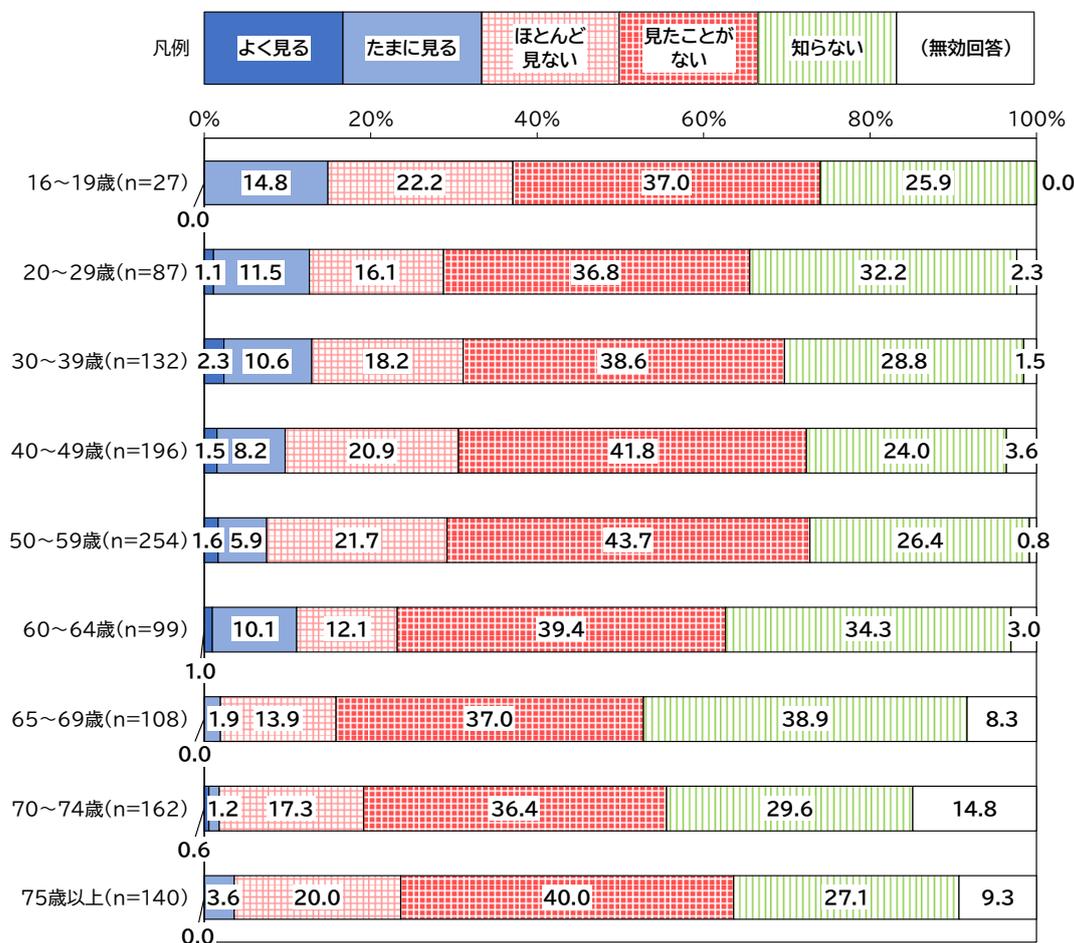


### 第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

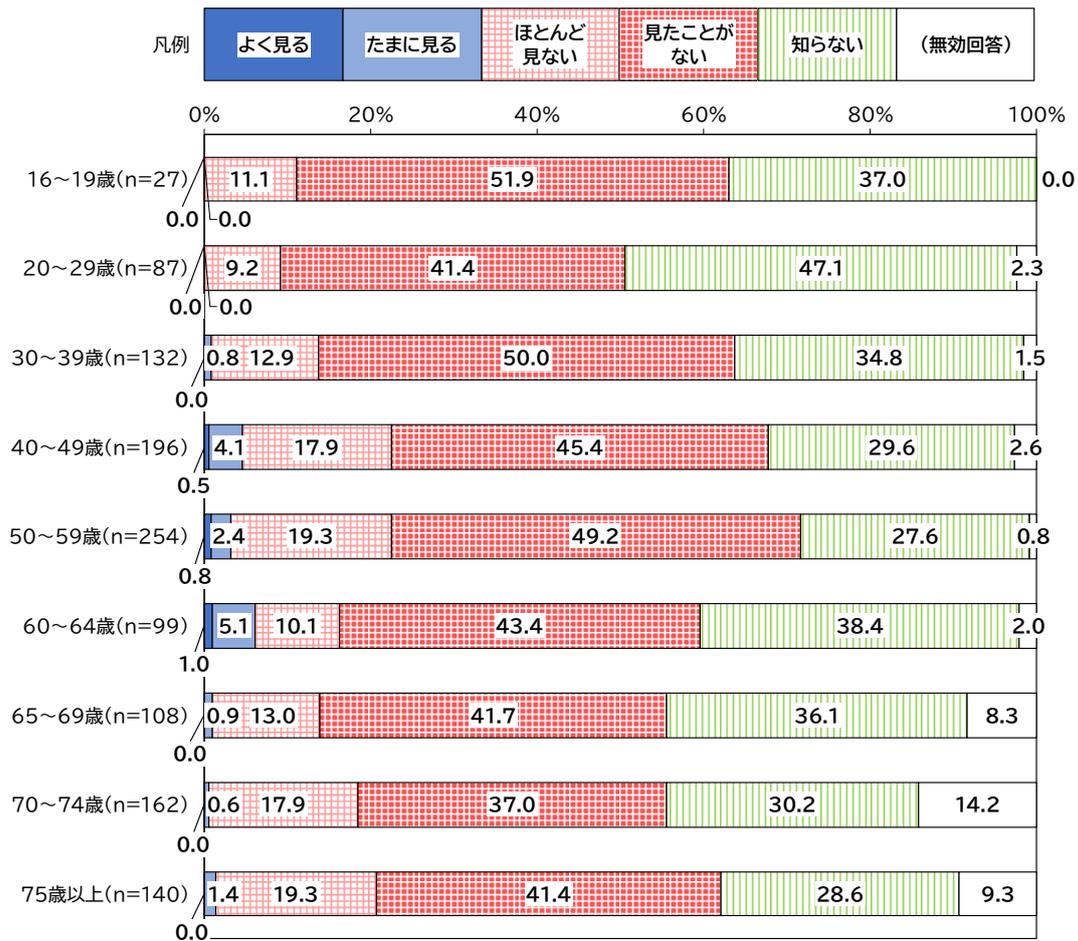
#### エ ケーブルテレビ (J:COM)



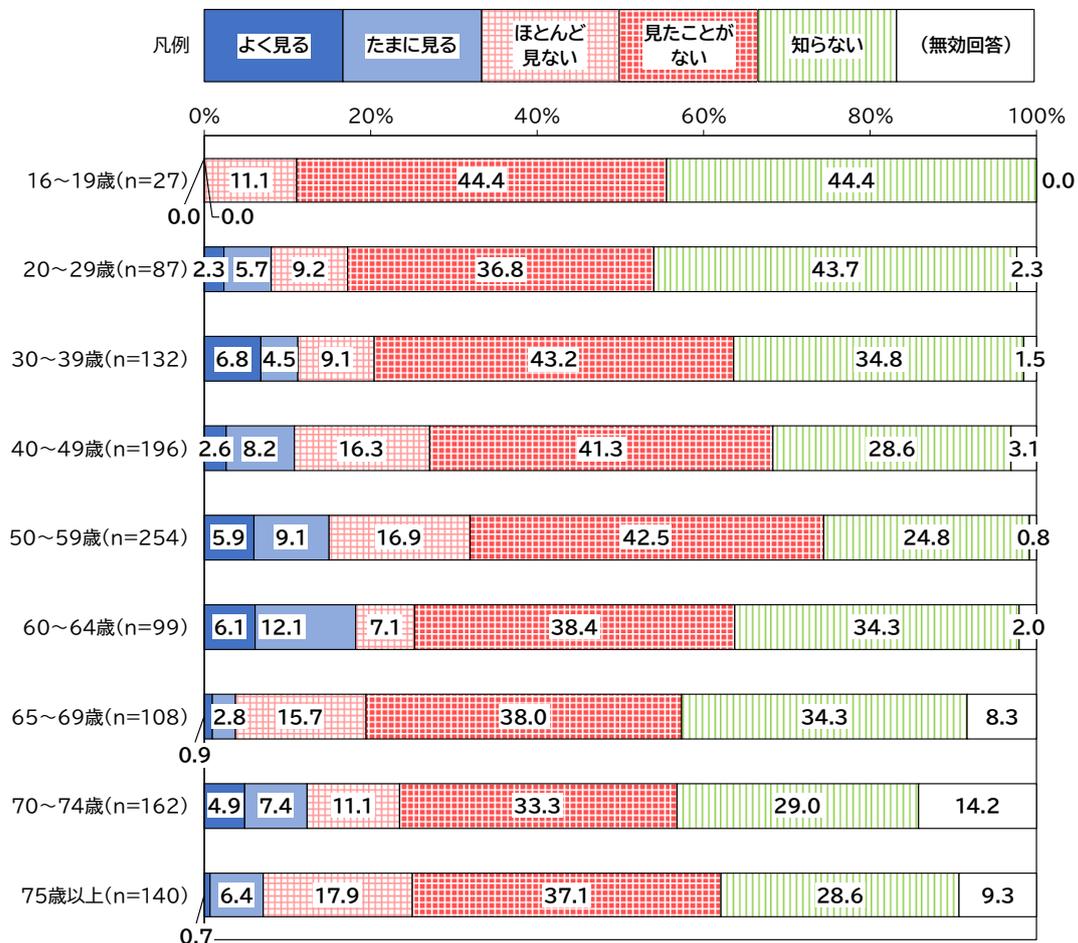
#### オ 市公式X(旧ツイッター)



カ 市公式フェイスブック

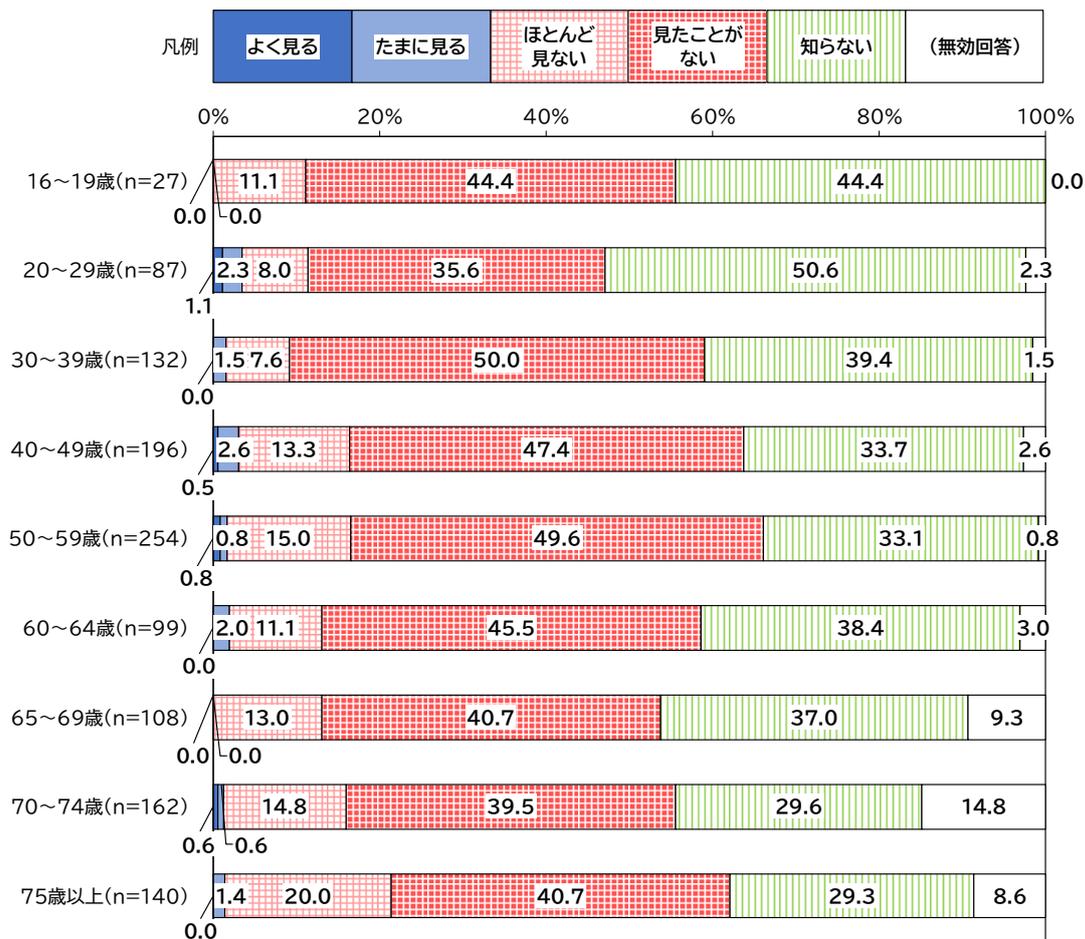


キ 市公式LINE アカウント

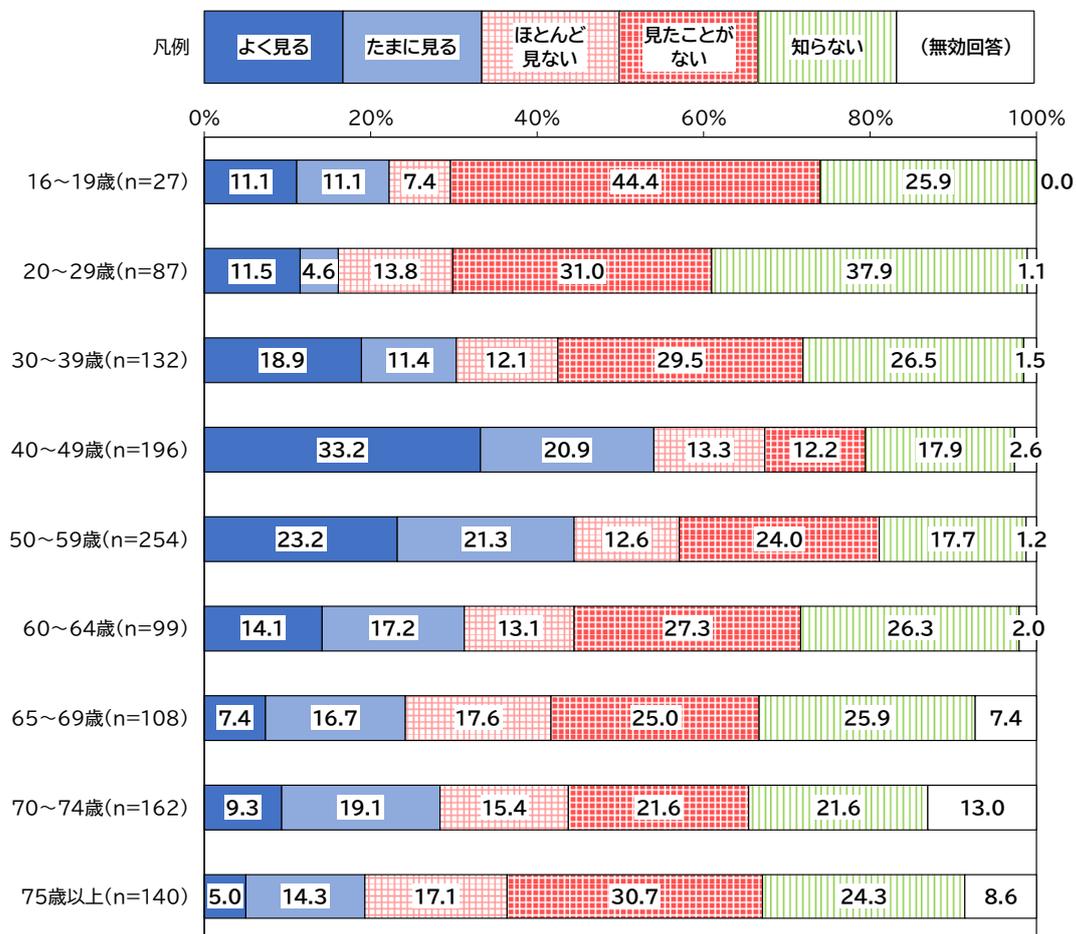


### 第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

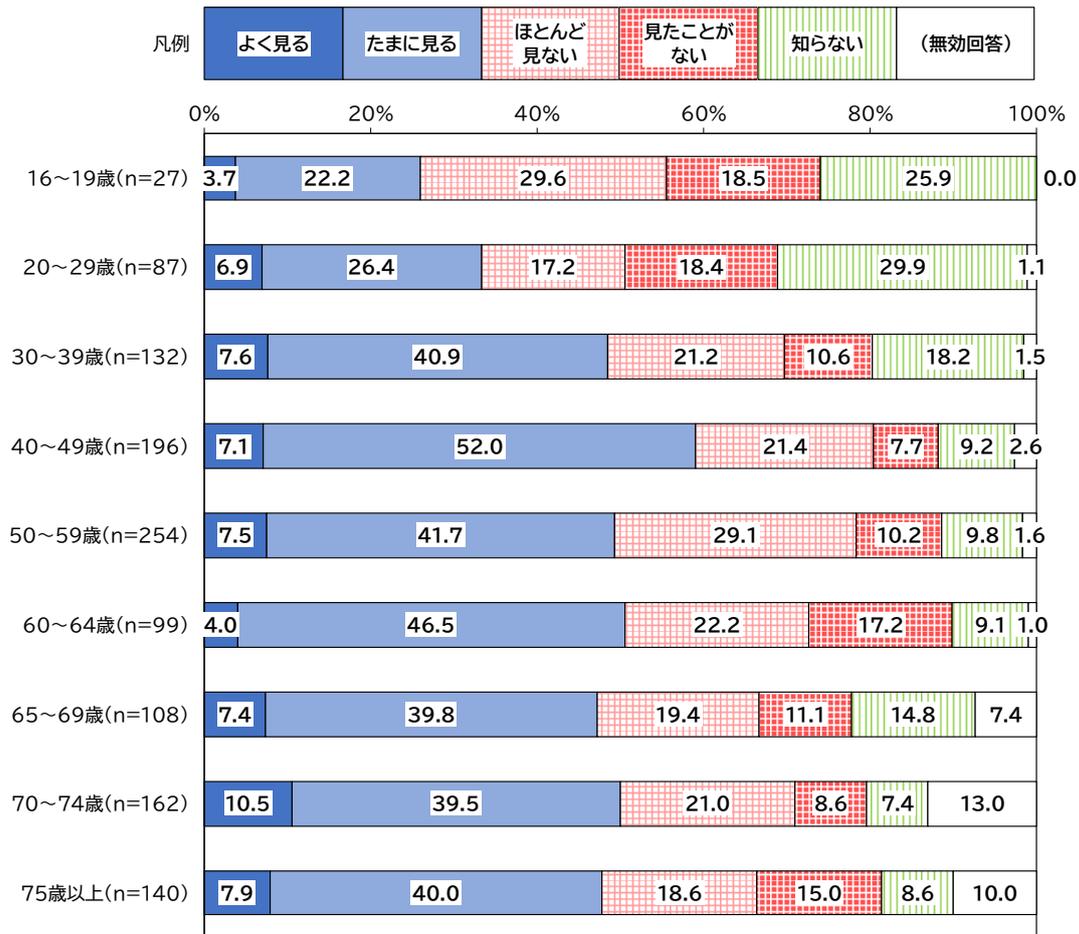
#### ク 市公式インスタグラム



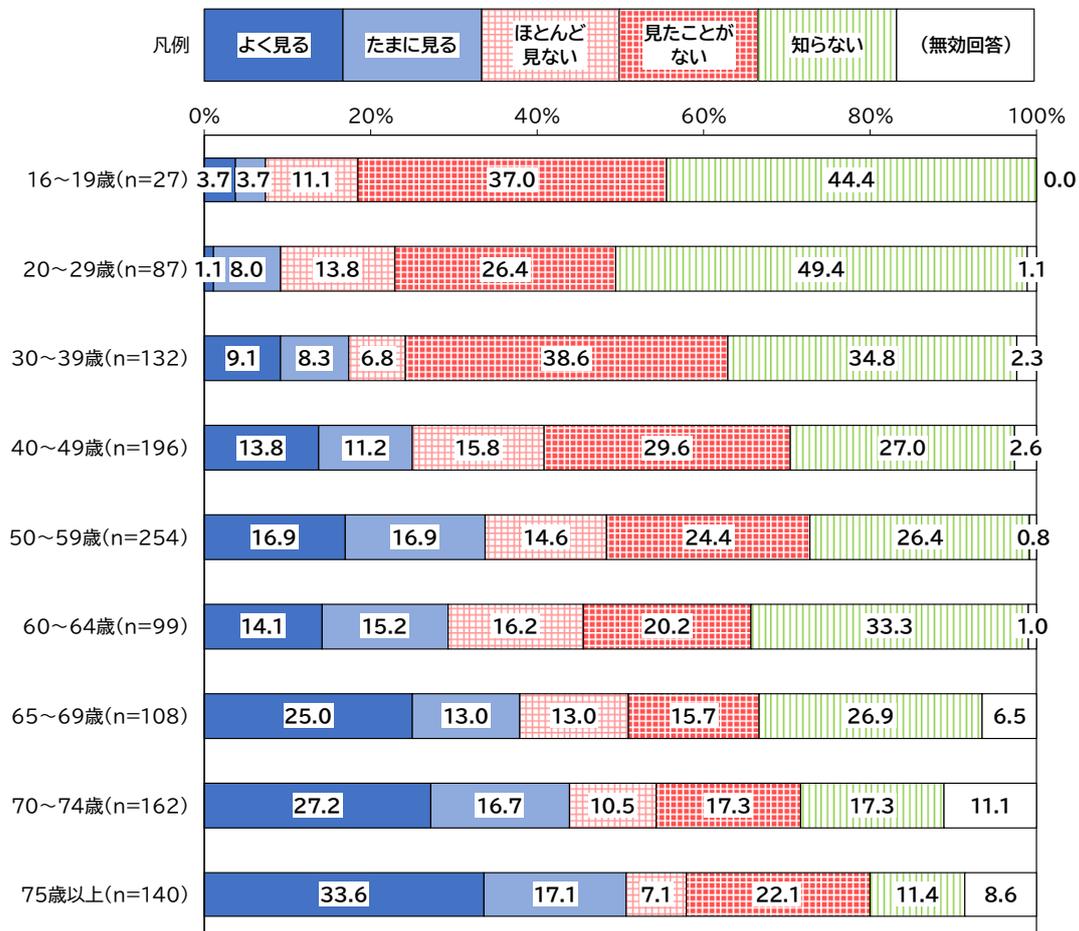
#### ケ メールサービス (防災安全情報メールなど)



コ 公共施設に掲示したポスター、チラシなど

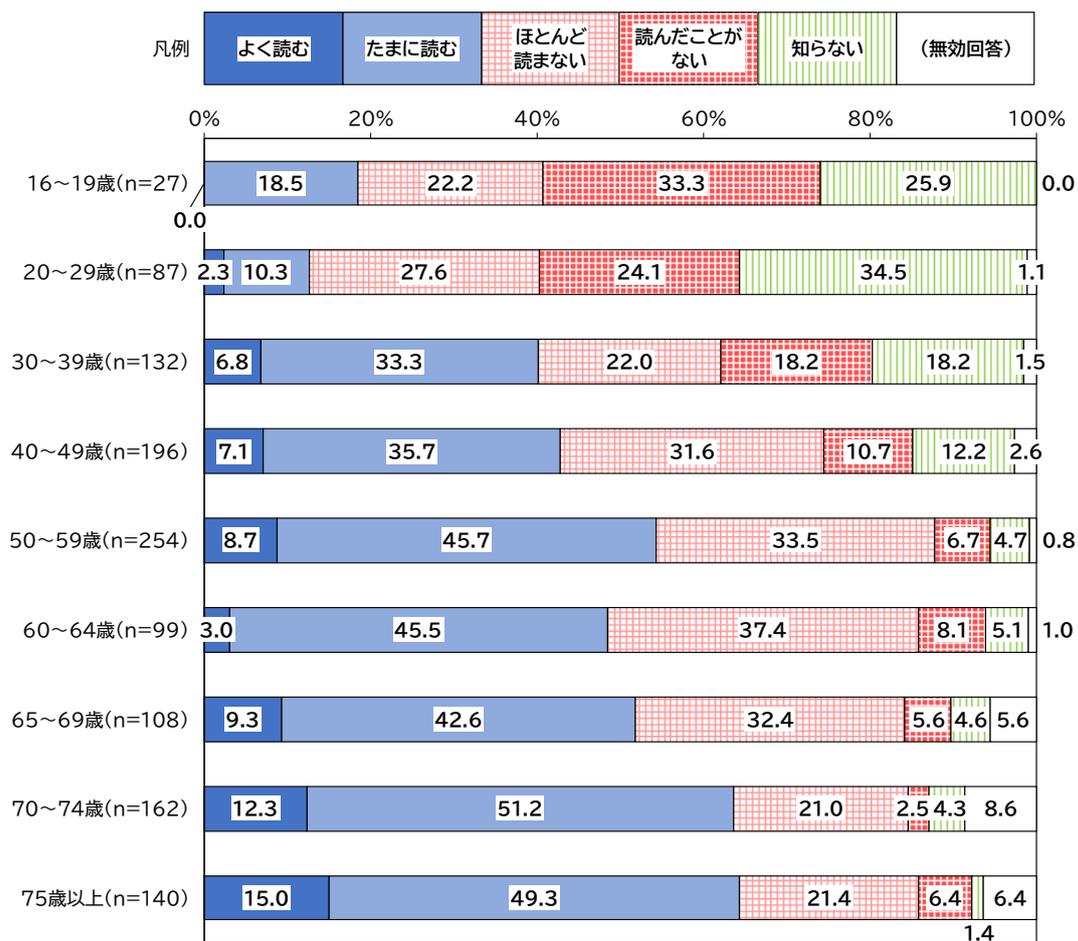


サ 自治会の回覧



### 第3章 調査結果<日ごろの意識や行動>

#### シ 市議会だより



#### <自由記述> 主な意見を抜粋

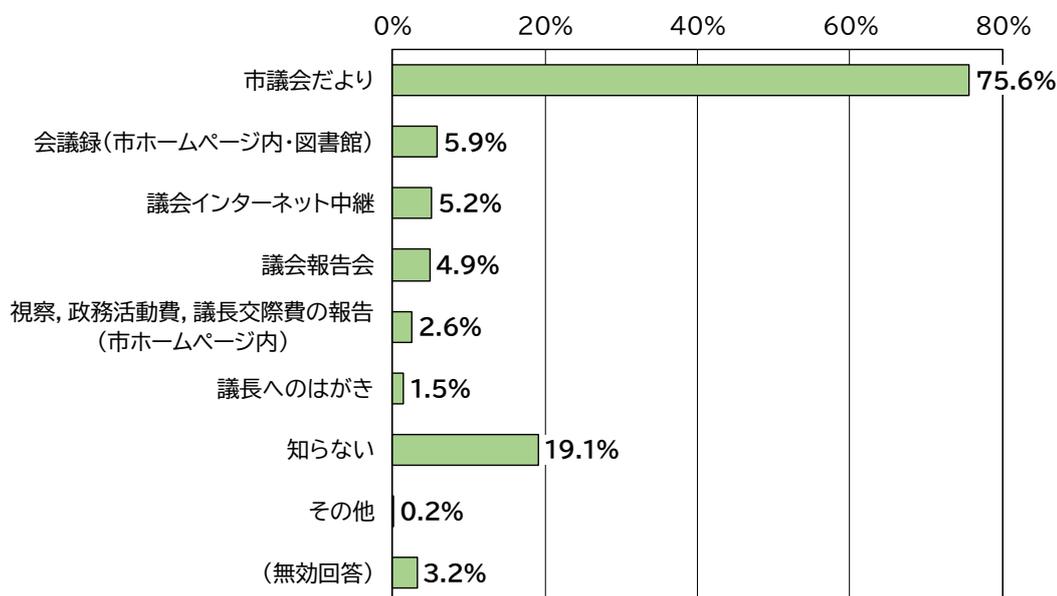
【図表 市政の情報発信についてのご意見・ご提案】(29件)

- ・ SNS での情報共有を強化する。
- ・ 何においても興味のある人には届くが、それ以外の方が知るきっかけ作りが今は SNS だと思う。
- ・ 自治会が無い地域もあり、高齢者が出かけなくても手に入れられる情報網、発信が必要。
- ・ 広島県安芸高田市のように会議の様子を YouTube にアップしてほしい。

問 63) 市議会が行っている広報・広聴活動のうち、あなたが知っているものはどれですか。

<全体 (n=1,211) >

○「市議会だより」が 75.6%で最も高く、次いで「会議録(市ホームページ内・図書館)」の 5.9%、「議会インターネット中継」の 5.2%の順となっています。



<年齢層別>

○いずれの年齢層も「市議会だより」が最も高くなっており、特に、50歳以上では80%以上を占めています。

選択肢	合計	16~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~64歳	65~69歳	70~74歳	75歳以上
全体	1,211	27	87	132	196	254	99	108	162	140
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
市議会だより	916	13	37	82	144	210	80	90	139	116
	75.6%	48.1%	42.5%	62.1%	73.5%	82.7%	80.8%	83.3%	85.8%	82.9%
会議録(市ホームページ内・図書館)	71	1	7	6	10	17	5	8	15	2
	5.9%	3.7%	8.0%	4.5%	5.1%	6.7%	5.1%	7.4%	9.3%	1.4%
議会インターネット中継	63	0	3	6	15	17	8	5	7	2
	5.2%	0.0%	3.4%	4.5%	7.7%	6.7%	8.1%	4.6%	4.3%	1.4%
議会報告会	59	0	2	3	4	13	3	9	10	13
	4.9%	0.0%	2.3%	2.3%	2.0%	5.1%	3.0%	8.3%	6.2%	9.3%
視察, 政務活動費, 議長交際費の報告 (市ホームページ内)	32	1	1	5	6	7	3	3	4	2
	2.6%	3.7%	1.1%	3.8%	3.1%	2.8%	3.0%	2.8%	2.5%	1.4%
議長へのはがき	18	0	0	2	2	5	3	1	3	2
	1.5%	0.0%	0.0%	1.5%	1.0%	2.0%	3.0%	0.9%	1.9%	1.4%
知らない	231	14	46	45	43	32	16	14	8	13
	19.1%	51.9%	52.9%	34.1%	21.9%	12.6%	16.2%	13.0%	4.9%	9.3%
その他	3	0	0	0	0	0	0	1	1	1
	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%	0.6%	0.7%
(無効回答)	39	0	1	3	4	7	1	2	13	8
	3.2%	0.0%	1.1%	2.3%	2.0%	2.8%	1.0%	1.9%	8.0%	5.7%

(上段:実数(人), 下段:構成比)

回答割合が最も高い:

回答割合が2番目に高い:

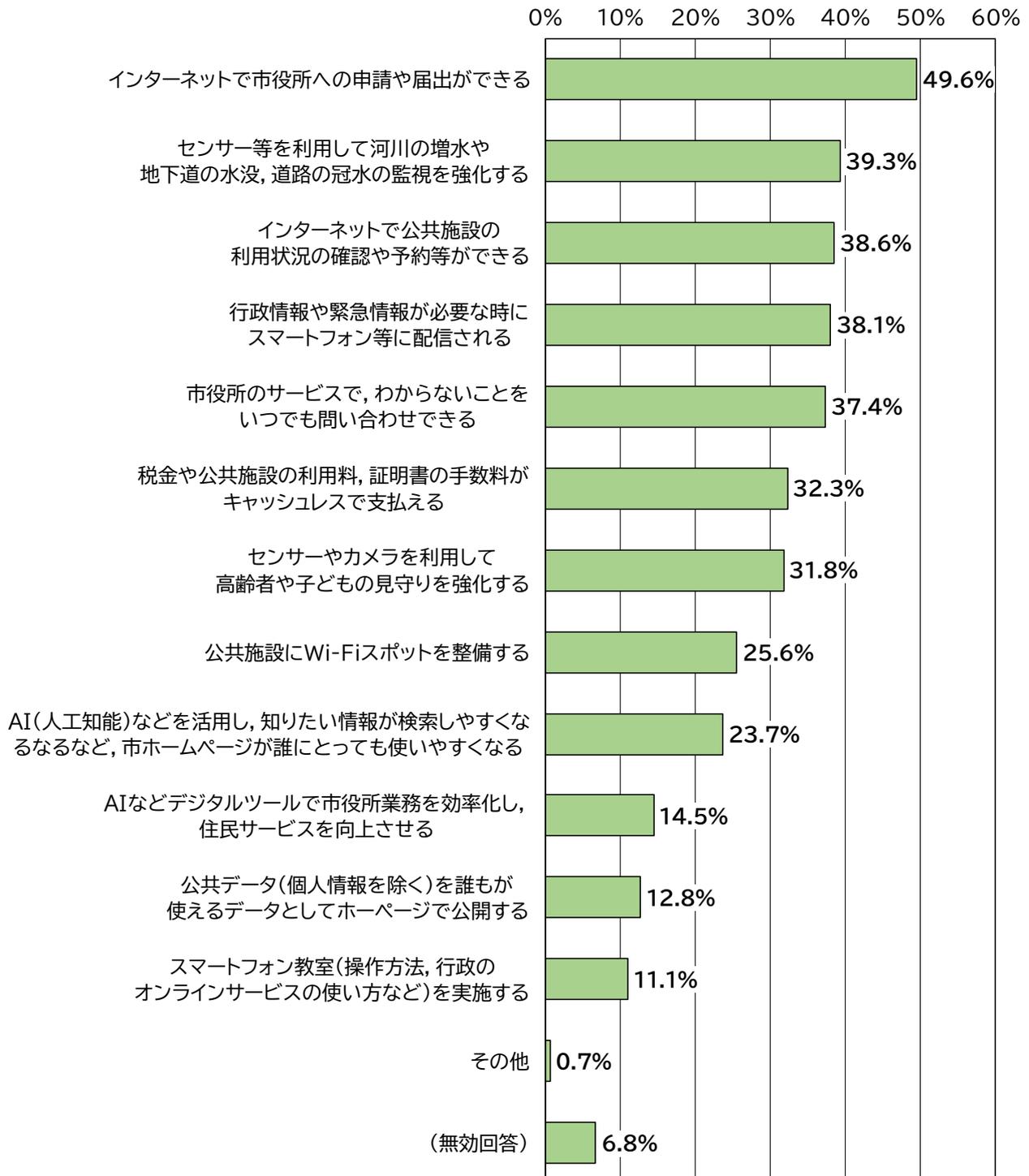
※網掛けは「知らない」を除く各項目のうち、割合の高いもの

【行政のデジタル化・スマートシティについて】

問 64) あなたが、調布市が行う行政サービスのデジタル化の取組について、特に力を入れて欲しいと思う取組は何ですか。

<全体 (n=1,211) >

○「インターネットで市役所への申請や届出ができる」が 49.6%で最も高く、次いで「センサー等を利用して、河川の増水や地下道の水没、道路の冠水の監視を強化する」の 39.3%、「インターネットで公共施設の利用状況の確認や予約等ができる」の 38.6%の順となっています。



<年齢層別>

○16～64歳で「インターネットで市役所への申請や届出ができる」、16～19歳と60～64歳で「インターネットで公共施設の利用状況の確認や予約等ができる」、60歳以上で「市役所のサービスで、わからないことをいつでも問い合わせできる」が最も高くなっています。

選択肢	合計	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
全体	1,211	27	87	132	196	254	99	108	162	140
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
インターネットで市役所への申請や届出ができる	601	14	52	85	133	152	48	39	45	31
	49.6%	51.9%	59.8%	64.4%	67.9%	59.8%	48.5%	36.1%	27.8%	22.1%
センサー等を利用して河川の増水や地下道の水没、道路の冠水の監視を強化する	476	11	30	52	76	109	37	41	69	49
	39.3%	40.7%	34.5%	39.4%	38.8%	42.9%	37.4%	38.0%	42.6%	35.0%
インターネットで公共施設の利用状況の確認や予約等ができる	467	14	30	72	91	117	48	31	33	29
	38.6%	51.9%	34.5%	54.5%	46.4%	46.1%	48.5%	28.7%	20.4%	20.7%
行政情報や緊急情報が必要な時にスマートフォン等に配信される	461	4	34	55	82	107	41	40	57	39
	38.1%	14.8%	39.1%	41.7%	41.8%	42.1%	41.4%	37.0%	35.2%	27.9%
市役所のサービスで、わからないことをいつでも問い合わせできる	453	11	19	39	51	102	48	46	74	60
	37.4%	40.7%	21.8%	29.5%	26.0%	40.2%	48.5%	42.6%	45.7%	42.9%
税金や公共施設の利用料、証明書の手数料がキャッシュレスで支払える	391	7	37	67	94	95	31	20	23	15
	32.3%	25.9%	42.5%	50.8%	48.0%	37.4%	31.3%	18.5%	14.2%	10.7%
センサーやカメラを利用して高齢者や子どもの見守りを強化する	385	10	17	44	61	80	40	38	49	46
	31.8%	37.0%	19.5%	33.3%	31.1%	31.5%	40.4%	35.2%	30.2%	32.9%
公共施設にWi-Fiスポットを整備する	310	8	25	39	62	85	34	18	23	15
	25.6%	29.6%	28.7%	29.5%	31.6%	33.5%	34.3%	16.7%	14.2%	10.7%
AI（人工知能）などを活用し、知りたい情報が検索しやすくなるなど、市ホームページが誰にとっても使いやすいくなる	287	8	27	39	44	70	31	16	23	27
	23.7%	29.6%	31.0%	29.5%	22.4%	27.6%	31.3%	14.8%	14.2%	19.3%
AIなどデジタルツールで市役所業務を効率化し、住民サービスを向上させる	176	5	14	20	38	39	19	10	14	15
	14.5%	18.5%	16.1%	15.2%	19.4%	15.4%	19.2%	9.3%	8.6%	10.7%
公共データ（個人情報を除く）を誰もが使えるデータとしてホームページで公開する	155	2	11	15	25	30	20	17	16	17
	12.8%	7.4%	12.6%	11.4%	12.8%	11.8%	20.2%	15.7%	9.9%	12.1%
スマートフォン教室（操作方法、行政のオンラインサービスの使い方など）を実施する	134	2	6	4	6	20	12	20	29	35
	11.1%	7.4%	6.9%	3.0%	3.1%	7.9%	12.1%	18.5%	17.9%	25.0%
その他	9	0	0	0	0	2	2	2	1	2
	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%	2.0%	1.9%	0.6%	1.4%
（無効回答）	82	1	2	1	6	5	3	9	24	29
	6.8%	3.7%	2.3%	0.8%	3.1%	2.0%	3.0%	8.3%	14.8%	20.7%

（上段：実数（人）、下段：構成比）

回答割合が最も高い：



回答割合が2番目に高い：



<自由記述> 主な意見を抜粋

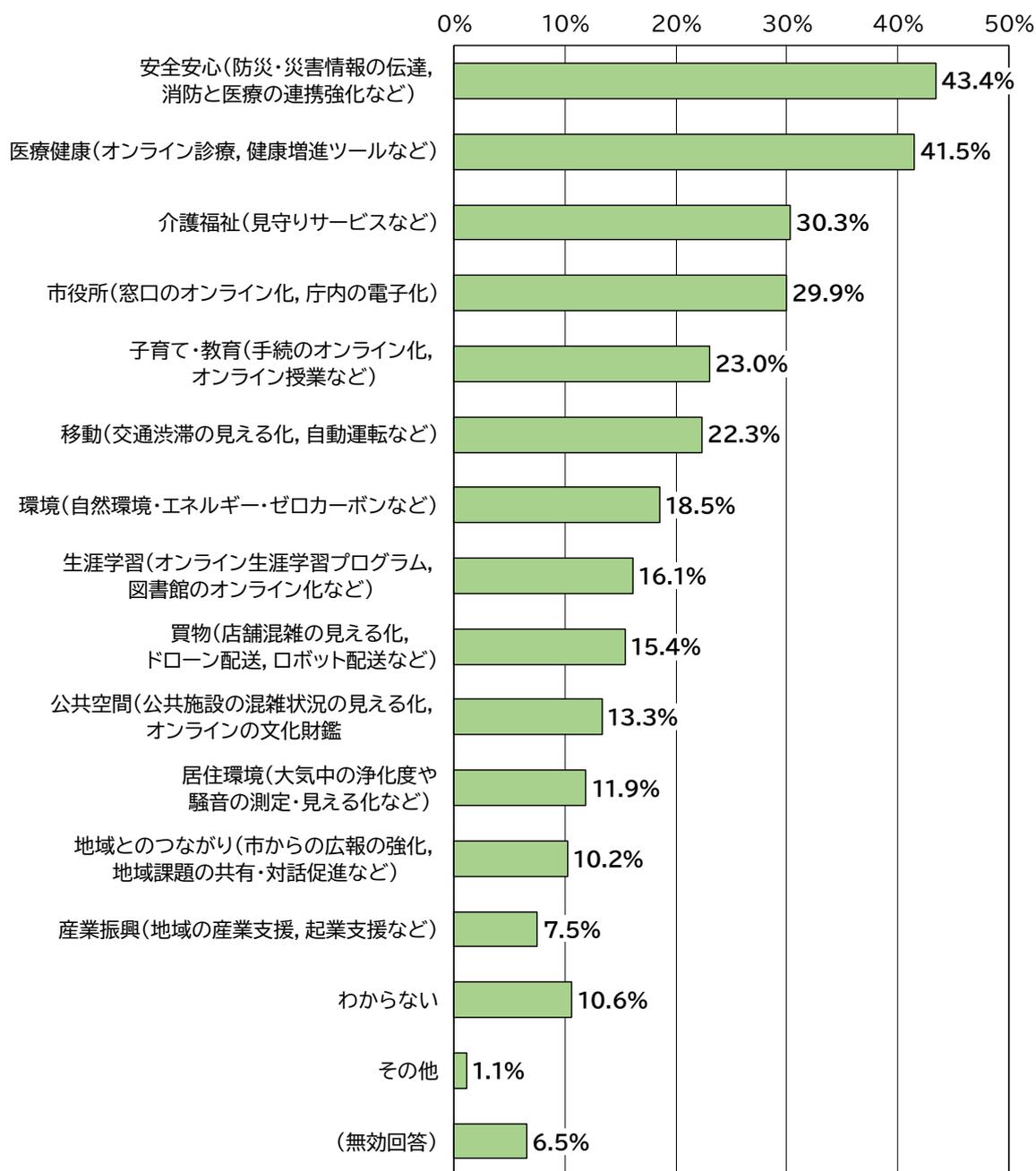
【図表 行政のデジタル化の推進に関する施策についてのご意見・ご提案】（53件）

- ・ゴミ袋を買う際にキャッシュレスで買えるようになるとありがたい。
- ・保育園の申し込みや病児保育など、電子申込で完結して欲しい。
- ・市役所が閉まっても利用できるサービスを増やしてもらいたい
- ・デジタルについていけない老人もいることを考えて下さい。
- ・行政で働いている人の使用しているデジタル機器を最新化し、ネットワークを利用した効率化をしてほしい。処理速度アップ。何世代も前の古い機器を使っているイメージ。

問 65) 調布市がスマートシティ※を目指すに当たって、ICT（情報通信技術）を活用してほしい分野や、日々の生活で不便さを感じている分野を教えてください。

<全体 (n=1,211) >

○「安全安心（防災・災害情報の伝達，消防と医療の連携強化など）」が 43.4%で最も高く，次いで「医療健康（オンライン診療，健康増進ツールなど）」の 41.5%，「介護福祉（見守りサービスなど）」の 30.3%の順となっています。



※ ICTを活用して，都市や地域の機能やサービスを効率化・高度化し，生活の利便性や快適性を向上させるとともに，人々が安心・安全に暮らせる街（出典：総務省）

<年齢層別>

○16～29 歳と 40～49 歳で「医療健康（オンライン診療，健康増進ツールなど）」，30～39 歳で「子育て・教育（手続のオンライン化，オンライン授業など）」，50 歳以上で「安全安心（防災・災害情報の伝達，消防と医療の連携強化など）」が最も高くなっています。

選択肢	合計	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
全体	1,211	27	87	132	196	254	99	108	162	140
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
安全安心（防災・災害情報の伝達，消防と医療の連携強化など）	526	5	25	50	83	118	51	51	79	62
	43.4%	18.5%	28.7%	37.9%	42.3%	46.5%	51.5%	47.2%	48.8%	44.3%
医療健康（オンライン診療，健康増進ツールなど）	502	11	37	50	97	116	50	44	49	46
	41.5%	40.7%	42.5%	37.9%	49.5%	45.7%	50.5%	40.7%	30.2%	32.9%
介護福祉（見守りサービスなど）	367	5	17	22	48	96	37	38	52	49
	30.3%	18.5%	19.5%	16.7%	24.5%	37.8%	37.4%	35.2%	32.1%	35.0%
市役所（窓口のオンライン化，庁内の電子化）	362	8	33	50	82	94	27	21	20	24
	29.9%	29.6%	37.9%	37.9%	41.8%	37.0%	27.3%	19.4%	12.3%	17.1%
子育て・教育（手続のオンライン化，オンライン授業など）	278	9	30	62	84	49	8	9	9	17
	23.0%	33.3%	34.5%	47.0%	42.9%	19.3%	8.1%	8.3%	5.6%	12.1%
移動（交通渋滞の見える化，自動運転など）	270	9	27	37	61	70	21	12	19	13
	22.3%	33.3%	31.0%	28.0%	31.1%	27.6%	21.2%	11.1%	11.7%	9.3%
環境（自然環境・エネルギー・ゼロカーボンなど）	224	1	10	25	37	48	25	22	28	27
	18.5%	3.7%	11.5%	18.9%	18.9%	18.9%	25.3%	20.4%	17.3%	19.3%
生涯学習（オンライン生涯学習プログラム，図書館のオンライン化など）	195	5	9	22	37	39	20	17	28	18
	16.1%	18.5%	10.3%	16.7%	18.9%	15.4%	20.2%	15.7%	17.3%	12.9%
買物（店舗混雑の見える化，ドローン配送，ロボット配送など）	186	8	19	31	35	43	14	12	12	10
	15.4%	29.6%	21.8%	23.5%	17.9%	16.9%	14.1%	11.1%	7.4%	7.1%
公共空間（公共施設の混雑状況の見える化，オンラインの文化財鑑賞）	161	7	14	26	30	33	14	10	17	9
	13.3%	25.9%	16.1%	19.7%	15.3%	13.0%	14.1%	9.3%	10.5%	6.4%
居住環境（大気中の浄化度や騒音の測定・見える化など）	144	2	12	15	23	29	17	12	18	16
	11.9%	7.4%	13.8%	11.4%	11.7%	11.4%	17.2%	11.1%	11.1%	11.4%
地域とのつながり（市からの広報の強化，地域課題の共有・対話促進など）	124	1	3	16	17	27	15	9	18	18
	10.2%	3.7%	3.4%	12.1%	8.7%	10.6%	15.2%	8.3%	11.1%	12.9%
産業振興（地域の産業支援，起業支援など）	91	3	5	8	17	18	15	8	9	8
	7.5%	11.1%	5.7%	6.1%	8.7%	7.1%	15.2%	7.4%	5.6%	5.7%
わからない	128	5	10	8	12	22	9	14	29	19
	10.6%	18.5%	11.5%	6.1%	6.1%	8.7%	9.1%	13.0%	17.9%	13.6%
その他	13	0	0	0	1	5	0	3	1	3
	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	2.0%	0.0%	2.8%	0.6%	2.1%
（無効回答）	79	1	1	3	5	5	5	11	19	28
	6.5%	3.7%	1.1%	2.3%	2.6%	2.0%	5.1%	10.2%	11.7%	20.0%

（上段：実数（人），下段：構成比）

回答割合が最も高い：



回答割合が2番目に高い：



<自由記述> 主な意見を抜粋

【図表 上記のように思う理由】（51件）

- ・ IT による効率化という面も大切ですが，IT を活用していかに暮らしやすくなるか，働きやすくなるか，という視点で進めて頂きたいです。
- ・ 子どもが小さい時は，手続きをしに役所へ行くのは厳しいです。
- ・ 紙申請や窓口の混雑は煩わしい。
- ・ 調布には電通大がある。せっかくの知識がそばにある利点を生かしてもっと ICT を活用している街を押し出せばいいと思う。

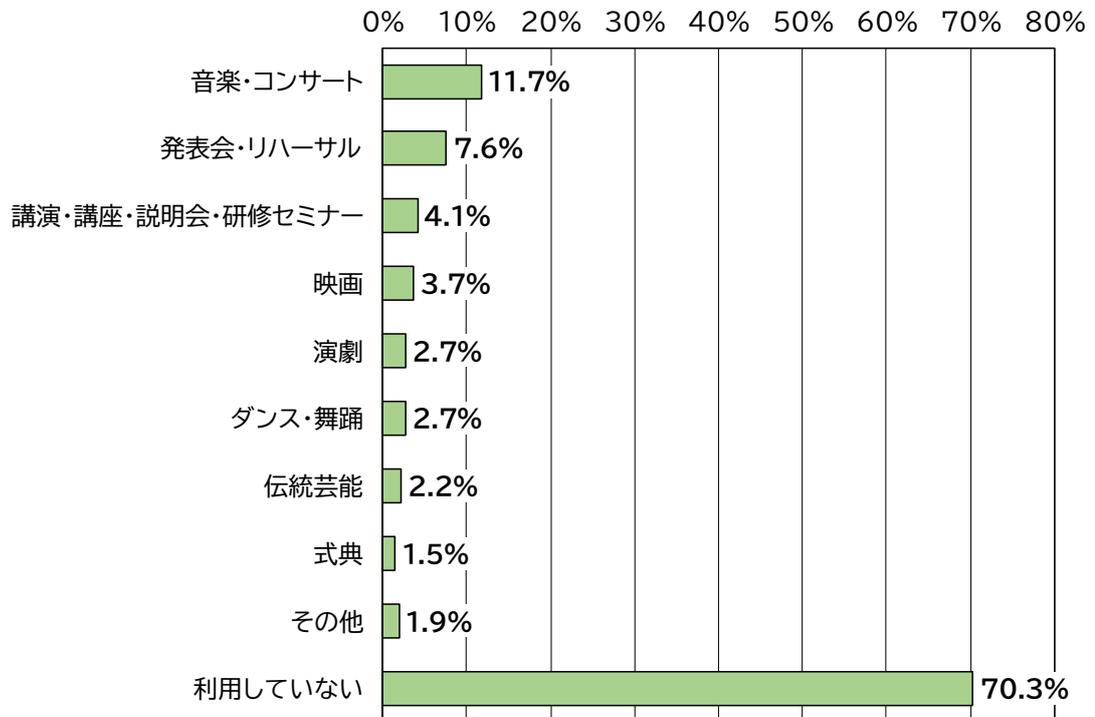
### 第3章 調査結果<公共施設マネジメント>

#### (4) 公共施設マネジメント

問 66) あなたは、この1年間に、どのような目的でグリーンホールを利用しましたか。

<全体 (n=1,211) >

○「音楽・コンサート」が11.7%で最も高く、次いで「発表会・リハーサル」の7.6%、「講演・講座・説明会・研修セミナー」の4.1%の順となっています。なお、「利用していない」は70.3%となっています。



<年齢層別>

○20～39歳と50歳以上の年齢層では、「音楽・コンサート」、16～19歳と40～49歳では、「発表会・リハーサル」が最も高くなっています。

選択肢	合計	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
全体	1,211	27	87	132	196	254	99	108	162	140
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
音楽・コンサート	142	3	4	7	22	22	13	16	28	26
	11.7%	11.1%	4.6%	5.3%	11.2%	8.7%	13.1%	14.8%	17.3%	18.6%
発表会・リハーサル	92	6	0	6	30	16	8	8	9	8
	7.6%	22.2%	0.0%	4.5%	15.3%	6.3%	8.1%	7.4%	5.6%	5.7%
講演・講座・説明会・研修セミナー	50	0	1	3	9	6	4	4	11	12
	4.1%	0.0%	1.1%	2.3%	4.6%	2.4%	4.0%	3.7%	6.8%	8.6%
映画	45	0	4	2	6	10	5	4	4	10
	3.7%	0.0%	4.6%	1.5%	3.1%	3.9%	5.1%	3.7%	2.5%	7.1%
演劇	33	0	2	2	8	3	5	1	7	5
	2.7%	0.0%	2.3%	1.5%	4.1%	1.2%	5.1%	0.9%	4.3%	3.6%
ダンス・舞踊	33	0	1	4	5	7	5	1	7	2
	2.7%	0.0%	1.1%	3.0%	2.6%	2.8%	5.1%	0.9%	4.3%	1.4%
伝統芸能	27	0	0	3	5	3	5	1	6	4
	2.2%	0.0%	0.0%	2.3%	2.6%	1.2%	5.1%	0.9%	3.7%	2.9%
式典	18	0	1	2	3	2	2	0	5	3
	1.5%	0.0%	1.1%	1.5%	1.5%	0.8%	2.0%	0.0%	3.1%	2.1%
その他	23	0	1	1	8	4	3	2	4	0
	1.9%	0.0%	1.1%	0.8%	4.1%	1.6%	3.0%	1.9%	2.5%	0.0%
利用していない	851	18	74	108	124	197	70	73	94	90
	70.3%	66.7%	85.1%	81.8%	63.3%	77.6%	70.7%	67.6%	58.0%	64.3%
(無効回答)	36	0	0	0	1	1	4	7	15	7
	3.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	0.4%	4.0%	6.5%	9.3%	5.0%

(上段：実数(人)，下段：構成比)

回答割合が最も高い：

回答割合が2番目に高い：

※網掛けは「利用していない」を除く各項目のうち、割合の高いもの

<同居人別>

○「3歳～5歳の子ども」では、「音楽・コンサート」と「発表会・リハーサル」、「小・中学生の子ども」では「発表会・リハーサル」、その他では「音楽・コンサート」が最も高くなっています。

選択肢	合計	配偶者	0歳～2歳の子ども	3歳～5歳の子ども	小・中学生の子ども	高校生世代～64歳の家族・同居人	65歳～74歳の家族・同居人	75歳以上の家族・同居人	家族・同居人はいない
全体	1,211	723	52	79	180	370	64	94	197
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
音楽・コンサート	142	79	4	5	31	48	8	19	20
	11.7%	10.9%	7.7%	6.3%	17.2%	13.0%	12.5%	20.2%	10.2%
発表会・リハーサル	92	71	2	5	47	29	6	10	4
	7.6%	9.8%	3.8%	6.3%	26.1%	7.8%	9.4%	10.6%	2.0%
講演・講座・説明会・研修セミナー	50	31	1	2	10	11	5	3	11
	4.1%	4.3%	1.9%	2.5%	5.6%	3.0%	7.8%	3.2%	5.6%
映画	45	24	1	2	9	10	2	7	9
	3.7%	3.3%	1.9%	2.5%	5.0%	2.7%	3.1%	7.4%	4.6%
演劇	33	21	1	4	9	6	3	2	6
	2.7%	2.9%	1.9%	5.1%	5.0%	1.6%	4.7%	2.1%	3.0%
ダンス・舞踊	33	25	1	4	8	12	1	6	3
	2.7%	3.5%	1.9%	5.1%	4.4%	3.2%	1.6%	6.4%	1.5%
伝統芸能	27	16	1	1	4	7	1	1	6
	2.2%	2.2%	1.9%	1.3%	2.2%	1.9%	1.6%	1.1%	3.0%
式典	18	12	0	2	6	8	2	1	5
	1.5%	1.7%	0.0%	2.5%	3.3%	2.2%	3.1%	1.1%	2.5%
その他	23	18	2	3	10	9	1	1	2
	1.9%	2.5%	3.8%	3.8%	5.6%	2.4%	1.6%	1.1%	1.0%
利用していない	851	493	43	53	81	262	42	63	151
	70.3%	68.2%	82.7%	67.1%	45.0%	70.8%	65.6%	67.0%	76.6%
(無効回答)	36	25	1	4	2	7	3	2	5
	3.0%	3.5%	1.9%	5.1%	1.1%	1.9%	4.7%	2.1%	2.5%

(上段：実数(人)，下段：構成比)

回答割合が最も高い：

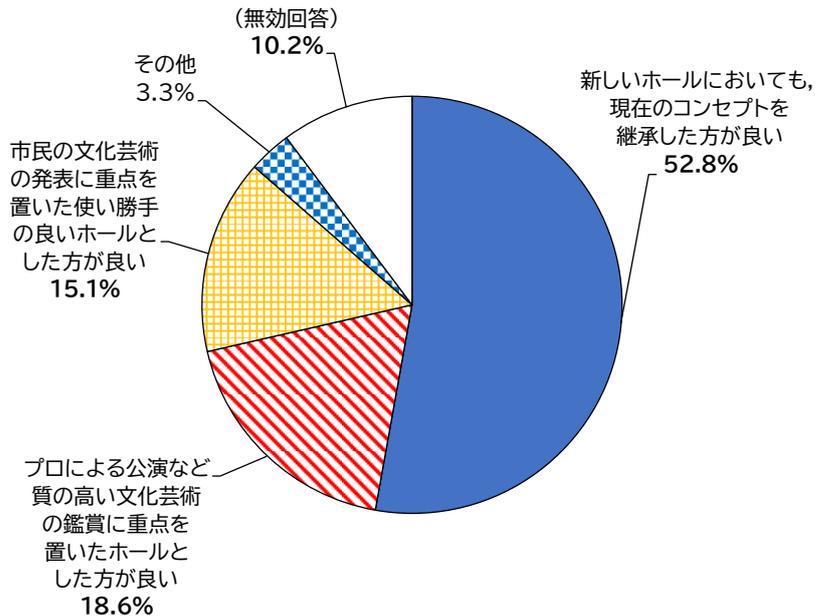
回答割合が2番目に高い：

※網掛けは「利用していない」を除く各項目のうち、割合の高いもの

問 67) 現在のグリーンホールの「質の高い文化芸術の鑑賞の場」であり、「市民の文化芸術の発表の場」である」というコンセプトについて、どう思いますか。

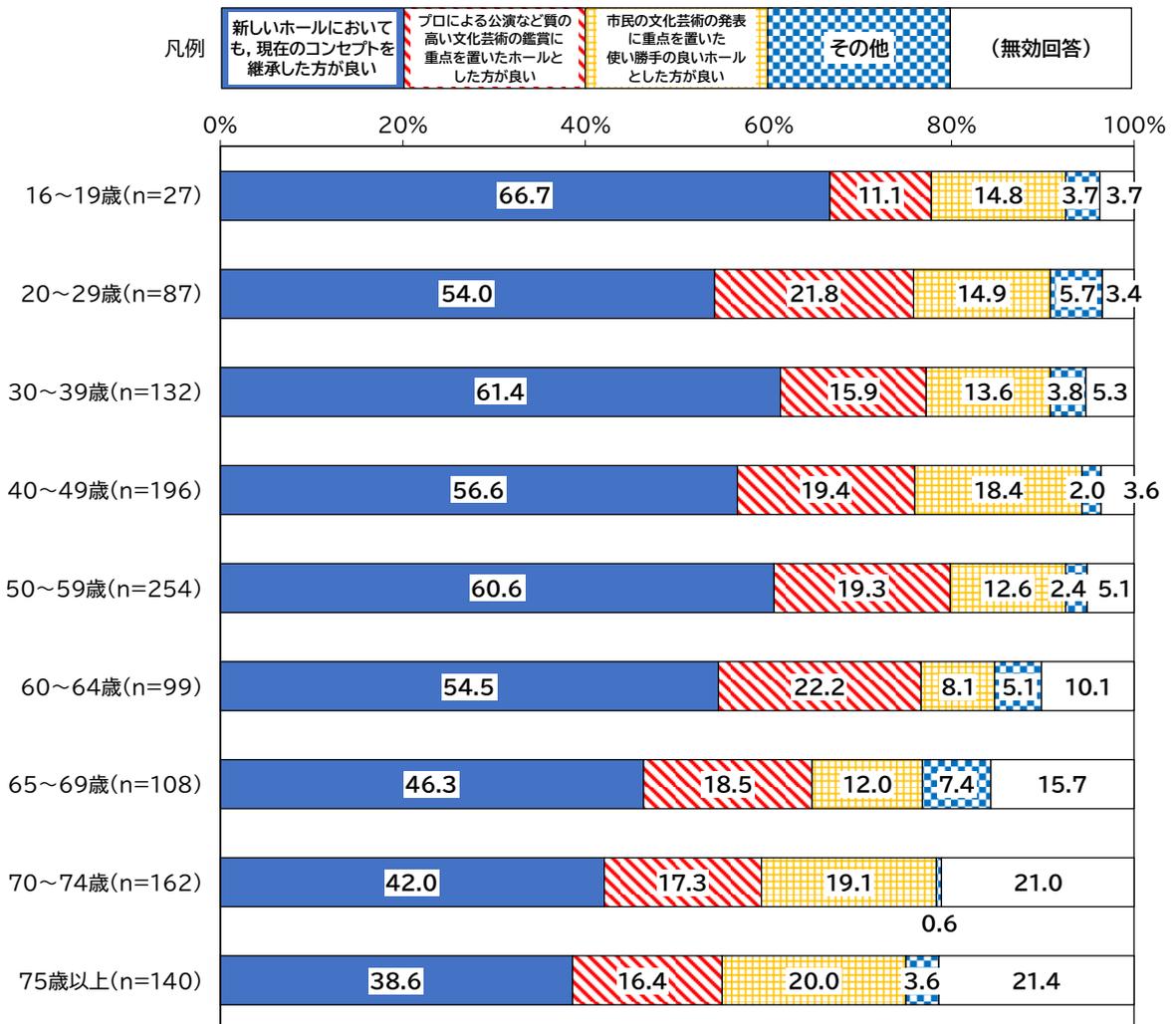
<全体 (n=1,211) >

○「新しいホールにおいても、現在のコンセプトを継承した方が良い」が 52.8%で最も高く、次いで「プロによる公演など質の高い文化芸術の鑑賞に重点を置いたホールとした方が良い」の 18.6%の順となっています。



<年齢層別>

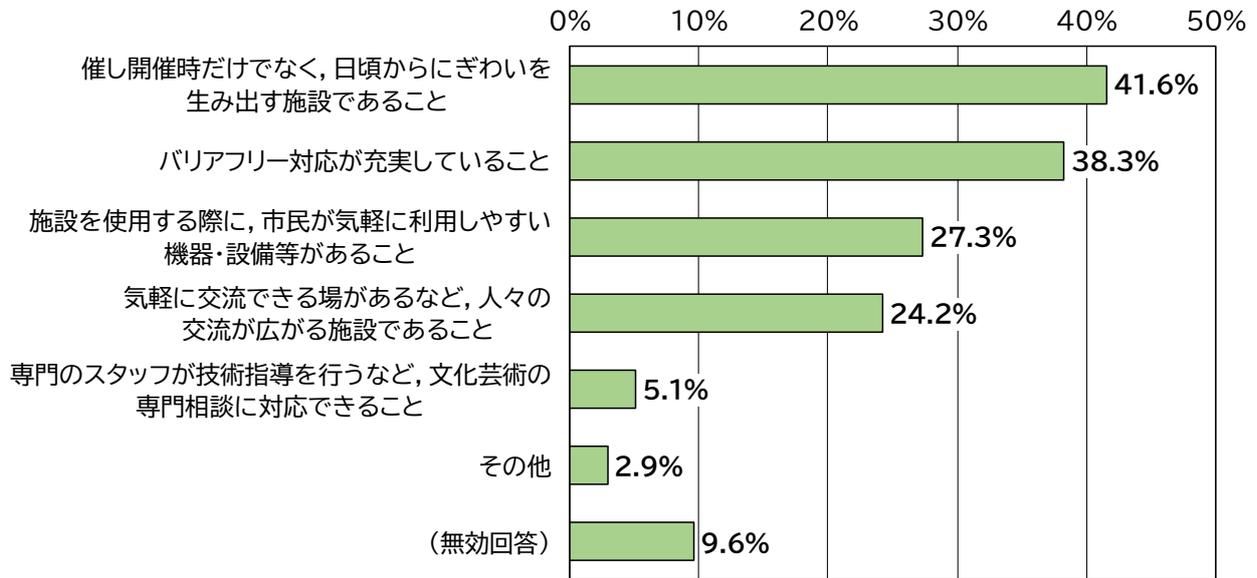
○16～19 歳, 30～39 歳, 50～59 歳では、「新しいホールにおいても、現在のコンセプトを継承した方が良い」が 60%を超えており、他の年齢層と比較して高くなっています。



問 68) グリーンホールの整備に当たり、特に重要だと思う項目は何ですか。

<全体 (n=1,211) >

○「催し開催時だけでなく、日頃からにぎわいを生み出す施設であること」が 41.6%で最も高く、次いで「バリアフリー対応が充実していること」の 38.3%、「施設を使用する際に、市民が気軽に利用しやすい機器・設備等があること」の 27.3%の順となっています。



<年齢層別>

○16～29歳と40～64歳では、「催し開催時だけでなく、日頃からにぎわいを生み出す施設であること」が「バリアフリー対応が充実していること」を上回っていますが、他の年齢層は、「バリアフリー対応が充実していること」が「催し開催時だけでなく、日頃からにぎわいを生み出す施設であること」を上回っています。

選択肢	合計	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
全体	1,211	27	87	132	196	254	99	108	162	140
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
催し開催時だけでなく、日頃からにぎわいを生み出す施設であること	504	11	33	54	100	118	43	38	56	49
	41.6%	40.7%	37.9%	40.9%	51.0%	46.5%	43.4%	35.2%	34.6%	35.0%
バリアフリー対応が充実していること	464	9	28	59	67	116	32	40	60	50
	38.3%	33.3%	32.2%	44.7%	34.2%	45.7%	32.3%	37.0%	37.0%	35.7%
施設を使用する際に、市民が気軽に利用しやすい機器・設備等があること	330	9	22	35	59	66	25	28	44	40
	27.3%	33.3%	25.3%	26.5%	30.1%	26.0%	25.3%	25.9%	27.2%	28.6%
気軽に交流できる場があるなど、人々の交流が広がる施設であること	293	4	25	30	43	55	21	24	48	42
	24.2%	14.8%	28.7%	22.7%	21.9%	21.7%	21.2%	22.2%	29.6%	30.0%
専門のスタッフが技術指導を行うなど、文化芸術の専門相談に対応できること	62	2	4	10	13	10	6	8	5	4
	5.1%	7.4%	4.6%	7.6%	6.6%	3.9%	6.1%	7.4%	3.1%	2.9%
その他	35	2	4	3	2	6	5	5	2	6
	2.9%	7.4%	4.6%	2.3%	1.0%	2.4%	5.1%	4.6%	1.2%	4.3%
(無効回答)	116	1	2	7	8	12	10	17	32	25
	9.6%	3.7%	2.3%	5.3%	4.1%	4.7%	10.1%	15.7%	19.8%	17.9%

(上段：実数(人)，下段：構成比)

回答割合が最も高い：

回答割合が2番目に高い：

